

障害のある労働者の職業サイクルに 関する調査研究（第5期）

－第5回職業生活前期調査（平成28年度）・
第5回職業生活後期調査（平成29年度）－

2019年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

障害のある労働者の職業サイクルに 関する調査研究（第5期）

—第5回職業生活前期調査（平成28年度）・
第5回職業生活後期調査（平成29年度）—

まえがき

障害者職業総合センターは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、わが国における職業リハビリテーションの中核的機関として、職業リハビリテーションに関する調査・研究、技法開発、専門職員の養成・研修等の事業を行っております。

この調査研究報告書は、当センター研究部門における「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第5期）」の成果としてとりまとめたものです。

本調査研究は、障害のある労働者の職業生活の全体像を捉えることを目的として、2008年度から16年計画の長期縦断調査を行っているところであり、今期は9年目・10年目の調査結果を基に報告します。

調査研究の実施にあたり、ご協力いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。

本報告書がたくさんの方々に活用され、障害者の雇用の促進と安定のための一助になれば幸いです。

なお、本調査研究のこれまでの成果は、資料シリーズNo. 50、No. 54、調査研究報告書No. 106、No. 118、No. 132にまとめておりますので併せてご活用ください。

2019年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

障害者職業総合センター

研究主幹 木原 亜紀生

執筆担当

高瀬 健一	障害者職業総合センター	主任研究員	概要、序文、第1章～第4章
大石 甲	障害者職業総合センター	研究員	概要、序文、第1章～第4章
田川 史朗	障害者職業総合センター	研究協力員	第1章～第4章
荒井 俊夫	障害者職業総合センター	研究協力員	第1章～第4章
伊芸 研吾	障害者職業総合センター	研究協力員	第1章～第4章

謝 辞

本調査研究を実施するにあたり、多くの方々から多大な協力を賜りました。

長年にわたり1,000名を超える障害のある皆様にアンケート調査に協力いただいています。皆様のおかげで貴重なデータを収集することができました。また、研究委員として、障害者関係団体、事業主関係団体、専門家の皆様から本調査研究について幅広い助言をいただきました。

ご協力いただいた皆様に御礼申しあげますとともに心より感謝申し上げます。

研究担当者

本調査研究は、障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）が担当した。

研究担当者、研究担当時の職名、担当した年次は以下のとおりである。

鈴木 徹	障害者職業総合センター	統括研究員	2016年度
松尾 義弘	障害者職業総合センター	統括研究員	2017年度～2018年度
高瀬 健一	障害者職業総合センター	主任研究員	2016年度～2018年度
大石 甲	障害者職業総合センター	研究員	2016年度～2018年度
西原 和世	障害者職業総合センター	研究協力員	2016年度
山本 美奈子	障害者職業総合センター	研究協力員	2016年度～2017年度
田川 史朗	障害者職業総合センター	研究協力員	2016年度～2018年度
荒井 俊夫	障害者職業総合センター	研究協力員	2017年度～2018年度
伊芸 研吾	障害者職業総合センター	研究協力員	2018年度

目 次

概要	1
序文（背景及び目的）	5
第1章 本調査研究の実施方法と実施経過	
第1節 調査の全体像	7
第2節 研究委員会	7
第3節 調査対象者	8
第4節 調査内容	9
第5節 調査の実施方法	10
第2章 調査結果	
第1節 調査対象者数と回収率	13
第2節 調査回答者の基本的属性	15
第3節 調査回答者の就労状況	21
第4節 調査回答者の生活状況	56
第5節 調査回答者の特徴と留意点について	65
第6節 今後の調査について	66
第3章 調査結果の分析経過	67
第4章 結果分析	
第1節 職場での確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係	73
第2節 「仕事満足度」を決定する要因の検討	82
巻末資料	
1 本文に掲載しなかった図表	93
2 第5回職業生活後期調査票	106
3 ニュースレター「サイクル便り」 No. 13	117
4 ニュースレター「サイクル便り」 No. 14	125

概 要

本調査研究報告書は、以下の構成となっている。

「序文」は、研究の背景、目的を述べている。「第1章」は、2008年に開始した障害のある労働者に対する16年間の長期縦断調査である本調査研究の実施方法と実施経過を述べている。「第2章」は、第1期調査から第4期調査の結果とあわせて第5期調査結果をまとめるとともに、今後の調査への課題等を整理した。「第3章」は、第4期調査までの調査結果の分析経過をまとめている。「第4章」は、新たに追加した項目に関する分析結果と今までの調査結果を用いた仕事満足度を決定する要因に関する分析結果について考察を含めてまとめている。

序文（背景及び目的）

障害者の安定した円滑な就労をすすめていくためには、障害者の職業サイクル（就職、就労継続、離職）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。このため、障害のある労働者の就職、就労の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにするための長期継続調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就労の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得るため、本調査研究を行うこととした。

第1章 本調査研究の実施方法と実施経過

・調査の全体像

2008年度から2023年度まで16年間を調査期間として計画された長期縦断調査（パネル調査）である。

2年間の調査を一つの「期」として区切り、職業生活の開始から年月の浅い若年期の者を対象とする「職業生活前期調査」と、一定の就労経験を持つ壮年期の者を対象とする「職業生活後期調査」の2つのグループに分け、同一の調査票を用いて各グループに隔年の調査を実施している。

調査対象者は、当事者団体、事業所、就労支援施設等を通じての紹介により、研究協力の同意を得た障害のある労働者1,026人を登録して開始した。調査対象者は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害のいずれか、またはこれらの重複障害がある者とした。ただしそれぞれの障害の詳細は把握していない。調査開始時点での年齢は、下限を義務教育終了後の15才、上限は55才とした。就労状況については、企業や自営業で週20時間以上就労している者を対象として調査を開始し、その後、離職した場合であっても調査を継続して、その後のキャリア形成の状況を確認している。なお、回収率低下のため第3期調査に際し調査対象者の補充を行った。

・研究委員会

調査の実施及び結果の分析と解釈に際し、関係する様々な立場からの専門的知見に基づく助言を得ることを目的として研究委員会を設置した。第5期は2018年度に学識経験者、当事者団体関係者、事業主団体関係者により構成する研究委員会を設置した。

・調査内容

障害のある者の職業生活を幅広く捉える観点から、調査対象者の基本的な属性に関すること、職業に関すること、職業以外の生活に関することについての質問とし、後二者については出来事等の事実に関する質問と満足度等の意識に関する質問を含めた。調査内容は原則として第1期調査から第8期調査まで共通としたが、時勢の変化を踏まえた質問の追加、制度変化に伴う行政サービス等の名称変更、調査対象者の加齢の考慮、質問の文意が伝わりにくかったと推測された項目等については、研究委員会での議論に基づき、質問や選択肢の追加、設問の表現の変更、但し書きの付加を行った。

第5期では、2016年4月より改正障害者雇用促進法が施行され、すべての事業主に雇用の分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供が義務付けられたことを踏まえて、「事業主に対する障害者への差別禁止指針と合理的配慮の指針について、聞いたり読んだりしたことがあるか」、「平成28年4月以降に職場において支障となっていることの確認や話合いの機会があったかどうか」という新たな設問を追加した。

・調査の実施方法

調査対象者本人に対する郵送調査とした。調査日は調査年度7月1日としている。調査票の形式は障害の特性に応じて選択できるよう5種類を用意している。調査対象者から継続的な協力を得るための取組として、調査対象者に対して毎年発行するニュースレターの送付と回答者に対して謝品の贈呈を行っている。

第2章 調査結果

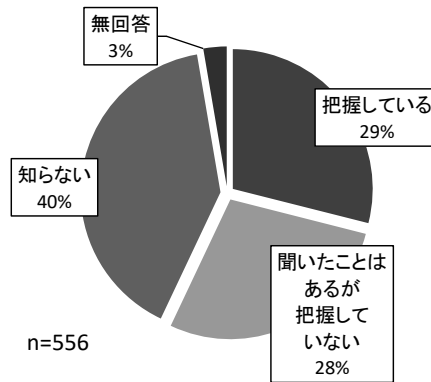
・第5期調査の結果（抜粋）

第5期は、視覚障害者113人、聴覚障害者228人、肢体不自由者234人、内部障害者119人、知的障害者282人、精神障害者115人、計1,091人を対象に調査実施した。このうち前期調査対象者は544人、後期調査対象者は547人。回収数と回収率は、前期調査は342人（63%）、後期調査は318人（58%）。就労者数と就労率は、視覚障害者64人（93%）、聴覚障害者108人（90%）、肢体不自由者110人（76%）、内部障害者67人（84%）、知的障害者155人（88%）、精神障害者52人（74%）。（図表 概－1）

	調査対象者		回収数		うち就労者数
	前期	後期	前期	後期	
視覚障害	51	62	33 (65%)	36 (58%)	64 (93%)
聴覚障害	115	113	65 (57%)	55 (49%)	108 (90%)
肢体不自由	100	134	58 (58%)	86 (64%)	110 (76%)
内部障害	33	86	22 (67%)	58 (67%)	67 (84%)
知的障害	183	99	127 (69%)	50 (51%)	155 (88%)
精神障害	62	53	37 (60%)	33 (62%)	52 (74%)
計	544	547	342 (63%)	318 (58%)	556 (84%)

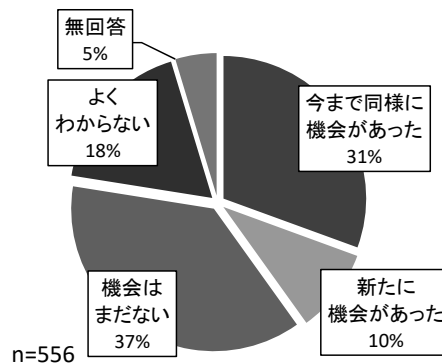
図表 概－1 第5期調査の対象者と回収状況

就労者556人の、障害のある者への差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況は、「内容を把握している」と「名称は聞いたことがあるが、内容は把握していない」を合わせると半数を超える一方で、約4割の者が「知らない」と回答していた。（図表 概－2）



図表 概－２ 障害のある者への差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況

就労者 556 人の、2016 年 4 月以降の職場での合理的配慮に関する話合いの機会の状況は、「今までと同じように機会があった」者と「新たに機会があった」者を合わせると約 4 割の者に話合いの機会がある一方で、話合いの「機会はまだない」との回答も約 4 割あった。（図表 概－３）



図表 概－３ 2016 年 4 月以降の職場での合理的配慮に関する話合いの機会の状況

調査に関する今後の課題として、調査票のわかりやすさの向上について、調査対象者数の減少及び回収率の低下について、調査へのインターネットの活用について、調査結果を踏まえた詳細情報の確認にかかるヒアリング調査について、具体的な改善案等を含めて取りあげた。なお、第 8 期の調査終了を見据えた研究計画については、第 8 期調査終了によるデータセットの完成を踏まえて、全ての調査結果を総合的に活用した研究として、具体的な研究テーマの設定及び補足調査研究の必要性等の検討について、第 6 期の研究委員会等における議論の開始について言及した。

第 3 章 調査結果の分析経過

第 1 期から第 4 期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載する他、複数の調査項目の結果を用いて様々な結果分析を実施しており、これまでの結果分析の経過を踏まえ、第 5 期では仕事の満足度に着目して分析を実施することとした。

第 4 章 結果分析

・職場での確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係

合理的配慮の調整にあたり重要となる、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が、障害

のある労働者の仕事の満足度にどのように影響しているかクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて分析を行った。

その結果、全障害でみると「仕事の内容」「給料・待遇（労働条件）」「職場の人間関係」「職場の環境（施設整備等）」の4つの仕事の満足度すべてにおいて「今までと同様に確認や話合いの機会があった」場合に、「確認や話合いの機会はまだない」よりも有意に満足度が高かった。また、「新たに確認や話合いの機会があった」と「確認や話合いの機会はまだない」の間には有意な差は検出されなかった。

よって、障害者と事業主の間で、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が継続してあることが相互理解を促し、障害者にとってより満足できる仕事の実現に寄与したと考えられるとともに、制度改正を受けて新たに話合いを開始して間もない段階では障害者と事業主の相互理解は醸成されにくいことが示唆され、今後、更なる確認や話合いの機会を継続していくことが求められると考えられた。

・「仕事満足度」を決定する要因の検討

本研究で取得したパネルデータは、ある状態や状況と別の状態や状況との間の因果関係をより正確に、また時系列の変化を踏まえて検証することが可能になるという性質を持つことを踏まえ、仕事の満足度に着目して、ランダム効果モデルによる回帰分析を行った。

その結果、「仕事満足度」は「就労継続意図」及び「2年後の離職」に有意に関係していた。また「仕事満足度」の決定要因の分析結果は、会社や職場の関係者へ自身の障害を説明している場合に「仕事満足度」が有意に高いこと、配慮を必要としている項目が多い者ほど「仕事満足度」が有意に低いこと、援助者がいなくなる出来事があった場合に「仕事満足度」が有意に低いことを確認した。

よって、職場において、周囲に対して自身の障害について説明すること、本人が必要と感じている配慮が行き届くこと、常に適切な援助者を配置することの重要性が示唆された。加えて、昇給の有無も「仕事満足度」に有意に影響しており金銭的な報酬の重要性が再確認された。また、現職期間と「仕事満足度」の関係については、就労当初は時間が経つにつれて「仕事満足度」は下がるが、その後上昇に転じる、U字の関係があることが示された。一般の労働者においても同様の結果が報告されており、障害の有無に関わらず現職期間と仕事の満足度の関係はU字型を描く非線形である可能性が示唆される結果が得られた。

以上の2つの分析については今後の調査の継続によるデータの積み重ねを踏まえて更に分析を進めたい。

序文（背景及び目的）

障害者の安定した円滑な就労をすすめていくためには、障害者の職業サイクル（就職、就労継続、離職（退職等）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。このため、本研究は、障害のある労働者の就職、就労の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにするために長期継続調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就労の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることを目的として実施している。

2008 年度にスタートした本研究における長期継続調査はパネル調査方式を採用している。同じ者（同一対象）に同じ質問を一定間隔で複数回尋ねるパネル調査によって複数時点の情報を収集したパネルデータを構築し、同一対象において前回と今回の調査間にあった変化を調べることで、個人の変わらない要素を考慮しながら、変化した部分だけを計量的に分析し、因果関係の推定をより精確に行うことができる。

この特徴を踏まえて、対象群と統制群を用いた実験ができない社会科学の分野で開発された方法であり、パネルデータにより、人々のダイナミックな行動変化について情報を入手でき、動学的な分析が可能になる。その反面、成果が出るまで長い時間と多額の費用を要するという問題がある。そして時には、追跡の過程で特定の属性を持った者（例えば単独居住の未婚者や、新婚で居住地を変更した者等）を追跡することが難しくなり、パネルデータに歪みが発生してしまう可能性がある。

こうした問題点があるにもかかわらず、パネルデータの有効性が強く認識され、諸外国や日本でパネル調査が開始されるようになった。

欧米では賃金や就業、家計などをテーマとしたパネル調査が 1960 年代後半からスタートした。代表的な調査では、PSID（The Panel Study of Income Dynamics アメリカ）や、NLS（National Longitudinal Surveys アメリカ）、BHPS（The British Household Panel Survey イギリス）、NSFH（The National Survey of Families and Households アメリカ）などがあり、半世紀近くプロジェクトが継続し、大規模なサンプルサイズのパネルデータを用いた実証研究が蓄積されてきている。

日本では、東京都老人総合研究所が 1987 年から「高齢者の生活と健康に関する長期縦断調査」を実施し、早稲田大学人間総合研究センターでは 1991 年から「からだ・こころ・つながりの発達」調査を実施している。

（財）家計経済研究所は 1993 年から「消費生活に関するパネル調査」を実施し、女性の就業、結婚、出産、低所得階層の固定化や変動等に関する研究成果を報告している。ニッセイ基礎研究所は 1997 年から「暮らしと生活設計に関する中高年パネル調査」を行っている。また、2000 年代前後には政府や大学・研究機関によるサンプルサイズの大きなパネル調査が実施されるようになった。その一例として、厚生労働省による「国民の生活に関する継続調査」「中高年者の生活に関する継続調査」、独立行政法人労働政策研究・研修機構による「初期キャリア研究会調査」等がある。

本研究はこのような時流を踏まえて、2008 年度から 2023 年度までの 16 年間にわたる、障害のある労働者のキャリアに関するパネル調査を計画し、継続実施している。

参考文献

- 1) 筒井淳也・水落正明・保田時男（編）：パネルデータの調査と分析・入門，PP. 1-10，ナカニシヤ出版（2016）
- 2) 樋口美雄・太田清・新保一成：入門 パネルデータによる経済分析，PP. 3-16，日本評論社（2006）

第 1 章

本調査研究の実施方法と実施経過

第1章 本調査研究の実施方法と実施経過

障害のある労働者の職業生活の全体像を捉えるという目的から、本調査は身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害）、知的障害、精神障害のある労働者を対象とした長期間の縦断調査で、調査対象者を固定して行うパネル調査として設計された。本調査を効果的に実施するため、研究委員会を設置し、調査対象者の選定方法及び募集方法、調査内容、調査の具体的な実施方法、また、調査結果の分析方法や解釈について検討した。なお、本研究の内容・調査方法等は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の調査研究倫理審査委員会による倫理審査の結果、妥当と認められている（受付 No. 28 年度-02）。

第1節 調査の全体像

本調査は平成20年度から平成35年度までの16年間の長期縦断調査として計画された。2年間を一つの「期」として区切り、全8期の計画とした。登録された調査対象者（調査パネル）を年齢によって「職業生活前期調査」対象者と「職業生活後期調査」対象者の2つのグループに分け、各グループに隔年で調査を実施した。職業生活の開始から引退までを調査すると長期間を要することから、職業生活の開始から年月の浅い若年期の者を対象とする調査と、一定の就労経験を持つ壮年期の者への調査を並行して行うことで、職業生活の全体像の把握に近づくことを目指した。

平成28年度から平成29年度に第5期調査を行い、計画された全8期分の調査のうち5期分までが実施済みとなった。これまでに実施した調査及び今後実施予定の調査、また、本調査に関して当機構が発行した報告書類の一覧は以下のとおりである。（図表1－1）

	職業生活前期調査	職業生活後期調査	調査結果に係る報告書（括弧内は発行年）
第1期	平成20年度（2008年度）	平成21年度（2009年度）	資料シリーズNo.50（2010）、No.54（2010）
第2期	平成22年度（2010年度）	平成23年度（2011年度）	調査研究報告書No.106（2012）
第3期	平成24年度（2012年度）	平成25年度（2013年度）	調査研究報告書No.118（2014）
第4期	平成26年度（2014年度）	平成27年度（2015年度）	調査研究報告書No.132（2016）
第5期	平成28年度（2016年度）	平成29年度（2017年度）	調査研究報告書 No. 148（2019）※本報告書
第6期	平成30年度（2018年度）	平成31年度（2019年度）	-
第7期	平成32年度（2020年度）	平成33年度（2021年度）	-
第8期	平成34年度（2022年度）	平成35年度（2023年度）	-

図表1－1 調査の全体像

第2節 研究委員会

調査の実施及び結果の分析と解釈に際し、関係する様々な立場からの専門的知見に基づく助言を得ることを目的として研究委員会を設置した。第5期については、第4期までの検討により調査の大枠が定まったことから、平成28年度及び平成29年度には研究委員会を設置せず第4期委員へ個別に調査票の新規追加項目等について意見聴取し、平成30年度に学識経験者、当事者団体関係者、事業主団体関係者により構成する研究委員会を設置し、8月21日に開催した。第5期の調査結果について報告した後に本調査の意義や今後に期待される取組等について議論した。（図表1－2）

第5期(平成30年度)	
学 識 経 験 者	吉光 清(座長) 元 九州看護福祉大学社会福祉学科 教授
	今田 幸子 元 独立行政法人労働政策研究・研修機構 統括研究員
	嶋崎 尚子 早稲田大学文学学術院 教授
障 害 当 事 者 団 体 ・ 事 業 主 団 体	工藤 正一 社会福祉法人日本盲人会連合 総合相談室長
	大竹 浩司 一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事
	飯塚 善明 社会福祉法人日本身体障害者連合会 常務理事兼事務局長
	松崎 伸一 全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会委員長
	小幡 恭弘 公益社団法人全国精神保健福祉会連合会 事務局長
	金子 鮎子 特定非営利活動法人全国精神保健職親会 常務理事
	畠山 千蔭 東京経営者協会 障害者雇用アドバイザー

図表 1－2 研究委員一覧（敬称略）（第5期）

第3節 調査対象者

1 調査対象者

本調査における「障害」及び「障害者」の範囲は、基本的には「障害者の雇用の促進等に関する法律」（以下、「障害者雇用促進法」という。）に即するものとした。調査結果の集計及び分析を行う上では、調査対象者を「視覚障害」「聴覚障害」「肢体不自由」「内部障害」「知的障害」「精神障害」の6つに区分した。

労働者の年齢層を幅広く調査対象とすることとし、調査開始時点での年齢の下限は、義務教育終了後の15才とし、上限は16年間の継続調査という点を考え、概ね55才とした。

「第1節 調査の全体像」の図表1－1において示したように、調査対象者全体を2つのグループに分け、平成20年度の調査開始時点で40才未満の対象者への調査を「職業生活前期調査（以下、「前期調査」という）」、調査開始時点で40才以上の対象者への調査を「職業生活後期調査（以下、「後期調査」という）」とした。

2 募集方法

各障害の当事者団体や家族団体（以下、「当事者団体等」という）、障害者を多数雇用する事業所、職業リハビリテーション機関の協力を得て調査対象者の募集を行った。具体的な手続きとしては、当事者団体等の事務局や事業所担当者、職業リハビリテーション機関の担当者に依頼して募集要件に該当する会員や従業員または利用者を紹介いただき、紹介された個人に対して調査の内容や今後の実施計画についての説明文書と同意書を送付した。同意が確認できた場合のみ、調査対象者として氏名や連絡先等の個人情報事務所に登録し、個別のID番号を設定した上で調査票の発送を行った。

3 第3期調査における調査対象者の補充

前述のように、説明と同意の手続きを経て調査対象者を確保したが、調査期間の途中で様々な事情により

やむを得ず調査を中止する事例が一定数生じた。調査対象者の減少と回収率低下により、後半の調査において十分な分析が行えない恐れが考えられたため、第3期調査に際して調査対象者の補充を行った。

第4節 調査内容

調査内容は、障害のある労働者の職業生活を幅広く捉える観点から、調査対象者の基本的な属性に関すること、職業に関すること、職業以外の生活に関することについての質問とし、後二者については出来事等の事実に関する質問と満足度等の意識に関する質問を含めた。

調査内容は原則として第1期調査から第8期調査まで共通としたが、研究委員会での議論に基づき、時勢の変化を踏まえた質問や選択肢の追加、設問の表現の変更、但し書きの付加を行っている。これらの変更の主な理由としては、制度変化に伴う行政サービス等の名称変更、調査対象者の加齢の考慮、無回答が多い等の状況から質問の文意が伝わりにくかったと推測されたこと等が挙げられた。選択肢の追加や設問の表現変更に際しては、継続調査の利点を維持するため、できるだけ過去の調査期の回答を新しい調査票の回答に対応させて読み換えられるように努めた。

調査対象者本人の基本的属性に関する質問は第1期調査（一部の項目は第2期調査）で質問した。就労状況や生活状況、意識等の変化することがある事象についての質問は毎回の調査に設けるが、調査票の分量を抑える目的から、一部の項目については隔回の調査とした。

第5期では、平成28年4月より改正障害者雇用促進法が施行され、すべての事業主に雇用の分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供が義務付けられたことを踏まえて、「事業主に対する障害者への差別禁止指針と合理的配慮の指針について、聞いたり読んだりしたことがあるか」、「平成28年4月以降に職場において支障となっていることの確認や話合いの機会があったかどうか」という新たな設問を追加した。

調査内容の一覧について、図表1－3から図表1－5にまとめた。第4期以降の前期調査と後期調査は同様の調査項目を用いており、第5期調査で使用した職業生活後期調査票を巻末資料に掲載した。

	質問の内容	備考
第1期調査（一部は第2期調査） のみの質問	・性別 ・生年月日 ・障害について診断を受けた年齢 ・学歴 ・結婚歴 ・子どもの有無、人数、年齢 ・持っている資格や免許	自由記述
繰り返しの質問	・障害者手帳の有無と種類、等級 ・家族構成、同居者 ・住居種類 ・現在通っている学校の有無と種類 ・最近2年間で新しく取得した資格や免許 ・最近2年間で生活の上のできごと ・普段の生活で一番楽しみにしていること ・近い将来(5年後くらいまで)に実現したいこと ・生活の満足度	自由記述 自由記述 自由記述
奇数期調査のみ	・障害年金受給の有無 ・主な収入源（給与、年金、家族の収入等） ・経済的に困ったときに相談する相手	
偶数期調査のみ	・地域行事や集まりへの参加状況 ・地域生活での困りごとに関する相談先 ・病院等への通院頻度 ・福祉サービスの利用状況 ・体調や健康に関しての相談先 ・体力や健康面で心配なこと	自由記述 自由記述

図表 1－3 基本的な属性及び生活面に関する質問

	質問の内容	
第1期調査のみの質問	・初めて就職した年齢 ・初めて就職する前の状況	
繰り返しの質問	・就労の有無 ・仕事をする上で重視すること ・仕事をする上で必要な配慮 ・会社や会社の者に望むこと ・雇用分野における障害者の差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況 ・仕事に関して困ったことがある時に相談する相手	(第5期調査追加) 奇数期調査のみ
就労中の人への質問	・就労形態 ・職務内容 ・1週間の労働時間と休日数 ・1ヶ月の給与と1年間の賞与 ・通勤方法、通勤の所要時間 ・勤務先の企業等の規模(従業員数) ・前回調査と同じ勤務先かどうか ・現在の職場で働き始めた年齢 ・職場への障害の説明の程度 ・職業生活の満足度 ・定年制度の有無と定年年齢 ・働いていたい年齢 ・仕事をする理由 ・現在の仕事の継続意志 ・最近2年間の仕事上のできごと ・現在の職場で得られている配慮 ・雇用分野における障害者の差別禁止及び合理的配慮の提供義務の施行日(平成28年4月)以降の、職場における話合いや確認の実施状況	(第5期調査追加)
就労中でない人への質問	・過去2年間の就労経験の有無 ・前職を離職した理由 ・今後の就職の意志、就職活動の状況 ・(就職意志がある場合)希望する働き方 ・(就職意志がある場合)仕事を探すときに相談する相手 ・(職業生活から引退した場合)引退理由	

図表 1－4 職業面の質問

質問の内容	備考
・調査への意見、要望	自由記述
・回答にあたっての支援者の有無	自由記述
・(回答にあたって支援者がいる場合)支援者の詳細	自由記述
・回答の日付	

図表 1－5 その他の質問

第5節 調査の実施方法

1 調査の実施方法

調査対象者本人に対する郵送調査とした。調査年度7月1日を調査日とし、その前後に調査票を発送した。概ね1ヶ月から1ヶ月半の回答期間を設けて回答締切日を定めた。調査票の形式は巻末資料として掲載した基本形式の他、障害の特性に応じて選択できるよう以下の5種類を用意し、本人の希望を確認の上で送付した。

- ①A3サイズに拡大印刷したもの(対象:視覚障害のある者)
- ②点字に翻訳したもの(対象:視覚障害のある者)
- ③音声読み上げソフト対応のテキストファイル(対象:視覚障害のある者)
- ④キーボード操作で回答できる形式の電子ファイル(対象:主に上肢に障害のある者)
- ⑤漢字に読み仮名をふり、平易な表現にしたもの(対象:知的障害のある者)

調査への回答は原則として本人に依頼したが、必要な場合は家族等の周囲の者の支援を受けて回答しても構わない旨を付記し、支援を受けた場合は、その旨を記載するように依頼した。

2 回収データの取り扱い

回収された回答は ID 番号と関連づけたデータとして管理し、ID 番号毎に回答の経時的変化を追うことができるようにした。分析上では個人の識別にはすべて ID 番号を使用した。ID 番号に紐づけられた個人情報を取り扱う際にはネットワークに接続しない専用パソコンを使用し、個人情報を含む紙媒体と電子媒体のすべては施錠した場所で管理した。

3 継続的協力を得るための取組

長期縦断調査を効果的に実施するために回収率の維持は重要であるため、調査対象者から継続的な協力を得るための取組として、ニュースレターの送付と謝品の贈呈を行った。

ニュースレターは「サイクル便り」と称し、調査対象者全員に対し、年 1 回程度発行した。内容は、調査結果を抜粋して報告することが中心であるが、障害のある者の職業生活に資する社会資源の紹介や関連するトピック等についても掲載し、関心を引く内容になるように努めた。ニュースレターについても調査票と同じく、調査対象者の障害に応じて、拡大印刷や点字、音声読み上げソフト対応のテキストファイル等、障害特性に応じた形式で作成した。第 5 期に作成・送付したニュースレターを巻末資料として掲載した。

調査回答者に対する謝品は、クオカードまたは図書カードのどちらかを希望に応じて簡易書留により送付した。

第2章

調査結果

第2章 調査結果

以下、第4節までは第1期調査から第4期調査の結果と併せて第5期調査結果を掲載する。第5節は、本調査回答者の特徴と留意点について、第6節は、第5期までの調査結果を基に第6期調査以降の今後の調査への課題等について整理した。

調査対象者は6つの障害グループのいずれかに属している。また、特に記載のない場合、男女の区別なく集計している。

第1節 調査対象者数と回収率

1 調査対象者数

調査対象者の人数は図表2-1-1のように推移している。第3期調査で対象者数が増加しているのは、第1章第3節で記した調査対象者の補充を行ったためである。補充した調査対象者の人数は図表2-1-2に示した。

図表2-1-1 調査対象者数（単位：人）

	第1期			第2期			第3期			第4期			第5期		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
視覚障害	57	70	127	55	68	123	56	68	124	56	65	121	51	62	113
聴覚障害	103	106	209	103	105	208	128	127	255	125	116	241	115	113	228
肢体不自由	111	163	274	110	156	266	113	153	266	108	140	248	100	134	234
内部障害	35	48	83	35	47	82	36	92	128	36	90	126	33	86	119
知的障害	137	100	237	136	94	230	197	105	302	191	101	292	183	99	282
精神障害	51	45	96	51	43	94	68	56	124	66	55	121	62	53	115
計	494	532	1,026	490	513	1,003	598	601	1,199	582	567	1,149	544	547	1,091

図表2-1-2 第3期に補充した調査対象者数（単位：人）

	補充数		
	前期	後期	計
視覚障害	2	2	4
聴覚障害	31	24	55
肢体不自由	4	7	11
内部障害	2	47	49
知的障害	67	20	87
精神障害	21	15	36
計	127	115	242

第5期調査の実施にあたり、調査対象者は177人減少して1,091人であった。図表2-1-3では第5期調査において新たに中止等を確認した数字を示した。調査対象者数減少の理由としては、「対象者本人や家族から調査への協力中止の申し出があった場合」「転居等により住所不明になった場合」「対象者本人が死去した場合」の3つが挙げられる。

図表 2－1－3 第5期調査票送付後に減少した調査対象者数（単位：人）

	協力中止			住所不明			死去		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
視覚障害	1	1	2	4	0	4	0	1	1
聴覚障害	0	0	0	4	2	6	0	1	1
肢体不自由	0	0	0	4	0	4	0	0	0
内部障害	0	0	0	3	1	4	0	4	4
知的障害	0	1	1	6	2	8	1	0	1
精神障害	1	0	1	4	1	5	0	0	0
計	2	2	4	25	6	31	1	6	7

2 回収率

各調査期の調査票の回収数と回収率は図表 2－1－4 のとおりである。なお第5期調査で初めて回答があった対象者は、聴覚障害 1 名、肢体不自由 3 名、知的障害 2 名の計 6 名であった。

図表 2－1－4 回収数（単位：人）と回収率（括弧内）

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
視覚障害	48 (84%)	56 (80%)	39 (71%)	39 (57%)	36 (64%)	44 (65%)	35 (63%)	40 (62%)	33 (65%)	36 (58%)
聴覚障害	83 (81%)	82 (77%)	55 (53%)	58 (55%)	78 (61%)	81 (64%)	70 (56%)	75 (65%)	65 (57%)	55 (49%)
肢体不自由	93 (84%)	123 (75%)	78 (71%)	96 (62%)	71 (63%)	100 (65%)	63 (58%)	87 (62%)	58 (58%)	86 (64%)
内部障害	31 (89%)	42 (88%)	27 (77%)	34 (72%)	23 (64%)	78 (85%)	24 (67%)	68 (76%)	22 (67%)	58 (67%)
知的障害	122 (89%)	76 (76%)	107 (79%)	61 (65%)	162 (82%)	75 (71%)	131 (69%)	62 (61%)	127 (69%)	50 (51%)
精神障害	46 (90%)	37 (82%)	36 (71%)	27 (63%)	52 (76%)	42 (75%)	45 (68%)	40 (73%)	37 (60%)	33 (62%)
計	423 (86%)	416 (78%)	342 (70%)	315 (61%)	422 (71%)	420 (70%)	368 (63%)	372 (66%)	342 (63%)	318 (58%)

調査対象者は、重複障害を含め調査開始の段階で障害者手帳の等級などから判断される 6 つの障害グループのいずれかに属する。各調査期における回答者の障害グループ内訳は図表 2－1－5 のとおりである。

図表 2－1－5 各調査期における回答者の障害グループ内訳（単位：人）

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
視覚障害	48 (11%)	56 (13%)	39 (11%)	39 (12%)	36 (9%)	44 (10%)	35 (10%)	40 (11%)	33 (10%)	36 (11%)
聴覚障害	83 (20%)	82 (20%)	55 (16%)	58 (18%)	78 (18%)	81 (19%)	70 (19%)	75 (20%)	65 (19%)	55 (17%)
肢体不自由	93 (22%)	123 (30%)	78 (23%)	96 (30%)	71 (17%)	100 (24%)	63 (17%)	87 (23%)	58 (17%)	86 (27%)
内部障害	31 (7%)	42 (10%)	27 (8%)	34 (11%)	23 (5%)	78 (19%)	24 (7%)	68 (18%)	22 (6%)	58 (18%)
知的障害	122 (29%)	76 (18%)	107 (31%)	61 (19%)	162 (38%)	75 (18%)	131 (36%)	62 (17%)	127 (37%)	50 (16%)
精神障害	46 (11%)	37 (9%)	36 (11%)	27 (9%)	52 (12%)	42 (10%)	45 (12%)	40 (11%)	37 (11%)	33 (10%)
計	423 (100%)	416 (100%)	342 (100%)	315 (100%)	422 (100%)	420 (100%)	368 (100%)	372 (100%)	342 (100%)	318 (100%)

第1期から第5期まで全ての調査へ回答した者は 373 名で、調査対象者全体の 29% であった。

図表 2－1－6 これまでの5回の調査における回答回数（単位：人）

	5回	4回	3回	(うち追加者)	2回	1回	0回	計
視覚障害	41 (31%)	25 (19%)	18 (14%)	1	15 (11%)	17 (13%)	15 (11%)	131 (100%)
聴覚障害	66 (25%)	31 (12%)	49 (19%)	23	27 (10%)	47 (18%)	44 (17%)	264 (100%)
肢体不自由	89 (31%)	42 (15%)	47 (16%)	6	32 (11%)	37 (13%)	38 (13%)	285 (100%)
内部障害	38 (29%)	14 (11%)	35 (27%)	28	22 (17%)	12 (9%)	11 (8%)	132 (100%)
知的障害	102 (31%)	32 (10%)	64 (20%)	36	45 (14%)	50 (15%)	31 (10%)	324 (100%)
精神障害	37 (28%)	16 (12%)	35 (27%)	22	12 (9%)	20 (15%)	12 (9%)	132 (100%)
計	373 (29%)	160 (13%)	248 (20%)	116	153 (12%)	183 (14%)	151 (12%)	1,268 (100%)

第2節 調査回答者の基本的属性

本節では調査回答者の基本的属性について述べる。前期調査と後期調査の全登録者 1,268 人のうち、第 5 期までの調査において 1 回以上回答のあった調査対象者 1,117 人を集計対象とした。

1 性別

全体の男女比は 7 : 3 となっている。聴覚障害では男性が 60%なのに対し精神障害では 79%と、男女の比率には障害種類によって開きがある（図表 2-2-1）。

図表 2-2-1 調査回答者の性別（単位：人）

	男性	女性	計
視覚障害	74 (64%)	42 (36%)	116 (100%)
聴覚障害	133 (60%)	87 (40%)	220 (100%)
肢体不自由	186 (75%)	61 (25%)	247 (100%)
内部障害	88 (73%)	33 (27%)	121 (100%)
知的障害	209 (71%)	84 (29%)	293 (100%)
精神障害	95 (79%)	25 (21%)	120 (100%)
計	785 (70%)	332 (30%)	1,117 (100%)

2 年齢

調査回答者の平均年齢と、前期後期それぞれの年齢層は図表 2-2-2 から 2-2-4 のとおりである。

図表 2-2-2 調査回答者の平均年齢（単位：才）

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
視覚障害	30.4	47.7	32.0	49.0	34.1	51.1	36.1	53.1	38.7	55.2
聴覚障害	29.6	47.5	31.0	49.4	33.1	51.4	35.1	53.4	37.1	55.5
肢体不自由	29.9	47.7	31.4	49.7	33.4	51.6	35.2	53.5	37.8	55.4
内部障害	34.1	49.0	35.6	50.9	37.5	51.6	39.5	53.6	40.6	55.8
知的障害	25.6	45.9	27.1	47.9	29.3	50.2	31.3	52.3	33.3	54.1
精神障害	32.8	45.6	34.4	47.7	34.7	50.1	36.7	52.1	38.7	53.9

図表 2－2－3 前期調査回答者の年齢層（単位：人）

		～19才	20～29才	30～39才	40～49才	計
視覚障害	第1期	0 (0%)	21 (44%)	24 (50%)	3 (6%)	48 (100%)
	第2期	0 (0%)	12 (31%)	23 (59%)	4 (10%)	39 (100%)
	第3期	0 (0%)	6 (17%)	20 (56%)	10 (28%)	36 (100%)
	第4期	0 (0%)	4 (11%)	18 (51%)	13 (37%)	35 (100%)
	第5期	0 (0%)	1 (3%)	18 (55%)	14 (42%)	33 (100%)
聴覚障害	第1期	0 (0%)	51 (61%)	29 (35%)	3 (4%)	83 (100%)
	第2期	0 (0%)	23 (42%)	27 (49%)	5 (9%)	55 (100%)
	第3期	0 (0%)	21 (27%)	40 (51%)	17 (22%)	78 (100%)
	第4期	0 (0%)	10 (14%)	41 (59%)	19 (27%)	70 (100%)
	第5期	0 (0%)	3 (5%)	38 (58%)	24 (37%)	65 (100%)
肢体不自由	第1期	3 (3%)	42 (45%)	40 (43%)	8 (9%)	93 (100%)
	第2期	0 (0%)	35 (45%)	28 (36%)	15 (19%)	78 (100%)
	第3期	0 (0%)	23 (32%)	28 (39%)	20 (28%)	71 (100%)
	第4期	0 (0%)	15 (24%)	26 (41%)	22 (35%)	63 (100%)
	第5期	0 (0%)	10 (17%)	24 (41%)	24 (41%)	58 (100%)
内部障害	第1期	0 (0%)	7 (23%)	22 (71%)	2 (6%)	31 (100%)
	第2期	0 (0%)	2 (7%)	19 (70%)	6 (22%)	27 (100%)
	第3期	0 (0%)	3 (13%)	10 (43%)	10 (43%)	23 (100%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	10 (42%)	14 (58%)	24 (100%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	8 (36%)	14 (64%)	22 (100%)
知的障害	第1期	10 (8%)	92 (75%)	15 (12%)	5 (4%)	122 (100%)
	第2期	0 (0%)	80 (75%)	21 (20%)	6 (6%)	107 (100%)
	第3期	4 (2%)	93 (57%)	52 (32%)	13 (8%)	162 (100%)
	第4期	0 (0%)	56 (43%)	55 (42%)	20 (15%)	131 (100%)
	第5期	0 (0%)	42 (33%)	65 (51%)	20 (16%)	127 (100%)
精神障害	第1期	0 (0%)	11 (24%)	35 (76%)	0 (0%)	46 (100%)
	第2期	0 (0%)	6 (17%)	25 (69%)	5 (14%)	36 (100%)
	第3期	0 (0%)	9 (17%)	30 (58%)	13 (25%)	52 (100%)
	第4期	0 (0%)	5 (11%)	21 (47%)	19 (42%)	45 (100%)
	第5期	0 (0%)	4 (11%)	15 (41%)	18 (49%)	37 (100%)

図表 2-2-4 後期調査回答者の年齢層（単位：人）

		～49才	50～59才	60～69才	計
視覚障害	第1期	42 (76%)	13 (24%)	0 (0%)	55 (100%)
	第2期	21 (54%)	18 (46%)	0 (0%)	39 (100%)
	第3期	16 (36%)	28 (64%)	0 (0%)	44 (100%)
	第4期	7 (18%)	30 (75%)	3 (8%)	40 (100%)
	第5期	3 (8%)	29 (81%)	4 (11%)	36 (100%)
聴覚障害	第1期	54 (66%)	28 (34%)	0 (0%)	82 (100%)
	第2期	31 (53%)	27 (47%)	0 (0%)	58 (100%)
	第3期	32 (40%)	48 (59%)	1 (1%)	81 (100%)
	第4期	22 (29%)	48 (64%)	5 (7%)	75 (100%)
	第5期	5 (9%)	37 (67%)	13 (24%)	55 (100%)
肢体不自由	第1期	81 (66%)	41 (33%)	1 (1%)	123 (100%)
	第2期	51 (53%)	41 (43%)	4 (4%)	96 (100%)
	第3期	36 (36%)	57 (57%)	7 (7%)	100 (100%)
	第4期	20 (23%)	58 (67%)	9 (10%)	87 (100%)
	第5期	6 (7%)	65 (76%)	15 (17%)	86 (100%)
内部障害	第1期	17 (40%)	25 (60%)	0 (0%)	42 (100%)
	第2期	10 (29%)	24 (71%)	0 (0%)	34 (100%)
	第3期	22 (28%)	56 (72%)	0 (0%)	78 (100%)
	第4期	15 (22%)	49 (72%)	4 (6%)	68 (100%)
	第5期	6 (10%)	39 (67%)	13 (22%)	58 (100%)
知的障害	第1期	61 (80%)	15 (20%)	0 (0%)	76 (100%)
	第2期	43 (70%)	18 (30%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	40 (53%)	35 (47%)	0 (0%)	75 (100%)
	第4期	26 (42%)	33 (53%)	3 (5%)	62 (100%)
	第5期	8 (16%)	35 (70%)	7 (14%)	50 (100%)
精神障害	第1期	33 (89%)	4 (11%)	0 (0%)	37 (100%)
	第2期	19 (70%)	7 (26%)	1 (4%)	27 (100%)
	第3期	21 (50%)	21 (50%)	0 (0%)	42 (100%)
	第4期	15 (38%)	23 (58%)	2 (5%)	40 (100%)
	第5期	3 (9%)	27 (82%)	3 (9%)	33 (100%)

※年齢不明を除く

3 障害者手帳の取得状況及び等級

身体障害者手帳の所持状況について、第1期調査から第5期調査までの回答を基に、最新の状況を反映した結果を掲載した（図表2-2-5）。また、第5期調査の回答者のみで集計した結果を図表2-2-6に示した。

第4期から第5期の2年間に、手帳取得状況及び等級についての回答に変化があった者について図表2-2-7に示した。

なお、知的障害で手帳なしは1人（0.3%）、精神障害で手帳なしは14人（12%）であった。

図表 2-2-5 障害者手帳の所持状況（単位：人）

	1～2級	3～4級	5～6級	等級不明	手帳なし	無回答	計
視覚障害	86 (74%)	11 (9%)	14 (12%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	116 (100%)
聴覚障害	195 (89%)	14 (6%)	5 (2%)	3 (1%)	1 (0%)	2 (1%)	220 (100%)
肢体不自由	180 (73%)	36 (15%)	27 (11%)	3 (1%)	0 (0%)	1 (0%)	247 (100%)
内部障害	101 (83%)	19 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	121 (100%)
計	562 (80%)	80 (11%)	46 (7%)	10 (1%)	1 (0%)	5 (1%)	704 (100%)

図表 2-2-6 第5期の調査票に回答した者の身体障害者手帳等級（単位：人）

	1～2級	3～4級	5～6級	等級不明	手帳なし	無回答	計
視覚障害	54 (78%)	7 (10%)	6 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	108 (90%)	10 (8%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	120 (100%)
肢体不自由	110 (76%)	16 (11%)	18 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	144 (100%)
内部障害	63 (79%)	17 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
計	335 (81%)	50 (12%)	26 (6%)	1 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	413 (100%)

図表 2-2-7 第4期から第5期の間での身体障害者手帳の取得状況及び等級の変化（単位：人）

手帳取得状況の変化		障害等級の変化	
「なし」から「あり」へ	「あり」から「なし」へ	重い級へ	軽い級へ
0	0	11	3

4 障害の診断年齢

調査対象者の主たる障害について、診断を受けた年齢を5才刻みのカテゴリに分類したものが図表 2-2-8 である。

図表 2-2-8 障害の診断年齢（単位：人）

	0-4才	5-9才	10-14才	15-19才	20-24才	25-29才	30-34才	35-39才
視覚障害	47 (41%)	11 (9%)	10 (9%)	6 (5%)	6 (5%)	6 (5%)	4 (3%)	3 (3%)
聴覚障害	150 (68%)	15 (7%)	1 (0%)	2 (1%)	3 (1%)	1 (0%)	2 (1%)	1 (0%)
肢体不自由	65 (26%)	13 (5%)	8 (3%)	25 (10%)	29 (12%)	23 (9%)	9 (4%)	8 (3%)
内部障害	9 (7%)	4 (3%)	1 (1%)	15 (12%)	23 (19%)	13 (11%)	13 (11%)	12 (10%)
知的障害	77 (26%)	35 (12%)	15 (5%)	8 (3%)	1 (0%)	2 (1%)	2 (1%)	1 (0%)
精神障害	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	17 (14%)	24 (20%)	25 (21%)	13 (11%)	8 (7%)
計	350 (31%)	78 (7%)	37 (3%)	73 (7%)	86 (8%)	70 (6%)	43 (4%)	33 (3%)

	40-44才	45-49才	50-54才	55-59才	不明	無回答	計
視覚障害	4 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (9%)	8 (7%)	116 (100%)
聴覚障害	1 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	28 (13%)	15 (7%)	220 (100%)
肢体不自由	8 (3%)	6 (2%)	2 (1%)	0 (0%)	31 (13%)	20 (8%)	247 (100%)
内部障害	11 (9%)	11 (9%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	4 (3%)	121 (100%)
知的障害	2 (1%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	56 (19%)	93 (32%)	293 (100%)
精神障害	6 (5%)	3 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	13 (11%)	6 (5%)	120 (100%)
計	32 (3%)	22 (2%)	6 (1%)	1 (0%)	140 (13%)	146 (13%)	1,117 (100%)

5 学歴

最終学歴については第1期及び追加者については第3期調査で尋ねている。

図表2-2-9 最終学歴（単位：人）

	中学校	高等学校	特別支援中学部	特別支援高等部	特別支援専攻科	専修学校
視覚障害	0 (0%)	3 (3%)	1 (1%)	1 (1%)	48 (41%)	11 (9%)
聴覚障害	1 (0%)	17 (8%)	0 (0%)	44 (20%)	32 (15%)	21 (10%)
肢体不自由	0 (0%)	53 (21%)	1 (0%)	27 (11%)	0 (0%)	20 (8%)
内部障害	4 (3%)	38 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	14 (12%)
知的障害	39 (13%)	24 (8%)	10 (3%)	138 (47%)	4 (1%)	9 (3%)
精神障害	3 (3%)	37 (31%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	12 (10%)
計	47 (4%)	172 (15%)	12 (1%)	211 (19%)	86 (8%)	87 (8%)

	職業訓練校	短大、大学	大学院	その他	無回答	計
視覚障害	13 (11%)	22 (19%)	1 (1%)	4 (3%)	12 (10%)	116 (100%)
聴覚障害	26 (12%)	48 (22%)	1 (0%)	1 (0%)	29 (13%)	220 (100%)
肢体不自由	74 (30%)	38 (15%)	5 (2%)	1 (0%)	28 (11%)	247 (100%)
内部障害	13 (11%)	41 (34%)	3 (2%)	1 (1%)	5 (4%)	121 (100%)
知的障害	28 (10%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (1%)	35 (12%)	293 (100%)
精神障害	9 (8%)	39 (33%)	6 (5%)	6 (5%)	7 (6%)	120 (100%)
計	163 (15%)	190 (17%)	16 (1%)	17 (2%)	116 (10%)	1,117 (100%)

6 本調査対象者の紹介元

視覚障害、聴覚障害、内部障害、知的障害の4つの障害グループにおいて、対象者の過半数が当事者団体等からの紹介である。肢体不自由の対象者は40%が事業所から、精神障害の対象者は80%が職業リハビリテーション機関からの紹介である。

図表2-2-10 本調査対象者の紹介元（単位：人）

	当事者団体等	事業所	職リハ機関	その他	計
視覚障害	74 (64%)	5 (4%)	10 (9%)	27 (23%)	116 (100%)
聴覚障害	171 (78%)	26 (12%)	10 (5%)	13 (6%)	220 (100%)
肢体不自由	64 (26%)	100 (40%)	49 (20%)	34 (14%)	247 (100%)
内部障害	84 (69%)	25 (21%)	4 (3%)	8 (7%)	121 (100%)
知的障害	179 (61%)	41 (14%)	25 (9%)	48 (16%)	293 (100%)
精神障害	7 (6%)	9 (8%)	96 (80%)	8 (7%)	120 (100%)
計	579 (52%)	206 (18%)	194 (17%)	138 (12%)	1,117 (100%)

7 回答時の支援者の有無

回答の記入時に家族、友人、支援者など周囲の者に支援を受けたかどうかを尋ねた。第5期においては、知的障害の6割以上が支援を受けて回答していた。その他の障害種類では、概ね9割以上が自ら記入したと回答した。

図表2-2-11 回答時の支援者の有無（単位：人）

		支援なし	支援あり	無回答	計
視覚障害	第1期	92 (88%)	7 (7%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	68 (87%)	5 (6%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	73 (91%)	3 (4%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	70 (93%)	2 (3%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	65 (94%)	4 (6%)	0 (0%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	153 (93%)	6 (4%)	6 (4%)	165 (100%)
	第2期	103 (91%)	4 (4%)	6 (5%)	113 (100%)
	第3期	141 (89%)	7 (4%)	11 (7%)	159 (100%)
	第4期	138 (95%)	5 (3%)	2 (1%)	145 (100%)
	第5期	110 (92%)	3 (3%)	7 (6%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	198 (92%)	17 (8%)	1 (0%)	216 (100%)
	第2期	148 (85%)	18 (10%)	8 (5%)	174 (100%)
	第3期	148 (87%)	12 (7%)	11 (6%)	171 (100%)
	第4期	135 (90%)	11 (7%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	130 (90%)	11 (8%)	3 (2%)	144 (100%)
内部障害	第1期	72 (99%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	57 (93%)	1 (2%)	3 (5%)	61 (100%)
	第3期	96 (95%)	3 (3%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	90 (98%)	1 (1%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	77 (96%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
知的障害	第1期	52 (26%)	140 (71%)	6 (3%)	198 (100%)
	第2期	85 (51%)	79 (47%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	64 (27%)	156 (66%)	17 (7%)	237 (100%)
	第4期	69 (36%)	118 (61%)	6 (3%)	193 (100%)
	第5期	54 (31%)	112 (63%)	11 (6%)	177 (100%)
精神障害	第1期	76 (92%)	7 (8%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	47 (75%)	11 (17%)	5 (8%)	63 (100%)
	第3期	87 (93%)	6 (6%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	74 (87%)	10 (12%)	1 (1%)	85 (100%)
	第5期	62 (89%)	3 (4%)	5 (7%)	70 (100%)

※知的障害では回答時に母親が支援する場合が多い。

第3節 調査回答者の就労状況

本節では、就労状況に関する回答について記述する。

本調査では、回答記入時に収入のある仕事に就いているかどうかを尋ね、就労の有無を判別している。ここでの就労者には、就労継続支援B型あるいは就労移行支援、地域活動支援センター（福祉作業所）などでの雇用契約を結ばない形での勤務者は含めない。

また、第5期調査において、調査票の記入内容から就労の有無が判別できない回答者が6名いた。これらの回答者は就労について「不明」扱いとし、就労の有無を問わない質問への回答のみ反映させている。

1 就労の有無、仕事数及び就労形態

各調査期の就労者数と就労率は図表2-3-1のとおりである。

図表2-3-1 就労者数（単位：人）と就労率（括弧内：就労者数／就労状況不明の者を除く回答者数）

	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害
第1期	102 (98%)	159 (96%)	195 (90%)	72 (99%)	192 (97%)	80 (96%)
第2期	72 (92%)	105 (93%)	154 (89%)	60 (98%)	155 (92%)	52 (83%)
第3期	74 (93%)	147 (94%)	149 (88%)	95 (95%)	217 (92%)	81 (88%)
第4期	70 (95%)	129 (93%)	132 (89%)	87 (96%)	169 (91%)	65 (78%)
第5期	64 (93%)	108 (91%)	110 (77%)	67 (85%)	155 (88%)	52 (75%)

仕事数は、アルバイトを2つしている場合は「2」になる。ここでは5期調査の回答結果を示す。

図表2-3-2 仕事数（単位：人）

	1つ	2つ	3つ以上	無回答	計
視覚障害	58 (91%)	2 (3%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
聴覚障害	104 (96%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	108 (100%)
肢体不自由	106 (96%)	2 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	110 (100%)
内部障害	64 (96%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	149 (96%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (3%)	155 (100%)
精神障害	49 (94%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (4%)	52 (100%)
計	530 (95%)	10 (2%)	4 (1%)	12 (2%)	556 (100%)

就労形態は図表２－３－３のとおりである。なお、これ以降の仕事に関する項目では、複数の仕事をしている場合には主な仕事ひとつについて回答を求めている。

図表２－３－３ 就労形態（単位：人）

		正社員	パート等	派遣	自営等	A型	福祉	その他	無回答	計
視覚障害	第1期	67 (64%)	17 (16%)	0 (0%)	17 (16%)	－	－	2 (2%)	1 (1%)	104 (100%)
	第2期	46 (59%)	12 (15%)	0 (0%)	14 (18%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (5%)	0 (0%)	78 (100%)
	第3期	51 (64%)	10 (13%)	0 (0%)	12 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	6 (8%)	0 (0%)	80 (100%)
	第4期	42 (56%)	14 (19%)	1 (1%)	12 (16%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (5%)	1 (1%)	75 (100%)
	第5期	39 (57%)	11 (16%)	1 (1%)	11 (16%)	1 (1%)	0 (0%)	5 (7%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	117 (71%)	38 (23%)	1 (1%)	3 (2%)	－	－	6 (4%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	72 (64%)	28 (25%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (7%)	1 (1%)	113 (100%)
	第3期	96 (60%)	46 (29%)	0 (0%)	3 (2%)	2 (1%)	2 (1%)	7 (4%)	3 (2%)	159 (100%)
	第4期	81 (56%)	41 (28%)	0 (0%)	3 (2%)	4 (3%)	1 (1%)	9 (6%)	6 (4%)	145 (100%)
	第5期	65 (54%)	37 (31%)	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)	1 (1%)	8 (7%)	4 (3%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	151 (70%)	40 (19%)	1 (0%)	3 (1%)	－	－	21 (10%)	0 (0%)	216 (100%)
	第2期	108 (62%)	40 (23%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (3%)	4 (2%)	16 (9%)	0 (0%)	174 (100%)
	第3期	104 (61%)	37 (22%)	1 (1%)	1 (1%)	6 (4%)	4 (2%)	17 (10%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	85 (57%)	40 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (5%)	2 (1%)	15 (10%)	1 (1%)	150 (100%)
	第5期	74 (51%)	30 (21%)	0 (0%)	2 (1%)	4 (3%)	3 (2%)	25 (17%)	6 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	55 (75%)	12 (16%)	0 (0%)	4 (5%)	－	－	1 (1%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	46 (75%)	11 (18%)	0 (0%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	69 (68%)	20 (20%)	0 (0%)	6 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	61 (66%)	22 (24%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	45 (56%)	16 (20%)	1 (1%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (13%)	5 (6%)	80 (100%)
知的障害	第1期	83 (42%)	105 (53%)	1 (1%)	0 (0%)	－	－	6 (3%)	3 (2%)	198 (100%)
	第2期	53 (32%)	100 (60%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	10 (6%)	1 (1%)	168 (100%)
	第3期	73 (31%)	129 (54%)	1 (0%)	0 (0%)	14 (6%)	13 (5%)	5 (2%)	2 (1%)	237 (100%)
	第4期	46 (24%)	111 (58%)	1 (1%)	0 (0%)	11 (6%)	10 (5%)	7 (4%)	7 (4%)	193 (100%)
	第5期	45 (25%)	92 (52%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (10%)	12 (7%)	6 (3%)	5 (3%)	177 (100%)
精神障害	第1期	26 (31%)	54 (65%)	0 (0%)	0 (0%)	－	－	3 (4%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	17 (27%)	33 (52%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	3 (5%)	8 (13%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	18 (19%)	58 (62%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	4 (4%)	7 (7%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	11 (13%)	50 (59%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	7 (8%)	11 (13%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	9 (13%)	42 (60%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	6 (9%)	10 (14%)	2 (3%)	70 (100%)

※就労形態の選択肢は調査期により異なり、各回答に含まれる各調査回の回答は以下のとおり。

1. 「その他」
 - ・第1期では、「その他」「内職で働いている」「上記のいずれにも該当しない（「福祉工場や作業所で働いている」「仕事をしていない」など）」
 - ・第2期前期調査では、「その他」「内職で働いている」「福祉工場や作業所で働いている」「仕事をしていない」
 - ・第2期後期調査では、「その他」「内職で働いている」「仕事をしていない」
 - ・第3期及び第4期では、「その他」「内職で働いている」「仕事をしていない」
 - ・第5期では、「その他」「自宅にて内職で働いている」「仕事をしていない」
2. 「A型」及び「福祉」
 - ・第1期及び第2期前期調査では、「A型」「福祉」の別を問う選択肢を設けていない。
 - ・第2期後期調査では、「就労継続支援事業所A型や福祉工場で働いている」は「A型」、「就労継続支援事業所B型、福祉作業所や就労移行支援事業所で働いている」は「福祉」
 - ・第3期及び第4期では、「就労継続支援事業所A型（福祉工場）で雇用契約を結んで働いている」は「A型」、「就労継続支援事業所B型あるいは就労移行支援事業所や地域活動支援センター（福祉作業所）などで雇用契約を結ばない形で働いている」は「福祉」
 - ・第5期では、「就労継続支援A型で雇用契約を結んで働いている」は「A型」、「就労継続支援B型あるいは就労移行支援や地域活動支援センター（福祉作業所）などで雇用契約を結ばない形で働いている」は「福祉」

2 職種

職種について、8つの選択肢により尋ねた。

図表 2－3－4 職種（単位：人）

		製造	販売	事務	教育	医療福祉	対人 サービス	清掃・ クリーニング	その他	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	2 (2%)	1 (1%)	17 (17%)	16 (16%)	60 (59%)	5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	1 (1%)	1 (1%)	12 (17%)	12 (17%)	40 (56%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	11 (15%)	16 (22%)	45 (61%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	11 (16%)	16 (23%)	35 (50%)	3 (4%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	70 (100%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	9 (14%)	13 (20%)	36 (56%)	4 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	75 (47%)	1 (1%)	57 (36%)	3 (2%)	7 (4%)	2 (1%)	2 (1%)	12 (8%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	40 (38%)	2 (2%)	39 (37%)	2 (2%)	8 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	11 (10%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	55 (37%)	6 (4%)	55 (37%)	3 (2%)	9 (6%)	3 (2%)	2 (1%)	9 (6%)	5 (3%)	147 (100%)
	第4期	48 (37%)	3 (2%)	44 (34%)	5 (4%)	10 (8%)	5 (4%)	3 (2%)	7 (5%)	4 (3%)	129 (100%)
	第5期	32 (30%)	7 (6%)	42 (39%)	6 (6%)	8 (7%)	4 (4%)	4 (4%)	4 (4%)	1 (1%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	51 (26%)	6 (3%)	109 (56%)	1 (1%)	5 (3%)	9 (5%)	3 (2%)	8 (4%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	35 (23%)	1 (1%)	90 (58%)	1 (1%)	5 (3%)	7 (5%)	5 (3%)	6 (4%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	36 (24%)	2 (1%)	86 (58%)	2 (1%)	4 (3%)	3 (2%)	4 (3%)	10 (7%)	2 (1%)	149 (100%)
	第4期	29 (22%)	3 (2%)	76 (58%)	1 (1%)	5 (4%)	3 (2%)	5 (4%)	6 (5%)	4 (3%)	132 (100%)
	第5期	22 (20%)	2 (2%)	70 (64%)	1 (1%)	4 (4%)	4 (4%)	3 (3%)	4 (4%)	0 (0%)	110 (100%)
内 部 障 害	第1期	10 (14%)	2 (3%)	36 (50%)	2 (3%)	6 (8%)	4 (6%)	5 (7%)	6 (8%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	9 (15%)	3 (5%)	28 (47%)	1 (2%)	5 (8%)	2 (3%)	5 (8%)	6 (10%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	9 (9%)	7 (7%)	58 (61%)	1 (1%)	6 (6%)	3 (3%)	5 (5%)	6 (6%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	8 (9%)	5 (6%)	53 (61%)	1 (1%)	6 (7%)	3 (3%)	5 (6%)	4 (5%)	2 (2%)	87 (100%)
	第5期	5 (7%)	1 (1%)	45 (67%)	0 (0%)	5 (7%)	4 (6%)	7 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
知 的 障 害	第1期	57 (30%)	13 (7%)	7 (4%)	0 (0%)	4 (2%)	9 (5%)	82 (43%)	18 (9%)	2 (1%)	192 (100%)
	第2期	48 (31%)	12 (8%)	5 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	5 (3%)	54 (35%)	17 (11%)	10 (6%)	155 (100%)
	第3期	73 (34%)	23 (11%)	9 (4%)	0 (0%)	6 (3%)	11 (5%)	72 (33%)	18 (8%)	5 (2%)	217 (100%)
	第4期	40 (24%)	16 (9%)	6 (4%)	0 (0%)	5 (3%)	9 (5%)	60 (36%)	25 (15%)	8 (5%)	169 (100%)
	第5期	47 (30%)	14 (9%)	8 (5%)	0 (0%)	2 (1%)	5 (3%)	74 (48%)	3 (2%)	2 (1%)	155 (100%)
精 神 障 害	第1期	22 (28%)	6 (8%)	21 (26%)	0 (0%)	2 (3%)	2 (3%)	12 (15%)	15 (19%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	13 (25%)	5 (10%)	12 (23%)	0 (0%)	2 (4%)	4 (8%)	5 (10%)	11 (21%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	16 (20%)	14 (17%)	19 (23%)	0 (0%)	2 (2%)	7 (9%)	9 (11%)	13 (16%)	1 (1%)	81 (100%)
	第4期	11 (17%)	10 (15%)	21 (32%)	0 (0%)	4 (6%)	2 (3%)	8 (12%)	8 (12%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	11 (21%)	6 (12%)	17 (33%)	0 (0%)	3 (6%)	3 (6%)	9 (17%)	2 (4%)	1 (2%)	52 (100%)

※調査票の表現は図表では略して表記した。「製造」：ものを作る仕事、「販売」：ものを売る仕事、「事務」：事務の仕事、「教育」：ものを教える仕事（教師、塾講師、スポーツクラブ指導員など）、医療福祉：医療や福祉に関わる仕事（あん摩・はり・きゅうの仕事を含む）対人サービス：人を相手にするサービス業、清掃・クリーニング：清掃やクリーニングなどのサービス業

図表２－３－４の職種について、ひとつ前の期（第５期調査ならば第４期）の調査時の回答と変化したかどうかを比較、集計したものが図表２－３－５である。

図表２－３－５ 職種の变化（単位：人）

	第1期調査と第2期調査		第2期調査と第3期調査		第3期調査と第4期調査		第4期調査と第5期調査	
	同じ職種	別の職種	同じ職種	別の職種	同じ職種	別の職種	同じ職種	別の職種
視覚障害	62 (94%)	4 (6%)	49 (92%)	4 (8%)	54 (93%)	4 (7%)	42 (82%)	9 (18%)
聴覚障害	79 (80%)	20 (20%)	68 (84%)	13 (16%)	83 (79%)	22 (21%)	73 (79%)	19 (21%)
肢体不自由	110 (84%)	21 (16%)	95 (87%)	14 (13%)	85 (79%)	22 (21%)	76 (86%)	12 (14%)
内部障害	45 (82%)	10 (18%)	40 (85%)	7 (15%)	61 (81%)	14 (19%)	46 (82%)	10 (18%)
知的障害	113 (83%)	23 (17%)	89 (78%)	25 (22%)	115 (82%)	26 (18%)	83 (70%)	36 (30%)
精神障害	37 (73%)	14 (27%)	24 (65%)	13 (35%)	39 (70%)	17 (30%)	35 (74%)	12 (26%)
計	446 (83%)	92 (17%)	365 (82%)	76 (18%)	437 (81%)	105 (19%)	355 (78%)	98 (22%)

3 1 週間の勤務時間

第5期調査を実施した年（前期：平成28年、後期：平成29年）の、6月の1週間あたりの勤務時間を尋ねた。

図表2－3－6 1週間の勤務時間（単位：人）

		20時間未満	30時間未満	30時間以上	無回答	計
視覚障害	第1期	1 (1%)	3 (3%)	98 (96%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	2 (3%)	5 (7%)	65 (90%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期	3 (4%)	3 (4%)	67 (91%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	5 (7%)	6 (9%)	59 (84%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	7 (11%)	4 (6%)	51 (80%)	2 (3%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	10 (6%)	17 (11%)	129 (81%)	3 (2%)	159 (100%)
	第2期	4 (4%)	13 (12%)	85 (81%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期	8 (5%)	22 (15%)	111 (76%)	6 (4%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	17 (13%)	97 (75%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	11 (10%)	16 (15%)	81 (75%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	4 (2%)	15 (8%)	170 (87%)	6 (3%)	195 (100%)
	第2期	4 (3%)	22 (14%)	123 (80%)	5 (3%)	154 (100%)
	第3期	7 (5%)	15 (10%)	124 (83%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	3 (2%)	19 (14%)	109 (83%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	5 (5%)	9 (8%)	96 (87%)	0 (0%)	110 (100%)
内部障害	第1期	3 (4%)	13 (18%)	55 (76%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	0 (0%)	11 (18%)	48 (80%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	5 (5%)	13 (14%)	76 (80%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	7 (8%)	17 (20%)	63 (72%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	2 (3%)	12 (18%)	53 (79%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	25 (13%)	50 (26%)	111 (58%)	6 (3%)	192 (100%)
	第2期	15 (10%)	44 (28%)	84 (54%)	12 (8%)	155 (100%)
	第3期	18 (8%)	76 (35%)	112 (52%)	11 (5%)	217 (100%)
	第4期	17 (10%)	46 (27%)	99 (59%)	7 (4%)	169 (100%)
	第5期	21 (14%)	48 (31%)	80 (52%)	6 (4%)	155 (100%)
精神障害	第1期	7 (9%)	34 (43%)	39 (49%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	4 (8%)	15 (29%)	30 (58%)	3 (6%)	52 (100%)
	第3期	9 (11%)	26 (32%)	42 (52%)	4 (5%)	81 (100%)
	第4期	7 (11%)	29 (45%)	28 (43%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	4 (8%)	18 (35%)	30 (58%)	0 (0%)	52 (100%)

※調査票の表現は図表では省略して標記した。「30 時間未満」：20 時間以上 30 時間未満、「30 時間以上」：30 時間以上（フルタイム）。

4 1 週間の休日

各期調査を実施した年の、6月の1週間あたりの休日数を尋ねた。第5期調査においては、前期：平成28年、後期平成29年である。

図表2-3-7 1週間の休日（単位：人）

		1日	2日	3日	4日以上	不定期	無回答	計
視覚障害	第1期	21 (21%)	61 (60%)	2 (2%)	15 (15%)	3 (3%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	13 (18%)	45 (63%)	0 (0%)	8 (11%)	5 (7%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	15 (20%)	45 (61%)	3 (4%)	9 (12%)	1 (1%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	13 (19%)	44 (63%)	4 (6%)	6 (9%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	10 (16%)	39 (61%)	3 (5%)	9 (14%)	—	3 (5%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	11 (7%)	116 (73%)	8 (5%)	21 (13%)	3 (2%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	6 (6%)	83 (79%)	4 (4%)	6 (6%)	4 (4%)	2 (2%)	105 (100%)
	第3期	10 (7%)	105 (71%)	4 (3%)	16 (11%)	8 (5%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	6 (5%)	94 (73%)	4 (3%)	19 (15%)	3 (2%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	11 (10%)	81 (75%)	5 (5%)	11 (10%)	—	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	150 (77%)	10 (5%)	20 (10%)	5 (3%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	7 (5%)	109 (71%)	6 (4%)	21 (14%)	4 (3%)	7 (5%)	154 (100%)
	第3期	4 (3%)	124 (83%)	7 (5%)	8 (5%)	3 (2%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	1 (1%)	103 (78%)	9 (7%)	18 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	5 (5%)	82 (75%)	7 (6%)	16 (15%)	—	0 (0%)	110 (100%)
内部障害	第1期	3 (4%)	53 (74%)	2 (3%)	6 (8%)	5 (7%)	3 (4%)	72 (100%)
	第2期	4 (7%)	48 (80%)	3 (5%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	7 (7%)	66 (69%)	3 (3%)	13 (14%)	5 (5%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	9 (10%)	62 (71%)	1 (1%)	14 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	3 (5%)	53 (79%)	1 (1%)	10 (15%)	—	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	20 (10%)	125 (65%)	15 (8%)	24 (13%)	3 (2%)	5 (3%)	192 (100%)
	第2期	9 (6%)	104 (67%)	9 (6%)	23 (15%)	1 (1%)	9 (6%)	155 (100%)
	第3期	20 (9%)	144 (66%)	14 (6%)	25 (12%)	3 (1%)	11 (5%)	217 (100%)
	第4期	12 (7%)	110 (65%)	11 (7%)	22 (13%)	9 (5%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	10 (7%)	108 (70%)	11 (7%)	21 (14%)	—	5 (3%)	155 (100%)
精神障害	第1期	1 (1%)	59 (74%)	4 (5%)	11 (14%)	5 (6%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	1 (2%)	38 (73%)	7 (13%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	5 (6%)	53 (65%)	8 (10%)	10 (12%)	3 (4%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	3 (5%)	44 (68%)	8 (12%)	6 (9%)	2 (3%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	36 (69%)	7 (13%)	5 (10%)	—	1 (2%)	52 (100%)

※「不定期」の選択肢は第4期後期調査において廃止しており、第4期の「不定期」は前期データのみを掲載した。第4期までの各割合は「不定期」を含めた数値を100%として計算している。

5 1ヶ月の給与

各期調査を実施した年の、6月に受け取った給与（賞与は除く）について、手取り額を尋ねた。第5期調査においては、前期：平成28年、後期平成29年である。

図表2-3-8 1ヶ月の給与（手取り額）（単位：人）

		7万円未満	7万円以上 13万円未満	13万円以上 25万円未満	25万円以上 40万円未満	40万円以上	無回答	計
視覚障害	第1期	4 (4%)	15 (15%)	59 (58%)	18 (18%)	5 (5%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	4 (6%)	6 (8%)	43 (60%)	18 (25%)	1 (1%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期	6 (8%)	7 (9%)	38 (51%)	19 (26%)	2 (3%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	6 (9%)	8 (11%)	34 (49%)	21 (30%)	1 (1%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	7 (11%)	3 (5%)	31 (48%)	16 (25%)	4 (6%)	3 (5%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	9 (6%)	34 (21%)	82 (52%)	21 (13%)	7 (4%)	6 (4%)	159 (100%)
	第2期	2 (2%)	28 (27%)	54 (51%)	18 (17%)	1 (1%)	2 (2%)	105 (100%)
	第3期	7 (5%)	27 (18%)	82 (56%)	24 (16%)	2 (1%)	5 (3%)	147 (100%)
	第4期	7 (5%)	30 (23%)	63 (49%)	22 (17%)	4 (3%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	9 (8%)	24 (22%)	51 (47%)	22 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	13 (7%)	43 (22%)	98 (50%)	30 (15%)	7 (4%)	4 (2%)	195 (100%)
	第2期	10 (6%)	38 (25%)	83 (54%)	15 (10%)	2 (1%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期	9 (6%)	28 (19%)	77 (52%)	27 (18%)	3 (2%)	5 (3%)	149 (100%)
	第4期	8 (6%)	29 (22%)	67 (51%)	23 (17%)	2 (2%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	6 (5%)	23 (21%)	60 (55%)	16 (15%)	5 (5%)	0 (0%)	110 (100%)
内部障害	第1期	1 (1%)	13 (18%)	37 (51%)	16 (22%)	4 (6%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	0 (0%)	10 (17%)	38 (63%)	9 (15%)	2 (3%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	5 (5%)	19 (20%)	43 (45%)	22 (23%)	5 (5%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	6 (7%)	23 (26%)	39 (45%)	18 (21%)	1 (1%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	1 (1%)	18 (27%)	29 (43%)	15 (22%)	3 (4%)	1 (1%)	67 (100%)
知的障害	第1期	38 (20%)	130 (68%)	21 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	192 (100%)
	第2期	36 (23%)	98 (63%)	18 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	155 (100%)
	第3期	39 (18%)	136 (63%)	33 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (4%)	217 (100%)
	第4期	34 (20%)	108 (64%)	21 (12%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (2%)	169 (100%)
	第5期	31 (20%)	98 (63%)	22 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (3%)	155 (100%)
精神障害	第1期	21 (26%)	38 (48%)	13 (16%)	2 (3%)	3 (4%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	29 (56%)	11 (21%)	3 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	9 (11%)	55 (68%)	12 (15%)	3 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	13 (20%)	35 (54%)	14 (22%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	8 (15%)	32 (62%)	9 (17%)	3 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)

図表 2-3-8 の 1 ヶ月の給与について、条件を統一するため週 30 時間以上（フルタイム）で勤務している回答者に限って集計した。

図表 2-3-9 週 30 時間以上勤務する者の 1 ヶ月の給与（手取り額）（単位：人）

		7万円未満	7万円以上 13万円未満	13万円以上 25万円未満	25万円以上 40万円未満	40万円以上	無回答	計
視覚障害	第1期	4 (4%)	12 (12%)	58 (59%)	18 (18%)	5 (5%)	1 (1%)	98 (100%)
	第2期	4 (6%)	3 (5%)	39 (60%)	18 (28%)	1 (2%)	0 (0%)	65 (100%)
	第3期	4 (6%)	5 (7%)	35 (52%)	19 (28%)	2 (3%)	2 (3%)	67 (100%)
	第4期	2 (3%)	5 (8%)	31 (53%)	20 (34%)	1 (2%)	0 (0%)	59 (100%)
	第5期	2 (4%)	1 (2%)	27 (53%)	16 (31%)	4 (8%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第1期	5 (4%)	22 (17%)	72 (56%)	21 (16%)	7 (5%)	2 (2%)	129 (100%)
	第2期	1 (1%)	15 (18%)	50 (59%)	18 (21%)	1 (1%)	0 (0%)	85 (100%)
	第3期	0 (0%)	13 (12%)	71 (64%)	23 (21%)	2 (2%)	2 (2%)	111 (100%)
	第4期	0 (0%)	18 (19%)	52 (54%)	22 (23%)	4 (4%)	1 (1%)	97 (100%)
	第5期	2 (2%)	14 (17%)	41 (51%)	22 (27%)	1 (1%)	1 (1%)	81 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	33 (19%)	95 (56%)	29 (17%)	6 (4%)	0 (0%)	170 (100%)
	第2期	2 (2%)	24 (20%)	79 (64%)	15 (12%)	2 (2%)	1 (1%)	123 (100%)
	第3期	0 (0%)	22 (18%)	73 (59%)	25 (20%)	3 (2%)	1 (1%)	124 (100%)
	第4期	1 (1%)	19 (17%)	63 (58%)	22 (20%)	2 (2%)	2 (2%)	109 (100%)
	第5期	1 (1%)	19 (20%)	57 (59%)	15 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	96 (100%)
内部障害	第1期	0 (0%)	5 (9%)	32 (58%)	15 (27%)	3 (5%)	0 (0%)	55 (100%)
	第2期	0 (0%)	6 (13%)	31 (65%)	8 (17%)	2 (4%)	1 (2%)	48 (100%)
	第3期	0 (0%)	10 (13%)	41 (54%)	21 (28%)	4 (5%)	0 (0%)	76 (100%)
	第4期	1 (2%)	10 (16%)	36 (57%)	15 (24%)	1 (2%)	0 (0%)	63 (100%)
	第5期	1 (2%)	7 (13%)	26 (49%)	15 (28%)	3 (6%)	1 (2%)	53 (100%)
知的障害	第1期	15 (14%)	78 (70%)	16 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	111 (100%)
	第2期	7 (8%)	63 (75%)	14 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	84 (100%)
	第3期	7 (6%)	79 (71%)	25 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	112 (100%)
	第4期	7 (7%)	73 (74%)	17 (17%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	99 (100%)
	第5期	3 (4%)	61 (76%)	16 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
精神障害	第1期	2 (5%)	18 (46%)	12 (31%)	2 (5%)	3 (8%)	2 (5%)	39 (100%)
	第2期	2 (7%)	14 (47%)	11 (37%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
	第3期	0 (0%)	28 (67%)	11 (26%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	42 (100%)
	第4期	0 (0%)	13 (46%)	13 (46%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	28 (100%)
	第5期	2 (7%)	16 (53%)	9 (30%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)

6 賞与

各期調査を実施した年の、前年1年間に受け取った賞与（ボーナス）の額について尋ねた。第5期調査においては、前期：平成28年、後期平成29年の前年である。

図表2－3－10 過去1年間の賞与（単位：人）

		なし	10万円未満	10万円以上 30万円未満	30万円以上 50万円未満	50万円以上 100万円未満	100万円以上	無回答	計
視覚障害	第2期	18 (25%)	5 (7%)	6 (8%)	8 (11%)	20 (28%)	14 (19%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	21 (28%)	6 (8%)	9 (12%)	4 (5%)	22 (30%)	10 (14%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	23 (33%)	8 (11%)	4 (6%)	6 (9%)	14 (20%)	15 (21%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	19 (30%)	4 (6%)	7 (11%)	4 (6%)	12 (19%)	17 (27%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	第2期	14 (13%)	10 (10%)	22 (21%)	19 (18%)	30 (29%)	9 (9%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	24 (16%)	10 (7%)	31 (21%)	29 (20%)	34 (23%)	15 (10%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	22 (17%)	11 (9%)	26 (20%)	17 (13%)	36 (28%)	16 (12%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	22 (20%)	9 (8%)	19 (18%)	19 (18%)	24 (22%)	14 (13%)	1 (1%)	108 (100%)
肢体不自由	第2期	19 (12%)	17 (11%)	32 (21%)	23 (15%)	42 (27%)	17 (11%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	23 (15%)	16 (11%)	27 (18%)	24 (16%)	40 (27%)	15 (10%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	28 (21%)	8 (6%)	29 (22%)	20 (15%)	30 (23%)	15 (11%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	14 (13%)	7 (6%)	24 (22%)	19 (17%)	28 (26%)	18 (16%)	0 (0%)	110 (100%)
内部障害	第2期	12 (20%)	3 (5%)	3 (5%)	15 (25%)	21 (35%)	6 (10%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	22 (23%)	6 (6%)	13 (14%)	12 (13%)	29 (31%)	13 (14%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	21 (24%)	5 (6%)	16 (18%)	9 (10%)	28 (32%)	8 (9%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	12 (18%)	3 (5%)	12 (18%)	9 (13%)	23 (34%)	8 (12%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第2期	61 (39%)	55 (35%)	25 (16%)	8 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	155 (100%)
	第3期	87 (40%)	79 (36%)	33 (15%)	9 (4%)	2 (1%)	1 (0%)	6 (3%)	217 (100%)
	第4期	74 (44%)	54 (32%)	28 (17%)	5 (3%)	3 (2%)	0 (0%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	56 (36%)	62 (40%)	26 (17%)	6 (4%)	2 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	155 (100%)
精神障害	第2期	18 (35%)	15 (29%)	6 (12%)	3 (6%)	7 (13%)	1 (2%)	2 (4%)	52 (100%)
	第3期	38 (47%)	19 (23%)	12 (15%)	4 (5%)	6 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	81 (100%)
	第4期	30 (46%)	20 (31%)	5 (8%)	2 (3%)	6 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	24 (46%)	17 (33%)	5 (10%)	0 (0%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	52 (100%)

7 通勤手段

通勤に利用している手段について該当するものすべてを複数選択により尋ねた。

図表 2－3－11 通勤手段（複数回答）（単位：人）

		徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で 運転)	自動車 (自分以外が 運転)	公共 交通機関	その他	無回答	人数
視覚 障害	第1期	65 (64%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (12%)	66 (65%)	9 (9%)	1 (1%)	102
	第2期	44 (61%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (7%)	44 (61%)	8 (11%)	2 (3%)	72
	第3期	51 (69%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (9%)	46 (62%)	7 (9%)	0 (0%)	74
	第4期	37 (53%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (14%)	46 (66%)	9 (13%)	0 (0%)	70
	第5期	41 (64%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (13%)	39 (61%)	8 (13%)	1 (2%)	64
聴覚 障害	第1期	36 (23%)	22 (14%)	9 (6%)	70 (44%)	6 (4%)	62 (39%)	0 (0%)	0 (0%)	159
	第2期	28 (27%)	20 (19%)	7 (7%)	42 (40%)	3 (3%)	46 (44%)	0 (0%)	0 (0%)	105
	第3期	35 (24%)	23 (16%)	11 (7%)	63 (43%)	2 (1%)	62 (42%)	2 (1%)	4 (3%)	147
	第4期	35 (27%)	20 (16%)	9 (7%)	61 (47%)	4 (3%)	52 (40%)	3 (2%)	0 (0%)	129
	第5期	23 (21%)	16 (15%)	6 (6%)	55 (51%)	2 (2%)	42 (39%)	2 (2%)	0 (0%)	108
肢体 不自由	第1期	23 (12%)	8 (4%)	1 (1%)	111 (57%)	12 (6%)	52 (27%)	9 (5%)	2 (1%)	195
	第2期	19 (12%)	7 (5%)	0 (0%)	87 (56%)	10 (6%)	45 (29%)	8 (5%)	3 (2%)	154
	第3期	21 (14%)	4 (3%)	0 (0%)	85 (57%)	15 (10%)	43 (29%)	7 (5%)	1 (1%)	149
	第4期	20 (15%)	9 (7%)	0 (0%)	73 (55%)	8 (6%)	41 (31%)	10 (8%)	1 (1%)	132
	第5期	16 (15%)	5 (5%)	0 (0%)	58 (53%)	6 (6%)	38 (35%)	9 (8%)	0 (0%)	110
内部 障害	第1期	16 (22%)	4 (6%)	2 (3%)	42 (58%)	0 (0%)	25 (35%)	1 (1%)	0 (0%)	72
	第2期	11 (18%)	5 (8%)	1 (2%)	35 (58%)	0 (0%)	21 (35%)	2 (3%)	0 (0%)	60
	第3期	17 (18%)	6 (6%)	2 (2%)	57 (60%)	0 (0%)	28 (29%)	3 (3%)	0 (0%)	95
	第4期	25 (29%)	4 (5%)	1 (1%)	47 (54%)	0 (0%)	30 (34%)	2 (2%)	0 (0%)	87
	第5期	17 (25%)	3 (5%)	0 (0%)	37 (55%)	1 (2%)	26 (39%)	0 (0%)	0 (0%)	67
知的 障害	第1期	57 (30%)	49 (26%)	0 (0%)	7 (4%)	18 (9%)	127 (66%)	5 (3%)	1 (1%)	192
	第2期	43 (28%)	45 (29%)	1 (1%)	10 (6%)	13 (8%)	99 (64%)	2 (1%)	1 (1%)	155
	第3期	64 (29%)	68 (31%)	0 (0%)	11 (5%)	18 (8%)	140 (65%)	2 (1%)	3 (1%)	217
	第4期	54 (32%)	42 (25%)	1 (1%)	7 (4%)	13 (8%)	115 (68%)	2 (1%)	2 (1%)	169
	第5期	62 (40%)	42 (27%)	1 (1%)	9 (6%)	16 (10%)	109 (70%)	1 (1%)	1 (1%)	155
精神 障害	第1期	19 (24%)	12 (15%)	9 (11%)	25 (31%)	3 (4%)	39 (49%)	1 (1%)	0 (0%)	80
	第2期	11 (21%)	8 (15%)	3 (6%)	23 (44%)	0 (0%)	24 (46%)	0 (0%)	0 (0%)	52
	第3期	18 (22%)	21 (26%)	6 (7%)	25 (31%)	3 (4%)	36 (44%)	1 (1%)	0 (0%)	81
	第4期	22 (34%)	12 (18%)	6 (9%)	17 (26%)	3 (5%)	32 (49%)	0 (0%)	0 (0%)	65
	第5期	18 (35%)	7 (14%)	6 (12%)	17 (33%)	3 (6%)	24 (46%)	0 (0%)	0 (0%)	52

8 通勤に要する時間

通勤（片道）にかかる合計時間を尋ねた。

図表 2－3－12 通勤に要する時間（単位：人）

		30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 1時間30分 未満	1時間30分 以上 2時間未満	2時間以上	無回答	計
視覚障害	第1期	45 (44%)	29 (28%)	18 (18%)	8 (8%)	2 (2%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	28 (39%)	20 (28%)	13 (18%)	5 (7%)	3 (4%)	3 (4%)	72 (100%)
	第3期	29 (39%)	23 (31%)	10 (14%)	7 (9%)	0 (0%)	5 (7%)	74 (100%)
	第4期	31 (44%)	18 (26%)	14 (20%)	3 (4%)	2 (3%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	26 (41%)	16 (25%)	13 (20%)	4 (6%)	1 (2%)	4 (6%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	75 (47%)	54 (34%)	25 (16%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	55 (52%)	35 (33%)	13 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	63 (43%)	54 (37%)	23 (16%)	3 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	61 (47%)	42 (33%)	19 (15%)	5 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	52 (48%)	36 (33%)	17 (16%)	1 (1%)	2 (2%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	89 (46%)	70 (36%)	28 (14%)	5 (3%)	0 (0%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	75 (49%)	52 (34%)	19 (12%)	4 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	66 (44%)	58 (39%)	21 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	51 (39%)	55 (42%)	22 (17%)	3 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	41 (37%)	43 (39%)	18 (16%)	6 (6%)	0 (0%)	2 (2%)	110 (100%)
内部障害	第1期	33 (46%)	28 (39%)	10 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	30 (50%)	19 (32%)	10 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	49 (52%)	32 (34%)	13 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	39 (45%)	34 (39%)	12 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	29 (43%)	20 (30%)	14 (21%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	63 (33%)	92 (48%)	26 (14%)	6 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	192 (100%)
	第2期	51 (33%)	65 (42%)	19 (12%)	6 (4%)	3 (2%)	11 (7%)	155 (100%)
	第3期	68 (31%)	103 (47%)	37 (17%)	5 (2%)	0 (0%)	4 (2%)	217 (100%)
	第4期	46 (27%)	77 (46%)	35 (21%)	6 (4%)	1 (1%)	4 (2%)	169 (100%)
	第5期	44 (28%)	68 (44%)	37 (24%)	2 (1%)	2 (1%)	2 (1%)	155 (100%)
精神障害	第1期	35 (44%)	30 (38%)	13 (16%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	24 (46%)	18 (35%)	7 (13%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)
	第3期	30 (37%)	34 (42%)	14 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	27 (42%)	28 (43%)	8 (12%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	20 (39%)	23 (44%)	6 (12%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	52 (100%)

9 勤務先の企業等の規模（従業員数）

勤務先（自営、内職を含む）の従業員数を尋ねた。

図表 2－3－13 勤務先企業等の規模（単位：人）

		1～9人	10～49人	50～299人	300～999人	1000人以上	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	26 (25%)	19 (19%)	29 (28%)	9 (9%)	18 (18%)	0 (0%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	21 (29%)	9 (13%)	18 (25%)	6 (8%)	17 (24%)	0 (0%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	18 (24%)	15 (20%)	15 (20%)	8 (11%)	16 (22%)	1 (1%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	18 (26%)	9 (13%)	15 (21%)	5 (7%)	21 (30%)	0 (0%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	15 (23%)	4 (6%)	22 (34%)	5 (8%)	16 (25%)	1 (2%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	10 (6%)	28 (18%)	41 (26%)	25 (16%)	51 (32%)	4 (3%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	5 (5%)	16 (15%)	32 (30%)	18 (17%)	30 (29%)	3 (3%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	9 (6%)	24 (16%)	40 (27%)	26 (18%)	42 (29%)	3 (2%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	7 (5%)	23 (18%)	38 (29%)	25 (19%)	31 (24%)	4 (3%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	12 (11%)	19 (18%)	25 (23%)	21 (19%)	28 (26%)	3 (3%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	53 (27%)	66 (34%)	26 (13%)	35 (18%)	5 (3%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	4 (3%)	34 (22%)	55 (36%)	21 (14%)	29 (19%)	7 (5%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	2 (1%)	35 (23%)	54 (36%)	26 (17%)	24 (16%)	6 (4%)	2 (1%)	149 (100%)
	第4期	2 (2%)	30 (23%)	45 (34%)	17 (13%)	30 (23%)	5 (4%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	4 (4%)	20 (18%)	33 (30%)	19 (17%)	26 (24%)	6 (5%)	2 (2%)	110 (100%)
内部障害	第1期	12 (17%)	10 (14%)	21 (29%)	16 (22%)	13 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	72 (100%)
	第2期	10 (17%)	8 (13%)	18 (30%)	16 (27%)	7 (12%)	1 (2%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	26 (27%)	14 (15%)	19 (20%)	16 (17%)	18 (19%)	2 (2%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	24 (28%)	11 (13%)	20 (23%)	15 (17%)	13 (15%)	3 (3%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	16 (24%)	9 (13%)	18 (27%)	7 (10%)	17 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	38 (20%)	86 (45%)	39 (20%)	10 (5%)	2 (1%)	15 (8%)	2 (1%)	192 (100%)
	第2期	31 (20%)	70 (45%)	34 (22%)	4 (3%)	1 (1%)	9 (6%)	6 (4%)	155 (100%)
	第3期	45 (21%)	97 (45%)	47 (22%)	5 (2%)	4 (2%)	15 (7%)	4 (2%)	217 (100%)
	第4期	24 (14%)	71 (42%)	38 (22%)	10 (6%)	7 (4%)	13 (8%)	6 (4%)	169 (100%)
	第5期	19 (12%)	56 (36%)	41 (26%)	8 (5%)	11 (7%)	14 (9%)	6 (4%)	155 (100%)
精神障害	第1期	4 (5%)	22 (28%)	28 (35%)	3 (4%)	15 (19%)	8 (10%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	1 (2%)	17 (33%)	18 (35%)	4 (8%)	6 (12%)	6 (12%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	0 (0%)	27 (33%)	22 (27%)	4 (5%)	17 (21%)	11 (14%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	3 (5%)	19 (29%)	19 (29%)	5 (8%)	12 (18%)	7 (11%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	11 (21%)	18 (35%)	5 (10%)	8 (15%)	6 (12%)	1 (2%)	52 (100%)

10 勤務先の変化

第5期調査において、勤務先（自営、内職を含む）について、第4期調査時（2年前）と同じ会社かどうか尋ねた。

図表 2－3－14 第4期調査時（2年前）と同じ勤務先か（単位：人）

	同じ会社 （自営を含む）	同じ会社でない	計
視覚障害	58 (92%)	5 (8%)	63 (100%)
聴覚障害	97 (91%)	10 (9%)	107 (100%)
肢体不自由	101 (94%)	7 (7%)	108 (100%)
内部障害	64 (96%)	3 (5%)	67 (100%)
知的障害	138 (92%)	12 (8%)	150 (100%)
精神障害	43 (84%)	8 (16%)	51 (100%)
計	501 (92%)	45 (8%)	546 (100%)

※無回答を除く

11 現在の勤務先への就業年齢

第5期調査回答者の、現在の勤務先（自営、内職を含む）へ就職した年齢を集計した。

図表 2－3－15 現在の勤務先への就業年齢（単位：人）

	～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60才～	無回答	計
視覚障害	1 (2%)	33 (52%)	16 (25%)	9 (14%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	14 (13%)	44 (41%)	24 (22%)	16 (15%)	9 (8%)	1 (1%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	13 (12%)	44 (40%)	25 (23%)	17 (15%)	10 (9%)	0 (0%)	1 (1%)	110 (100%)
内部障害	7 (10%)	23 (34%)	17 (25%)	12 (18%)	7 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	47 (30%)	57 (37%)	19 (12%)	16 (10%)	11 (7%)	0 (0%)	5 (3%)	155 (100%)
精神障害	0 (0%)	11 (21%)	19 (37%)	11 (21%)	9 (17%)	1 (2%)	1 (2%)	52 (100%)
計	82 (15%)	212 (38%)	120 (22%)	81 (15%)	50 (9%)	3 (1%)	8 (1%)	556 (100%)

12 同一企業等への在職年数

各期の調査に回答した時点で勤務していた職場（自営、内職を含む）の在職年数を、勤務先で仕事を始めた年齢と調査回答時の年齢から集計した。同一企業内において異動した場合は、継続した在職年数としている。

図表 2－3－16 各調査期における同一企業への在職年数（単位：人）

		10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上	無回答・ 不明	計
視覚障害	第1期	65 (64%)	20 (20%)	12 (12%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	102 (100%)
	第2期	41 (57%)	14 (19%)	11 (15%)	4 (6%)	0 (0%)	2 (3%)	72 (100%)
	第3期	37 (50%)	17 (23%)	13 (18%)	5 (7%)	0 (0%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	32 (46%)	20 (29%)	8 (11%)	9 (13%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	17 (27%)	25 (39%)	11 (17%)	10 (16%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	86 (54%)	38 (24%)	28 (18%)	6 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	159 (100%)
	第2期	52 (50%)	21 (20%)	25 (24%)	6 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	68 (46%)	33 (22%)	29 (20%)	10 (7%)	0 (0%)	7 (5%)	147 (100%)
	第4期	57 (44%)	33 (26%)	18 (14%)	12 (9%)	1 (1%)	8 (6%)	129 (100%)
	第5期	36 (33%)	40 (37%)	14 (13%)	15 (14%)	3 (3%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	110 (56%)	46 (24%)	32 (16%)	2 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	195 (100%)
	第2期	82 (53%)	38 (25%)	21 (14%)	7 (5%)	0 (0%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期	67 (45%)	37 (25%)	27 (18%)	14 (9%)	0 (0%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	57 (43%)	30 (23%)	27 (20%)	11 (8%)	0 (0%)	7 (5%)	132 (100%)
	第5期	42 (38%)	30 (27%)	18 (16%)	16 (15%)	2 (2%)	2 (2%)	110 (100%)
内部障害	第1期	38 (53%)	21 (29%)	8 (11%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	26 (43%)	20 (33%)	11 (18%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	39 (41%)	22 (23%)	18 (19%)	14 (15%)	0 (0%)	2 (2%)	95 (100%)
	第4期	25 (29%)	29 (33%)	15 (17%)	13 (15%)	0 (0%)	5 (6%)	87 (100%)
	第5期	20 (30%)	18 (27%)	14 (21%)	14 (21%)	1 (2%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	140 (73%)	23 (12%)	15 (8%)	2 (1%)	0 (0%)	12 (6%)	192 (100%)
	第2期	100 (65%)	24 (15%)	13 (8%)	5 (3%)	0 (0%)	13 (8%)	155 (100%)
	第3期	134 (62%)	35 (16%)	17 (8%)	10 (5%)	1 (0%)	20 (9%)	217 (100%)
	第4期	91 (54%)	43 (25%)	13 (8%)	11 (7%)	0 (0%)	11 (7%)	169 (100%)
	第5期	66 (43%)	60 (39%)	13 (8%)	9 (6%)	2 (1%)	5 (3%)	155 (100%)
精神障害	第1期	67 (84%)	6 (8%)	4 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第2期	43 (83%)	4 (8%)	4 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	68 (84%)	5 (6%)	6 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	56 (86%)	4 (6%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	38 (73%)	11 (21%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)

13 職場の者への障害の説明

障害の内容（症状や配慮してもらいたいことなど）を会社や職場の者に説明しているかどうかを尋ねた。

図表 2－3－17 職場の者への障害の説明（単位：人）

		ほとんどに 説明	ごく一部に 説明	説明して いない	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	65 (64%)	25 (25%)	2 (2%)	2 (2%)	8 (8%)	102 (100%)
	第2期	46 (64%)	17 (24%)	1 (1%)	1 (1%)	7 (10%)	72 (100%)
	第3期	45 (61%)	21 (28%)	4 (5%)	0 (0%)	4 (5%)	74 (100%)
	第4期	53 (76%)	11 (16%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	46 (72%)	11 (17%)	2 (3%)	2 (3%)	3 (5%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	104 (65%)	43 (27%)	9 (6%)	1 (1%)	2 (1%)	159 (100%)
	第2期	63 (60%)	34 (32%)	4 (4%)	1 (1%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期	94 (64%)	39 (27%)	5 (3%)	2 (1%)	7 (5%)	147 (100%)
	第4期	97 (75%)	22 (17%)	4 (3%)	2 (2%)	4 (3%)	129 (100%)
	第5期	82 (76%)	22 (20%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	105 (54%)	77 (39%)	8 (4%)	0 (0%)	5 (3%)	195 (100%)
	第2期	68 (44%)	72 (47%)	6 (4%)	2 (1%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期	82 (55%)	53 (36%)	4 (3%)	6 (4%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	76 (58%)	51 (39%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	70 (64%)	33 (30%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	110 (100%)
内部障害	第1期	50 (69%)	20 (28%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	43 (72%)	17 (28%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	65 (68%)	29 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	68 (78%)	19 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	49 (73%)	18 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	120 (63%)	32 (17%)	17 (9%)	14 (7%)	9 (5%)	192 (100%)
	第2期	99 (64%)	30 (19%)	9 (6%)	10 (6%)	7 (5%)	155 (100%)
	第3期	142 (65%)	43 (20%)	16 (7%)	9 (4%)	7 (3%)	217 (100%)
	第4期	127 (75%)	31 (18%)	2 (1%)	4 (2%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	110 (71%)	27 (17%)	2 (1%)	11 (7%)	5 (3%)	155 (100%)
精神障害	第1期	34 (43%)	43 (54%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	80 (100%)
	第2期	23 (44%)	26 (50%)	0 (0%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	37 (46%)	41 (51%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	31 (48%)	28 (43%)	3 (5%)	3 (5%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	25 (48%)	18 (35%)	4 (8%)	2 (4%)	3 (6%)	52 (100%)

14 仕事の満足度

図表2-3-18 から図表2-3-21 までは、仕事の満足度に関する項目について「満足」から「不満」までの5段階で尋ねた結果である。

図表2-3-18 仕事の内容の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	33 (32%)	45 (44%)	16 (16%)	3 (3%)	4 (4%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	28 (39%)	23 (32%)	11 (15%)	4 (6%)	4 (6%)	2 (3%)	72 (100%)
	第3期	28 (38%)	26 (35%)	14 (19%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	27 (39%)	30 (43%)	7 (10%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	23 (36%)	30 (47%)	7 (11%)	1 (2%)	2 (3%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	32 (20%)	61 (38%)	53 (33%)	10 (6%)	3 (2%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	25 (24%)	38 (36%)	31 (30%)	9 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	105 (100%)
	第3期	24 (16%)	69 (47%)	39 (27%)	11 (7%)	1 (1%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	21 (16%)	53 (41%)	37 (29%)	14 (11%)	3 (2%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	12 (11%)	57 (53%)	31 (29%)	6 (6%)	2 (2%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	72 (37%)	63 (32%)	39 (20%)	14 (7%)	3 (2%)	4 (2%)	195 (100%)
	第2期	47 (31%)	48 (31%)	38 (25%)	11 (7%)	4 (3%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期	54 (36%)	46 (31%)	33 (22%)	6 (4%)	8 (5%)	2 (1%)	149 (100%)
	第4期	37 (28%)	52 (39%)	31 (23%)	6 (5%)	4 (3%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	35 (32%)	37 (34%)	26 (24%)	8 (7%)	3 (3%)	1 (1%)	110 (100%)
内部障害	第1期	23 (32%)	31 (43%)	13 (18%)	1 (1%)	3 (4%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	18 (30%)	30 (50%)	8 (13%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	30 (32%)	43 (45%)	16 (17%)	4 (4%)	1 (1%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	28 (32%)	41 (47%)	12 (14%)	4 (5%)	1 (1%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	24 (36%)	30 (45%)	10 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (2%)	67 (100%)
知的障害	第1期	100 (52%)	51 (27%)	22 (11%)	11 (6%)	2 (1%)	6 (3%)	192 (100%)
	第2期	74 (48%)	52 (34%)	18 (12%)	3 (2%)	2 (1%)	6 (4%)	155 (100%)
	第3期	106 (49%)	67 (31%)	25 (12%)	11 (5%)	2 (1%)	6 (3%)	217 (100%)
	第4期	79 (47%)	52 (31%)	27 (16%)	4 (2%)	1 (1%)	6 (4%)	169 (100%)
	第5期	72 (47%)	53 (34%)	21 (14%)	2 (1%)	4 (3%)	3 (2%)	155 (100%)
精神障害	第1期	26 (33%)	36 (45%)	11 (14%)	5 (6%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	25 (48%)	16 (31%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	18 (22%)	41 (51%)	13 (16%)	6 (7%)	3 (4%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	17 (26%)	36 (55%)	6 (9%)	5 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	16 (31%)	24 (46%)	8 (15%)	1 (2%)	2 (4%)	1 (2%)	52 (100%)

図表 2－3－19 給料・待遇（労働条件等）の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	18 (18%)	37 (36%)	20 (20%)	17 (17%)	9 (9%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	13 (18%)	23 (32%)	18 (25%)	10 (14%)	7 (10%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	16 (22%)	28 (38%)	14 (19%)	10 (14%)	2 (3%)	4 (5%)	74 (100%)
	第4期	13 (19%)	26 (37%)	12 (17%)	11 (16%)	7 (10%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	16 (25%)	18 (28%)	14 (22%)	9 (14%)	6 (9%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	18 (11%)	42 (26%)	47 (30%)	38 (24%)	13 (8%)	1 (1%)	159 (100%)
	第2期	13 (12%)	22 (21%)	39 (37%)	23 (22%)	8 (8%)	0 (0%)	105 (100%)
	第3期	13 (9%)	52 (35%)	35 (24%)	35 (24%)	9 (6%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	44 (34%)	33 (26%)	26 (20%)	11 (9%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	13 (12%)	36 (33%)	33 (31%)	19 (18%)	7 (7%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	54 (28%)	45 (23%)	45 (23%)	21 (11%)	20 (10%)	10 (5%)	195 (100%)
	第2期	38 (25%)	32 (21%)	34 (22%)	32 (21%)	9 (6%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	32 (21%)	37 (25%)	33 (22%)	27 (18%)	16 (11%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	30 (23%)	38 (29%)	26 (20%)	21 (16%)	15 (11%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	25 (23%)	32 (29%)	18 (16%)	21 (19%)	12 (11%)	2 (2%)	110 (100%)
内部障害	第1期	14 (19%)	29 (40%)	11 (15%)	13 (18%)	4 (6%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	9 (15%)	17 (28%)	23 (38%)	8 (13%)	3 (5%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	18 (19%)	28 (29%)	25 (26%)	17 (18%)	6 (6%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	13 (15%)	29 (33%)	28 (32%)	14 (16%)	3 (3%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	10 (15%)	22 (33%)	19 (28%)	13 (19%)	3 (5%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	84 (44%)	52 (27%)	25 (13%)	15 (8%)	4 (2%)	12 (6%)	192 (100%)
	第2期	57 (37%)	48 (31%)	23 (15%)	14 (9%)	6 (4%)	7 (5%)	155 (100%)
	第3期	86 (40%)	56 (26%)	36 (17%)	21 (10%)	8 (4%)	10 (5%)	217 (100%)
	第4期	67 (40%)	41 (24%)	29 (17%)	15 (9%)	8 (5%)	9 (5%)	169 (100%)
	第5期	60 (39%)	43 (28%)	23 (15%)	14 (9%)	8 (5%)	7 (5%)	155 (100%)
精神障害	第1期	19 (24%)	23 (29%)	16 (20%)	12 (15%)	7 (9%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	6 (12%)	12 (23%)	13 (25%)	12 (23%)	9 (17%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	13 (16%)	23 (28%)	24 (30%)	14 (17%)	7 (9%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	13 (20%)	21 (32%)	11 (17%)	15 (23%)	5 (8%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	6 (12%)	21 (40%)	12 (23%)	7 (14%)	5 (10%)	1 (2%)	52 (100%)

図表 2－3－20 職場の人間関係の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	23 (23%)	43 (42%)	21 (21%)	6 (6%)	2 (2%)	7 (7%)	102 (100%)
	第2期	20 (28%)	29 (40%)	13 (18%)	2 (3%)	4 (6%)	4 (6%)	72 (100%)
	第3期	21 (28%)	30 (41%)	13 (18%)	2 (3%)	2 (3%)	6 (8%)	74 (100%)
	第4期	21 (30%)	34 (49%)	10 (14%)	1 (1%)	2 (3%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	23 (36%)	18 (28%)	13 (20%)	3 (5%)	3 (5%)	4 (6%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	18 (11%)	53 (33%)	56 (35%)	27 (17%)	4 (3%)	1 (1%)	159 (100%)
	第2期	15 (14%)	32 (30%)	35 (33%)	21 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	14 (10%)	60 (41%)	42 (29%)	22 (15%)	6 (4%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	11 (9%)	42 (33%)	51 (40%)	17 (13%)	6 (5%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	14 (13%)	27 (25%)	43 (40%)	18 (17%)	6 (6%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	58 (30%)	60 (31%)	41 (21%)	19 (10%)	9 (5%)	8 (4%)	195 (100%)
	第2期	46 (30%)	39 (25%)	38 (25%)	17 (11%)	5 (3%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	35 (23%)	52 (35%)	30 (20%)	18 (12%)	9 (6%)	5 (3%)	149 (100%)
	第4期	30 (23%)	51 (39%)	29 (22%)	11 (8%)	9 (7%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	24 (22%)	39 (36%)	27 (25%)	11 (10%)	8 (7%)	1 (1%)	110 (100%)
内部障害	第1期	17 (24%)	33 (46%)	13 (18%)	6 (8%)	2 (3%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	12 (20%)	25 (42%)	16 (27%)	6 (10%)	1 (2%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	20 (21%)	29 (31%)	31 (33%)	13 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	21 (24%)	28 (32%)	25 (29%)	8 (9%)	4 (5%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	13 (19%)	27 (40%)	17 (25%)	9 (13%)	1 (2%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	88 (46%)	55 (29%)	24 (13%)	12 (6%)	2 (1%)	11 (6%)	192 (100%)
	第2期	61 (39%)	50 (32%)	25 (16%)	9 (6%)	2 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
	第3期	93 (43%)	55 (25%)	38 (18%)	13 (6%)	6 (3%)	12 (6%)	217 (100%)
	第4期	68 (40%)	48 (28%)	24 (14%)	15 (9%)	5 (3%)	9 (5%)	169 (100%)
	第5期	58 (37%)	46 (30%)	30 (19%)	12 (8%)	3 (2%)	6 (4%)	155 (100%)
精神障害	第1期	24 (30%)	32 (40%)	13 (16%)	8 (10%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	6 (12%)	26 (50%)	12 (23%)	5 (10%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	20 (25%)	28 (35%)	18 (22%)	4 (5%)	11 (14%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	17 (26%)	20 (31%)	16 (25%)	9 (14%)	2 (3%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	8 (15%)	17 (33%)	15 (29%)	3 (6%)	8 (15%)	1 (2%)	52 (100%)

図表 2－3－21 職場の環境（施設整備等）の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	37 (36%)	35 (34%)	20 (20%)	7 (7%)	2 (2%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	23 (32%)	27 (38%)	15 (21%)	5 (7%)	0 (0%)	2 (3%)	72 (100%)
	第3期	19 (26%)	33 (45%)	12 (16%)	5 (7%)	1 (1%)	4 (5%)	74 (100%)
	第4期	23 (33%)	24 (34%)	16 (23%)	4 (6%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	16 (25%)	23 (36%)	12 (19%)	9 (14%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	15 (9%)	55 (35%)	63 (40%)	22 (14%)	4 (3%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	13 (12%)	33 (31%)	38 (36%)	18 (17%)	3 (3%)	0 (0%)	105 (100%)
	第3期	14 (10%)	59 (40%)	47 (32%)	20 (14%)	4 (3%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	9 (7%)	36 (28%)	53 (41%)	24 (19%)	6 (5%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	8 (7%)	33 (31%)	46 (43%)	16 (15%)	5 (5%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	84 (43%)	56 (29%)	26 (13%)	15 (8%)	5 (3%)	9 (5%)	195 (100%)
	第2期	58 (38%)	51 (33%)	24 (16%)	7 (5%)	5 (3%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	46 (31%)	57 (38%)	23 (15%)	15 (10%)	4 (3%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	39 (30%)	57 (43%)	17 (13%)	14 (11%)	2 (2%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	30 (27%)	44 (40%)	18 (16%)	12 (11%)	4 (4%)	2 (2%)	110 (100%)
内部障害	第1期	23 (32%)	23 (32%)	16 (22%)	5 (7%)	3 (4%)	2 (3%)	72 (100%)
	第2期	13 (22%)	22 (37%)	15 (25%)	8 (13%)	2 (3%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	23 (24%)	32 (34%)	25 (26%)	12 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	20 (23%)	36 (41%)	16 (18%)	12 (14%)	2 (2%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	16 (24%)	32 (48%)	14 (21%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	85 (44%)	48 (25%)	28 (15%)	11 (6%)	5 (3%)	15 (8%)	192 (100%)
	第2期	65 (42%)	50 (32%)	24 (15%)	5 (3%)	3 (2%)	8 (5%)	155 (100%)
	第3期	88 (41%)	56 (26%)	35 (16%)	16 (7%)	8 (4%)	14 (6%)	217 (100%)
	第4期	69 (41%)	48 (28%)	27 (16%)	10 (6%)	4 (2%)	11 (7%)	169 (100%)
	第5期	59 (38%)	46 (30%)	34 (22%)	7 (5%)	1 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
精神障害	第1期	28 (35%)	29 (36%)	14 (18%)	5 (6%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	21 (40%)	13 (25%)	9 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	22 (27%)	27 (33%)	19 (23%)	8 (10%)	5 (6%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	15 (23%)	26 (40%)	11 (17%)	11 (17%)	2 (3%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	10 (19%)	18 (35%)	14 (27%)	5 (10%)	4 (8%)	1 (2%)	52 (100%)

15 定年年齢

図表 2－3－22 は勤務先の定年年齢が決まっているかどうか、図表 2－3－23 は定年年齢が決まっている場合の具体的な年齢を集計したものである。

図表 2－3－22 勤務先の定年年齢（単位：人）

	決まっている	決まっていない	無回答	計
視覚障害	38 (59%)	25 (39%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	76 (70%)	31 (29%)	1 (1%)	108 (100%)
肢体不自由	92 (84%)	17 (16%)	1 (1%)	110 (100%)
内部障害	50 (75%)	17 (25%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	70 (45%)	82 (53%)	3 (2%)	155 (100%)
精神障害	28 (54%)	22 (42%)	2 (4%)	52 (100%)
計	354 (64%)	194 (35%)	8 (1%)	556 (100%)

図表 2－3－23 決まっている場合の勤務先の定年年齢（単位：人）

	60才未満	60～64才	65～69才	70才以上	無回答	計
視覚障害	0 (0%)	10 (26%)	26 (68%)	2 (5%)	0 (0%)	38 (100%)
聴覚障害	4 (5%)	24 (32%)	43 (57%)	5 (7%)	0 (0%)	76 (100%)
肢体不自由	3 (3%)	33 (36%)	50 (54%)	4 (4%)	2 (2%)	92 (100%)
内部障害	0 (0%)	11 (22%)	37 (74%)	1 (2%)	1 (2%)	50 (100%)
知的障害	1 (1%)	27 (39%)	38 (54%)	4 (6%)	0 (0%)	70 (100%)
精神障害	0 (0%)	4 (14%)	22 (79%)	2 (7%)	0 (0%)	28 (100%)
計	8 (2%)	109 (31%)	216 (61%)	18 (5%)	3 (1%)	354 (100%)

16 働いていたい年齢

現在の仕事に限らず、仕事を続けていたいと思う年齢を尋ねた。

図表 2－3－24 働いていたい年齢（単位：人）

		60歳未満	60～64才	65～69才	70歳以上	無回答	計
視覚障害	第1期	7 (7%)	19 (19%)	21 (21%)	20 (20%)	35 (34%)	102 (100%)
	第2期	6 (8%)	10 (14%)	12 (17%)	17 (24%)	27 (38%)	72 (100%)
	第3期	2 (3%)	11 (15%)	15 (20%)	18 (24%)	28 (38%)	74 (100%)
	第4期	4 (6%)	14 (20%)	19 (27%)	28 (40%)	5 (7%)	70 (100%)
	第5期	1 (2%)	19 (30%)	12 (19%)	28 (44%)	4 (6%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	23 (14%)	40 (25%)	27 (17%)	6 (4%)	63 (40%)	159 (100%)
	第2期	15 (14%)	29 (28%)	19 (18%)	4 (4%)	38 (36%)	105 (100%)
	第3期	17 (12%)	43 (29%)	21 (14%)	5 (3%)	61 (41%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	60 (47%)	38 (29%)	12 (9%)	6 (5%)	129 (100%)
	第5期	15 (14%)	35 (32%)	41 (38%)	17 (16%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	18 (9%)	48 (25%)	27 (14%)	9 (5%)	93 (48%)	195 (100%)
	第2期	20 (13%)	35 (23%)	18 (12%)	6 (4%)	75 (49%)	154 (100%)
	第3期	16 (11%)	34 (23%)	21 (14%)	8 (5%)	70 (47%)	149 (100%)
	第4期	20 (15%)	55 (42%)	38 (29%)	13 (10%)	6 (5%)	132 (100%)
	第5期	11 (10%)	41 (37%)	42 (38%)	11 (10%)	5 (5%)	110 (100%)
内部障害	第1期	10 (14%)	9 (13%)	13 (18%)	6 (8%)	34 (47%)	72 (100%)
	第2期	6 (10%)	16 (27%)	5 (8%)	5 (8%)	28 (47%)	60 (100%)
	第3期	4 (4%)	18 (19%)	11 (12%)	7 (7%)	55 (58%)	95 (100%)
	第4期	6 (7%)	32 (37%)	31 (36%)	15 (17%)	3 (3%)	87 (100%)
	第5期	4 (6%)	22 (33%)	28 (42%)	12 (18%)	1 (1%)	67 (100%)
知的障害	第1期	20 (10%)	76 (40%)	23 (12%)	15 (8%)	58 (30%)	192 (100%)
	第2期	22 (14%)	50 (32%)	23 (15%)	9 (6%)	51 (33%)	155 (100%)
	第3期	29 (13%)	88 (41%)	34 (16%)	13 (6%)	53 (24%)	217 (100%)
	第4期	18 (11%)	66 (39%)	40 (24%)	25 (15%)	20 (12%)	169 (100%)
	第5期	15 (10%)	56 (36%)	47 (30%)	29 (19%)	8 (5%)	155 (100%)
精神障害	第1期	7 (9%)	27 (34%)	26 (33%)	6 (8%)	14 (18%)	80 (100%)
	第2期	8 (15%)	13 (25%)	17 (33%)	4 (8%)	10 (19%)	52 (100%)
	第3期	4 (5%)	24 (30%)	28 (35%)	5 (6%)	20 (25%)	81 (100%)
	第4期	7 (11%)	15 (23%)	27 (42%)	14 (22%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	10 (19%)	25 (48%)	12 (23%)	2 (4%)	52 (100%)

17 働く理由

第5期調査の回答者に、仕事をする理由について尋ねた。7つの項目について、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階で回答した結果が以下である。

図表2-3-25 働く理由（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえ ばあてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえ ばあてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	収入を得る	59 (92%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	64 (100%)
	社会とのつながり	31 (48%)	19 (30%)	8 (13%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)	64 (100%)
	社会の中での役割	34 (53%)	18 (28%)	6 (9%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)	64 (100%)
	自分自身が成長	27 (42%)	16 (25%)	14 (22%)	3 (5%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
	生きがいや楽しみ	18 (28%)	22 (34%)	14 (22%)	4 (6%)	4 (6%)	2 (3%)	64 (100%)
	生活のリズムを維持	18 (28%)	19 (30%)	13 (20%)	7 (11%)	4 (6%)	3 (5%)	64 (100%)
	心身の健康	14 (22%)	19 (30%)	17 (27%)	6 (9%)	3 (5%)	5 (8%)	64 (100%)
聴覚障害	収入を得る	82 (76%)	19 (18%)	6 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
	社会とのつながり	31 (29%)	38 (35%)	27 (25%)	8 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
	社会の中での役割	29 (27%)	39 (36%)	28 (26%)	9 (8%)	1 (1%)	2 (2%)	108 (100%)
	自分自身が成長	42 (39%)	33 (31%)	21 (19%)	8 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
	生きがいや楽しみ	34 (32%)	37 (34%)	22 (20%)	9 (8%)	5 (5%)	1 (1%)	108 (100%)
	生活のリズムを維持	33 (31%)	38 (35%)	23 (21%)	8 (7%)	5 (5%)	1 (1%)	108 (100%)
	心身の健康	25 (23%)	40 (37%)	26 (24%)	10 (9%)	6 (6%)	1 (1%)	108 (100%)
肢体不自由	収入を得る	100 (91%)	8 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	110 (100%)
	社会とのつながり	52 (47%)	34 (31%)	18 (16%)	1 (1%)	3 (3%)	2 (2%)	110 (100%)
	社会の中での役割	47 (43%)	28 (26%)	25 (23%)	2 (2%)	6 (6%)	2 (2%)	110 (100%)
	自分自身が成長	43 (39%)	36 (33%)	22 (20%)	4 (4%)	4 (4%)	1 (1%)	110 (100%)
	生きがいや楽しみ	39 (36%)	36 (33%)	23 (21%)	6 (6%)	5 (5%)	1 (1%)	110 (100%)
	生活のリズムを維持	45 (41%)	36 (33%)	21 (19%)	4 (4%)	3 (3%)	1 (1%)	110 (100%)
	心身の健康	39 (36%)	30 (27%)	27 (25%)	4 (4%)	8 (7%)	2 (2%)	110 (100%)
内部障害	収入を得る	59 (88%)	7 (10%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	社会とのつながり	31 (46%)	23 (34%)	10 (15%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	67 (100%)
	社会の中での役割	27 (40%)	19 (28%)	15 (22%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	67 (100%)
	自分自身が成長	21 (31%)	23 (34%)	17 (25%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	67 (100%)
	生きがいや楽しみ	14 (21%)	29 (43%)	18 (27%)	2 (3%)	3 (5%)	1 (2%)	67 (100%)
	生活のリズムを維持	20 (30%)	31 (46%)	12 (18%)	3 (5%)	0 (0%)	1 (2%)	67 (100%)
	心身の健康	16 (24%)	22 (33%)	22 (33%)	4 (6%)	2 (3%)	1 (2%)	67 (100%)
知的障害	収入を得る	123 (79%)	17 (11%)	5 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	5 (3%)	155 (100%)
	社会とのつながり	78 (50%)	39 (25%)	21 (14%)	2 (1%)	5 (3%)	10 (7%)	155 (100%)
	社会の中での役割	72 (47%)	38 (25%)	28 (18%)	2 (1%)	6 (4%)	9 (6%)	155 (100%)
	自分自身が成長	85 (55%)	36 (23%)	17 (11%)	3 (2%)	5 (3%)	9 (6%)	155 (100%)
	生きがいや楽しみ	90 (58%)	34 (22%)	18 (12%)	3 (2%)	1 (1%)	9 (6%)	155 (100%)
	生活のリズムを維持	96 (62%)	30 (19%)	15 (10%)	4 (3%)	2 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
	心身の健康	91 (59%)	34 (22%)	18 (12%)	1 (1%)	5 (3%)	6 (4%)	155 (100%)
精神障害	収入を得る	42 (81%)	6 (12%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)
	社会とのつながり	25 (48%)	17 (33%)	5 (10%)	1 (2%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	社会の中での役割	21 (40%)	14 (27%)	10 (19%)	3 (6%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	自分自身が成長	21 (40%)	14 (27%)	8 (15%)	3 (6%)	4 (8%)	2 (4%)	52 (100%)
	生きがいや楽しみ	18 (35%)	14 (27%)	12 (23%)	1 (2%)	5 (10%)	2 (4%)	52 (100%)
	生活のリズムを維持	28 (54%)	15 (29%)	5 (10%)	0 (0%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	心身の健康	21 (40%)	20 (39%)	5 (10%)	2 (4%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)

※調査票の表現は図表では略して表記した。「収入を得る」：収入を得るため、「社会とのつながり」：社会とのつながりを持つため、「社会の中で役割」：社会の中で役割を果たすため、「自分自身が成長」：自分自身が成長するため、「生きがいや楽しみ」：生きがいや楽しみのため、「生活のリズムを維持」：生活のリズムを維持するため、「心身の健康」：心身の健康のため

※この質問は第4期調査後期で追加された。

18 今後の仕事への意向

調査回答時に就いていた仕事について、回答以降も続けたいかどうかを尋ねた（図表 2－3－26）。

また、第 5 期調査から、「別の仕事をしたい」と回答した者について、詳細を尋ねる調査項目を追加した（図表 2－3－27）。

図表 2－3－26 今後の仕事への意向（単位：人）

		現在の仕事を 続けたい	別の仕事を したい	もう仕事は したくない	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	72 (71%)	10 (10%)	—	16 (16%)	4 (4%)	102 (100%)
	第2期	44 (61%)	8 (11%)	—	14 (19%)	6 (8%)	72 (100%)
	第3期	49 (66%)	6 (8%)	—	13 (18%)	6 (8%)	74 (100%)
	第4期	51 (73%)	7 (10%)	2 (3%)	9 (13%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	49 (77%)	5 (8%)	0 (0%)	9 (14%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	第1期	86 (54%)	40 (25%)	—	27 (17%)	6 (4%)	159 (100%)
	第2期	57 (54%)	21 (20%)	—	17 (16%)	10 (10%)	105 (100%)
	第3期	84 (57%)	24 (16%)	—	26 (18%)	13 (9%)	147 (100%)
	第4期	76 (59%)	30 (23%)	4 (3%)	19 (15%)	0 (0%)	129 (100%)
	第5期	64 (59%)	30 (28%)	2 (2%)	9 (8%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	124 (64%)	26 (13%)	—	32 (16%)	13 (7%)	195 (100%)
	第2期	77 (50%)	20 (13%)	—	27 (18%)	30 (19%)	154 (100%)
	第3期	94 (63%)	17 (11%)	—	27 (18%)	11 (7%)	149 (100%)
	第4期	84 (64%)	24 (18%)	4 (3%)	17 (13%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	80 (73%)	13 (12%)	5 (5%)	11 (10%)	1 (1%)	110 (100%)
内部障害	第1期	39 (54%)	10 (14%)	—	17 (24%)	6 (8%)	72 (100%)
	第2期	37 (62%)	5 (8%)	—	13 (22%)	5 (8%)	60 (100%)
	第3期	60 (63%)	11 (12%)	—	17 (18%)	7 (7%)	95 (100%)
	第4期	62 (71%)	14 (16%)	0 (0%)	11 (13%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	54 (81%)	10 (15%)	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	67 (100%)
知的障害	第1期	139 (72%)	14 (7%)	—	20 (10%)	19 (10%)	192 (100%)
	第2期	119 (77%)	13 (8%)	—	13 (8%)	10 (6%)	155 (100%)
	第3期	159 (73%)	29 (13%)	—	21 (10%)	8 (4%)	217 (100%)
	第4期	134 (79%)	12 (7%)	3 (2%)	15 (9%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	126 (81%)	19 (12%)	2 (1%)	7 (5%)	1 (1%)	155 (100%)
精神障害	第1期	50 (63%)	11 (14%)	—	17 (21%)	2 (3%)	80 (100%)
	第2期	27 (52%)	9 (17%)	—	14 (27%)	2 (4%)	52 (100%)
	第3期	46 (57%)	11 (14%)	—	18 (22%)	6 (7%)	81 (100%)
	第4期	41 (63%)	12 (18%)	0 (0%)	12 (18%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	34 (65%)	9 (17%)	1 (2%)	7 (13%)	1 (2%)	52 (100%)

※第 4 期調査から選択肢に「もう仕事はしたくない」を追加した。

図表 2－3－27 今後の仕事への意向で「別の仕事をしたい」と回答した者の詳細（複数回答）（単位：人）

	別の会社に転職	別の部署で 今と異なる仕事	今の職場でより 責任のある仕事	今の職場で責任を 減らした仕事	無回答	人数
視覚障害	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
聴覚障害	21 (70%)	6 (20%)	4 (13%)	0 (0%)	1 (3%)	30
肢体不自由	4 (31%)	4 (31%)	3 (23%)	4 (31%)	0 (0%)	13
内部障害	7 (70%)	1 (10%)	0 (0%)	1 (10%)	1 (10%)	10
知的障害	12 (63%)	3 (16%)	2 (11%)	2 (11%)	0 (0%)	19
精神障害	7 (78%)	1 (11%)	0 (0%)	1 (11%)	0 (0%)	9
計	54	17	9	8	2	86

※第 5 期調査から追加した調査項目

19 過去2年間の仕事上の出来事

第4期調査以降の2年間に起きた仕事に関連する出来事について集計した。

図表2-3-28 過去2年間の仕事上の出来事（複数回答）（単位：人）

		配置転換	上司の異動	援助者が いなくなる	昇進した	降格した	給料が 上がった	給料が 下がった	正社員に なった
視覚障害	第2期	7 (10%)	11 (15%)	2 (3%)	3 (4%)	—	23 (32%)	18 (25%)	2 (3%)
	第3期	2 (3%)	9 (12%)	2 (3%)	2 (3%)	—	14 (19%)	14 (19%)	1 (1%)
	第4期	7 (10%)	20 (29%)	4 (6%)	3 (4%)	—	22 (31%)	7 (10%)	1 (1%)
	第5期	2 (3%)	21 (33%)	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	19 (30%)	6 (9%)	—
聴覚障害	第2期	23 (22%)	8 (8%)	3 (3%)	3 (3%)	—	32 (30%)	12 (11%)	4 (4%)
	第3期	11 (7%)	18 (12%)	2 (1%)	1 (1%)	—	35 (24%)	9 (6%)	2 (1%)
	第4期	28 (22%)	34 (26%)	5 (4%)	5 (4%)	—	42 (33%)	7 (5%)	0 (0%)
	第5期	20 (19%)	25 (23%)	5 (5%)	3 (3%)	0 (0%)	35 (32%)	11 (10%)	—
肢体不自由	第2期	37 (24%)	29 (19%)	7 (5%)	9 (6%)	—	53 (34%)	15 (10%)	0 (0%)
	第3期	7 (5%)	23 (15%)	5 (3%)	2 (1%)	—	35 (23%)	22 (15%)	0 (0%)
	第4期	27 (20%)	52 (39%)	10 (8%)	12 (9%)	—	40 (30%)	17 (13%)	1 (1%)
	第5期	24 (22%)	43 (39%)	4 (4%)	16 (15%)	4 (4%)	42 (38%)	14 (13%)	—
内部障害	第2期	23 (38%)	10 (17%)	4 (7%)	8 (13%)	—	17 (28%)	6 (10%)	0 (0%)
	第3期	6 (6%)	8 (8%)	4 (4%)	2 (2%)	—	19 (20%)	14 (15%)	3 (3%)
	第4期	13 (15%)	26 (30%)	7 (8%)	6 (7%)	—	25 (29%)	13 (15%)	1 (1%)
	第5期	10 (15%)	19 (28%)	9 (13%)	7 (10%)	1 (1%)	18 (27%)	10 (15%)	—
知的障害	第2期	23 (15%)	7 (5%)	5 (3%)	2 (1%)	—	36 (23%)	11 (7%)	2 (1%)
	第3期	11 (5%)	30 (14%)	13 (6%)	0 (0%)	—	53 (24%)	13 (6%)	1 (0%)
	第4期	16 (9%)	46 (27%)	10 (6%)	1 (1%)	—	41 (24%)	8 (5%)	3 (2%)
	第5期	13 (8%)	43 (28%)	8 (5%)	2 (1%)	1 (1%)	63 (41%)	10 (6%)	—
精神障害	第2期	11 (21%)	12 (23%)	6 (12%)	3 (6%)	—	23 (44%)	4 (8%)	1 (2%)
	第3期	4 (5%)	15 (19%)	2 (2%)	1 (1%)	—	19 (23%)	2 (2%)	1 (1%)
	第4期	5 (8%)	22 (34%)	4 (6%)	0 (0%)	—	21 (32%)	1 (2%)	0 (0%)
	第5期	1 (2%)	17 (33%)	2 (4%)	2 (4%)	0 (0%)	17 (33%)	3 (6%)	—

		休職した	出向した	転職した	会社が倒産	該当なし	無回答	人数
視覚障害	第2期	2 (3%)	0 (0%)	3 (4%)	1 (1%)	6 (8%)	14 (19%)	72
	第3期	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	26 (35%)	3 (4%)	74
	第4期	2 (3%)	2 (3%)	4 (6%)	1 (1%)	24 (34%)	0 (0%)	70
	第5期	1 (2%)	0 (0%)	6 (9%)	—	26 (41%)	1 (2%)	64
聴覚障害	第2期	3 (3%)	0 (0%)	4 (4%)	1 (1%)	25 (24%)	13 (12%)	105
	第3期	5 (3%)	0 (0%)	11 (7%)	1 (1%)	43 (29%)	16 (11%)	147
	第4期	3 (2%)	0 (0%)	12 (9%)	0 (0%)	41 (32%)	0 (0%)	129
	第5期	8 (7%)	0 (0%)	8 (7%)	—	33 (31%)	1 (1%)	108
肢体不自由	第2期	9 (6%)	0 (0%)	3 (2%)	1 (1%)	28 (18%)	19 (12%)	154
	第3期	7 (5%)	0 (0%)	5 (3%)	0 (0%)	36 (24%)	9 (6%)	149
	第4期	9 (7%)	3 (2%)	3 (2%)	0 (0%)	28 (21%)	0 (0%)	132
	第5期	8 (7%)	1 (1%)	6 (5%)	—	21 (19%)	2 (2%)	110
内部障害	第2期	4 (7%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	5 (8%)	10 (17%)	60
	第3期	8 (8%)	0 (0%)	3 (3%)	0 (0%)	24 (25%)	5 (5%)	95
	第4期	7 (8%)	2 (2%)	5 (6%)	0 (0%)	21 (24%)	0 (0%)	87
	第5期	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	—	23 (34%)	0 (0%)	67
知的障害	第2期	3 (2%)	0 (0%)	6 (4%)	1 (1%)	55 (35%)	31 (20%)	155
	第3期	2 (1%)	0 (0%)	11 (5%)	1 (0%)	18 (8%)	68 (31%)	217
	第4期	2 (1%)	0 (0%)	8 (5%)	0 (0%)	58 (34%)	7 (4%)	169
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	9 (6%)	—	50 (32%)	3 (2%)	155
精神障害	第2期	6 (12%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	7 (13%)	6 (12%)	52
	第3期	7 (9%)	0 (0%)	13 (16%)	0 (0%)	21 (26%)	4 (5%)	81
	第4期	13 (20%)	0 (0%)	8 (12%)	0 (0%)	16 (25%)	0 (0%)	65
	第5期	5 (10%)	1 (2%)	5 (10%)	—	15 (29%)	1 (2%)	52

※第2期以降の調査項目。括弧内は就労者数に対する割合。選択肢「降格した」は第5回で追加した調査項目、選択肢「正社員になった」「勤めていた会社が倒産した」は第5回で削除した調査項目。

20 実際に得られている配慮

現在の職場で実際に理解や配慮が得られている事柄への回答を集計した。

図表 2－3－29 実際に得られている配慮（複数回答）（単位：人）

		作業手順	仕事量	設備	通勤	援助者	休み調整
視覚障害	第4期	13 (19%)	10 (14%)	21 (30%)	13 (19%)	10 (14%)	11 (16%)
	第5期	18 (28%)	12 (19%)	25 (39%)	6 (9%)	12 (19%)	17 (27%)
聴覚障害	第4期	46 (36%)	16 (12%)	13 (10%)	5 (4%)	49 (38%)	19 (15%)
	第5期	54 (50%)	24 (22%)	18 (17%)	4 (4%)	50 (46%)	23 (21%)
肢体不自由	第4期	40 (30%)	49 (37%)	27 (20%)	33 (25%)	26 (20%)	47 (36%)
	第5期	26 (24%)	36 (33%)	29 (26%)	33 (30%)	21 (19%)	45 (41%)
内部障害	第4期	10 (11%)	13 (15%)	2 (2%)	10 (11%)	8 (9%)	42 (48%)
	第5期	10 (15%)	12 (18%)	2 (3%)	9 (13%)	6 (9%)	32 (48%)
知的障害	第4期	88 (52%)	58 (34%)	29 (17%)	24 (14%)	57 (34%)	34 (20%)
	第5期	100 (65%)	71 (46%)	39 (25%)	35 (23%)	74 (48%)	47 (30%)
精神障害	第4期	28 (43%)	29 (45%)	6 (9%)	5 (8%)	17 (26%)	31 (48%)
	第5期	26 (50%)	22 (42%)	7 (13%)	7 (13%)	12 (23%)	21 (40%)
全体	第4期	225 (35%)	175 (27%)	98 (15%)	90 (14%)	167 (26%)	184 (28%)
	第5期	234 (42%)	177 (32%)	120 (22%)	94 (17%)	175 (31%)	185 (33%)

		安全健康	その他	特にない	無回答	人数
視覚障害	第4期	6 (9%)	5 (7%)	9 (13%)	15 (21%)	70
	第5期	11 (17%)	1 (2%)	18 (28%)	5 (8%)	64
聴覚障害	第4期	15 (12%)	8 (6%)	18 (14%)	14 (11%)	129
	第5期	20 (19%)	2 (2%)	20 (19%)	0 (0%)	108
肢体不自由	第4期	37 (28%)	7 (5%)	22 (17%)	8 (6%)	132
	第5期	30 (27%)	2 (2%)	29 (26%)	2 (2%)	110
内部障害	第4期	22 (25%)	6 (7%)	18 (21%)	9 (10%)	87
	第5期	21 (31%)	1 (1%)	22 (33%)	2 (3%)	67
知的障害	第4期	47 (28%)	0 (0%)	9 (5%)	33 (20%)	169
	第5期	48 (31%)	1 (1%)	21 (14%)	4 (3%)	155
精神障害	第4期	14 (22%)	6 (9%)	10 (15%)	5 (8%)	65
	第5期	13 (25%)	0 (0%)	11 (21%)	0 (0%)	52
全体	第4期	141 (22%)	32 (5%)	86 (13%)	84 (13%)	652
	第5期	143 (26%)	7 (1%)	121 (22%)	13 (2%)	556

※調査票の表現は図表では略して表記した。「作業手順」：作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること、「仕事量」：作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること、「設備」：作業を容易にする機器や設備を改善すること、「通勤」：通勤の便宜を図ること、「援助者」：仕事やコミュニケーションを援助してくれる者をまわりに配置すること、「休み調整」：体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること、「安全健康」：安全や健康管理に特別の配慮をすること。

21 仕事を辞めた理由

調査の時点で就労していない者で、仕事を辞めたのが一つ前の調査以降の２年間である場合にその理由を尋ねた。第１期調査から第５期調査までの延べ人数を集計した（図表２－３－30）。

また、仕事を辞めた理由について、選択肢「自分の都合」を選んだ対象者にその詳細を尋ねた。複数回答で、第１期調査から第５期調査までの延べ人数を集計した（図表２－３－31）。

図表２－３－30 仕事を辞めた理由（第１～５期調査の延べ人数）（単位：人）

	事業主の都合	定年退職	定年後の再雇用終了	契約期間満了	休職期間満了	自分の都合	その他	無回答	計
視覚障害	1 (7%)	1 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (80%)	1 (7%)	0 (0%)	15
聴覚障害	2 (9%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (77%)	1 (5%)	1 (5%)	22
肢体不自由	12 (21%)	2 (4%)	1 (2%)	6 (11%)	0 (0%)	32 (56%)	3 (5%)	1 (2%)	57
内部障害	2 (12%)	1 (6%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	12 (71%)	1 (6%)	0 (0%)	17
知的障害	13 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (10%)	0 (0%)	15 (38%)	6 (15%)	2 (5%)	40
精神障害	2 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	3 (8%)	28 (78%)	2 (6%)	0 (0%)	36
計	32 (17%)	5 (3%)	1 (1%)	12 (6%)	3 (2%)	116 (62%)	14 (7%)	4 (2%)	187

※調査時点で就労していない者のみ回答を求めた調査項目。

図表２－３－31 「自分の都合」の詳細（第１～５期調査の延べ人数、複数回答）（単位：人）

	仕事内容	労働条件	人間関係	体調不良	体力	結婚
視覚障害	2 (17%)	0 (0%)	4 (33%)	4 (33%)	2 (17%)	0 (0%)
聴覚障害	2 (12%)	2 (12%)	2 (12%)	5 (29%)	0 (0%)	0 (0%)
肢体不自由	8 (25%)	1 (3%)	13 (41%)	8 (25%)	4 (13%)	0 (0%)
内部障害	0 (0%)	1 (8%)	2 (17%)	5 (42%)	3 (25%)	0 (0%)
知的障害	1 (7%)	2 (13%)	8 (53%)	5 (33%)	1 (7%)	0 (0%)
精神障害	7 (25%)	3 (11%)	7 (25%)	11 (39%)	2 (7%)	0 (0%)
計	20 (17%)	9 (8%)	36 (31%)	38 (32%)	12 (10%)	0 (0%)

	出産	家庭事情	その他	わからない	無回答	人数
視覚障害	1 (8%)	1 (8%)	3 (25%)	0 (0%)	3 (25%)	12
聴覚障害	0 (0%)	1 (6%)	2 (12%)	0 (0%)	8 (47%)	17
肢体不自由	0 (0%)	4 (13%)	3 (9%)	0 (0%)	10 (31%)	32
内部障害	0 (0%)	3 (25%)	2 (17%)	0 (0%)	4 (33%)	12
知的障害	0 (0%)	0 (0%)	2 (13%)	0 (0%)	4 (27%)	15
精神障害	0 (0%)	0 (0%)	4 (14%)	0 (0%)	9 (32%)	28
計	1 (1%)	9 (8%)	16 (14%)	0 (0%)	38 (32%)	118

※調査時点で就労していない者のみ回答を求めた調査項目。調査票の表現は図表では略して表記した。「仕事内容」：仕事内容が合わなかった、「労働条件」：賃金、労働条件に不満があった、「人間関係」：職場の雰囲気・人間関係、「体力」：体力的にきつくなった、「家庭事情」：家庭等の事情（介護など）。

22 今後の仕事についての考え

第5期調査の時点で就労していない者に、今後の仕事への考えについて尋ねた。

図表 2－3－32 今後の仕事についての考え（単位：人）

	就職活動中	将来的には 仕事をしたい	今は 決められない	働くつもりは ない	無回答	計
視覚障害	1 (20%)	2 (40%)	1 (20%)	1 (20%)	0 (0%)	5 (100%)
聴覚障害	3 (27%)	3 (27%)	1 (9%)	1 (9%)	3 (27%)	11 (100%)
肢体不自由	9 (28%)	6 (19%)	6 (19%)	8 (25%)	3 (9%)	32 (100%)
内部障害	4 (33%)	2 (17%)	2 (17%)	2 (17%)	2 (17%)	12 (100%)
知的障害	4 (19%)	4 (19%)	2 (10%)	3 (14%)	8 (38%)	21 (100%)
精神障害	6 (35%)	7 (41%)	1 (6%)	2 (12%)	1 (6%)	17 (100%)
計	27 (28%)	24 (24%)	13 (13%)	17 (17%)	17 (17%)	98 (100%)

※第4期よりこの内容で調査。調査時点で就労していない者のみ回答。調査票の表現は図表では略して表記した。「就職活動中」：現在、就職活動をしている、「将来的には仕事をしたい」：今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている、「今は決められない」：今後、仕事をするかどうか、今は決められない、「働くつもりはない」：職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない。

23 今後の働き方の希望と仕事を探すときに相談する者・機関

第5期調査の時点で就労していない者に、今後の働き方の希望（図表 2－3－33）と、仕事を探すときに相談する者や機関（図表 2－3－34）について尋ねた。

図表 2－3－33 今後の働き方の希望（単位：人）

	正社員・正職員	パート・ アルバイト・ 嘱託・契約社員	自営業または 家族従業者	自宅にて内職	就労継続支援 A型	その他	計
視覚障害	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
聴覚障害	1 (33%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	3
肢体不自由	5 (56%)	2 (22%)	1 (11%)	1 (11%)	1 (11%)	0 (0%)	9
内部障害	1 (25%)	3 (75%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
知的障害	1 (25%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	4
精神障害	3 (50%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	6
計	12	13	1	1	2	3	27

※第3期よりこの内容で調査。調査時点で就労していない者のうち就労希望者（図表 2－3－32 で就職活動中と回答）のみ回答。調査票の表現は図表では略して表記した。「正社員・正職員」：会社やその他の機関で、正社員または正職員として働きたい、「パート・アルバイト・嘱託・契約社員」：会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働きたい、「自営業または家族従業者」：自営業主または家族従業者として働きたい、「自宅にて内職」：自宅にて内職をしたい、「就労継続支援A型」：就労継続支援A型で雇用契約を結んで働きたい。

図表 2-3-34 仕事を探すときに相談する者・機関（複数回答）（単位：人）

	家族や 身近な人	以前の職場	就労支援機関	居住している 場所	福祉・ 相談機関
視覚障害	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
聴覚障害	3 (100%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
肢体不自由	5 (56%)	1 (11%)	2 (22%)	0 (0%)	0 (0%)
内部障害	0 (0%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)
知的障害	3 (75%)	0 (0%)	3 (75%)	2 (50%)	3 (75%)
精神障害	3 (50%)	0 (0%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)
計	15	1	12	2	3

	医療機関	行政機関	同じ障害の ある人の団体	その他	相談・利用 したことはない	計
視覚障害	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
聴覚障害	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
肢体不自由	0 (0%)	7 (78%)	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	9
内部障害	0 (0%)	2 (50%)	1 (25%)	0 (0%)	1 (25%)	4
知的障害	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
精神障害	2 (33%)	6 (100%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	6
計	2	19	2	1	1	27

※調査時点で就労していない者のうち就労希望者（図表 2-3-32 で就職活動中と回答）のみ回答を求めた項目。選択肢「訪問してくる支援事業所」「卒業した学校や現在通っている学校の先生」は回答者なし。

24 職業生活からの引退理由

第 5 期調査の時点で就労していない者の中で、「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答した者に引退理由を尋ねた。

図表 2-3-35 職業生活からの引退理由（複数回答）（単位：人）

	気力	体力	体調	役割を 果たした	引退後の 生活を楽しむ	家事や 家族の世話	働く先が 見つからない	労働環境・ 条件	その他	計
視覚障害	0 (0%)	1 (100%)	1 (100%)	1 (100%)	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
聴覚障害	0 (0%)	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
肢体不自由	4 (50%)	5 (63%)	6 (75%)	2 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (25%)	1 (13%)	0 (0%)	8
内部障害	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
知的障害	0 (0%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	3
精神障害	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	2
計	4	10	12	4	1	1	4	1	1	17

※第 4 期後期で追加した調査項目。調査時点で就労していない者のうち職業生活からの引退希望者のみ回答。調査票の表現は図表では略して表記した。「気力」：気力の面で難しくなったから、「体力」：体力の面で難しくなったから、「体調」：体調の面で難しくなったから、「役割を果たした」：これまで十分に働き、自分の役割を果たしたから、「引退後の生活を楽しむ」：趣味や旅行など、引退後の生活を楽しむため、「家事や家族の世話」：家事や家族の世話（子育て、孫の世話、介護）に時間を充てたいため、「働く先が見つからない」：もっと働きたかったが、働く先が見つからなかったから、「労働環境・条件」：もっと働きたかったが、働くための環境や条件が整わなかったから。なお、選択肢「定年の年齢になったから」には回答した者がいなかった。

本節のこれ以降の集計結果は、特に記載のない場合、就労の有無を問わず第5期調査の全ての回答者を対象としている。

25 仕事に関する相談先

仕事に関して困ったことが起きたときに相談する者・機関について尋ねた。

図表 2－3－36 仕事に関する相談先（複数回答）（単位：人）

	家族や身近な人	職場の人	就労支援機関	居住場所	相談機関
視覚障害	53 (77%)	45 (65%)	5 (7%)	0 (0%)	6 (9%)
聴覚障害	94 (78%)	63 (53%)	6 (5%)	1 (1%)	4 (3%)
肢体不自由	107 (74%)	81 (56%)	13 (9%)	1 (1%)	12 (8%)
内部障害	57 (71%)	44 (55%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)
知的障害	121 (68%)	98 (55%)	68 (38%)	23 (13%)	40 (23%)
精神障害	45 (64%)	38 (54%)	39 (56%)	4 (6%)	17 (24%)
計	477	369	132	29	82

	医療機関	行政機関	訪問支援	学校の先生	障害者団体
視覚障害	4 (6%)	8 (12%)	1 (1%)	9 (13%)	15 (22%)
聴覚障害	4 (3%)	9 (8%)	0 (0%)	4 (3%)	29 (24%)
肢体不自由	12 (8%)	12 (8%)	5 (4%)	6 (4%)	10 (7%)
内部障害	9 (11%)	5 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (21%)
知的障害	11 (6%)	14 (8%)	3 (2%)	11 (6%)	16 (9%)
精神障害	34 (49%)	10 (14%)	2 (3%)	1 (1%)	4 (6%)
計	74	58	11	31	91

	その他	相談しない	無回答	人数
視覚障害	1 (1%)	7 (10%)	1 (1%)	69
聴覚障害	3 (3%)	10 (8%)	2 (2%)	120
肢体不自由	2 (1%)	12 (8%)	3 (2%)	144
内部障害	1 (1%)	6 (8%)	2 (3%)	80
知的障害	1 (1%)	15 (9%)	11 (6%)	177
精神障害	5 (7%)	3 (4%)	1 (1%)	70
計	13	53	20	660

※調査票の表現は図表では略して表記した。「家族や身近な人」：家族や身近な者（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人など）、「職場の人」：職場の者（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医など）、「就労支援機関」：就労支援をする機関の者（障害者就業・生活支援センターの職員、障害者職業センターの職員など）、「居住場所」：居住している場所の者（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員など）、「相談機関」：相談をする機関の者（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員）、「医療機関」：医療機関の者（病院の主治医、ケースワーカー・ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師など）、「行政機関」：行政機関の者（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員など）、「訪問支援」：訪問してくる支援事業所の者（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員、など）、「学校の先生」：卒業した学校や現在通っている学校の先生、「障害者団体」：同じ障害のある者の団体、「相談しない」：相談したり利用したことはない。

26 働く上で重視すること

仕事に関連する6つの項目について、働く上でどの程度重視するかを「重要」から「重要でない」までの5段階で評価してもらい、図表2-3-37から図表2-3-42に集計した。

図表2-3-37 働く上で重視すること（賃金や給料）（単位：人）

		重要	どちらかといえば重要	どちらともいえない	どちらかといえば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	75 (72%)	23 (22%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	53 (68%)	19 (24%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	55 (69%)	20 (25%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	54 (72%)	12 (16%)	3 (4%)	2 (3%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	55 (80%)	10 (15%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	94 (57%)	50 (30%)	16 (10%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	61 (54%)	37 (33%)	9 (8%)	3 (3%)	1 (1%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	102 (64%)	42 (26%)	13 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	88 (61%)	40 (28%)	15 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	76 (63%)	34 (28%)	7 (6%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	146 (68%)	50 (23%)	12 (6%)	3 (1%)	1 (0%)	4 (2%)	216 (100%)
	第2期	101 (58%)	49 (28%)	12 (7%)	5 (3%)	4 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	110 (64%)	43 (25%)	12 (7%)	2 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	171 (100%)
	第4期	97 (65%)	40 (27%)	7 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	99 (69%)	35 (24%)	2 (1%)	3 (2%)	1 (1%)	4 (3%)	144 (100%)
内部障害	第1期	43 (59%)	25 (34%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	36 (59%)	23 (38%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	55 (54%)	36 (36%)	6 (6%)	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	60 (65%)	29 (32%)	3 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期	46 (58%)	25 (31%)	5 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
知的障害	第1期	164 (83%)	21 (11%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	138 (82%)	23 (14%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	168 (100%)
	第3期	200 (84%)	21 (9%)	5 (2%)	2 (1%)	1 (0%)	8 (3%)	237 (100%)
	第4期	156 (81%)	22 (11%)	4 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (6%)	193 (100%)
	第5期	136 (77%)	25 (14%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	9 (5%)	177 (100%)
精神障害	第1期	54 (65%)	20 (24%)	4 (5%)	4 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	31 (49%)	25 (40%)	4 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	53 (56%)	30 (32%)	9 (10%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	47 (55%)	28 (33%)	6 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	40 (57%)	21 (30%)	6 (9%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)

図表 2-3-38 働く上で重視すること（自分の能力・経験が発揮できる）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	79 (76%)	20 (19%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	104 (100%)
	第2期	52 (67%)	20 (26%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	57 (71%)	15 (19%)	4 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第4期	49 (65%)	16 (21%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	49 (71%)	17 (25%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	83 (50%)	57 (35%)	22 (13%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	55 (49%)	36 (32%)	19 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	81 (51%)	53 (33%)	24 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	70 (48%)	53 (37%)	19 (13%)	2 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	66 (55%)	38 (32%)	14 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	115 (53%)	64 (30%)	31 (14%)	0 (0%)	3 (1%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	74 (43%)	73 (42%)	19 (11%)	2 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	92 (54%)	55 (32%)	19 (11%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (2%)	171 (100%)
	第4期	66 (44%)	63 (42%)	17 (11%)	2 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	150 (100%)
	第5期	78 (54%)	42 (29%)	17 (12%)	1 (1%)	1 (1%)	5 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	29 (40%)	34 (47%)	8 (11%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	23 (38%)	29 (48%)	7 (11%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	41 (41%)	43 (43%)	12 (12%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	29 (32%)	44 (48%)	15 (16%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	31 (39%)	33 (41%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
知的障害	第1期	128 (65%)	43 (22%)	13 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	12 (6%)	198 (100%)
	第2期	105 (63%)	44 (26%)	15 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	153 (65%)	56 (24%)	15 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (5%)	237 (100%)
	第4期	98 (51%)	55 (28%)	21 (11%)	2 (1%)	0 (0%)	17 (9%)	193 (100%)
	第5期	84 (48%)	58 (33%)	24 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
精神障害	第1期	35 (42%)	33 (40%)	11 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	27 (43%)	22 (35%)	11 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	63 (100%)
	第3期	39 (41%)	36 (38%)	16 (17%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	29 (34%)	30 (35%)	20 (24%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	33 (47%)	23 (33%)	9 (13%)	3 (4%)	1 (1%)	1 (1%)	70 (100%)

図表 2-3-39 働く上で重視すること（仕事の内容）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	81 (78%)	17 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	104 (100%)
	第2期	49 (63%)	24 (31%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	52 (65%)	22 (28%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	48 (64%)	16 (21%)	6 (8%)	2 (3%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	47 (68%)	18 (26%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	75 (45%)	63 (38%)	22 (13%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	41 (36%)	53 (47%)	16 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	75 (47%)	64 (40%)	16 (10%)	3 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	69 (48%)	53 (37%)	22 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	61 (51%)	42 (35%)	13 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (3%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	114 (53%)	58 (27%)	36 (17%)	1 (0%)	4 (2%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	74 (43%)	62 (36%)	31 (18%)	1 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	89 (52%)	51 (30%)	22 (13%)	2 (1%)	2 (1%)	5 (3%)	171 (100%)
	第4期	76 (51%)	49 (33%)	16 (11%)	5 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	81 (56%)	44 (31%)	13 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	30 (41%)	34 (47%)	6 (8%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	25 (41%)	27 (44%)	8 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	43 (43%)	42 (42%)	13 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	101 (100%)
	第4期	27 (29%)	55 (60%)	7 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (2%)	92 (100%)
	第5期	28 (35%)	36 (45%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
知的障害	第1期	137 (69%)	34 (17%)	14 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (7%)	198 (100%)
	第2期	100 (60%)	51 (30%)	13 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	143 (60%)	64 (27%)	15 (6%)	2 (1%)	0 (0%)	13 (5%)	237 (100%)
	第4期	129 (67%)	36 (19%)	13 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (8%)	193 (100%)
	第5期	100 (57%)	48 (27%)	15 (9%)	2 (1%)	1 (1%)	11 (6%)	177 (100%)
精神障害	第1期	39 (47%)	33 (40%)	10 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	30 (48%)	20 (32%)	11 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	48 (51%)	25 (27%)	17 (18%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	45 (53%)	25 (29%)	12 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	37 (53%)	23 (33%)	9 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)

図表 2－3－40 働く上で重視すること（職場の環境整備）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	50 (48%)	42 (40%)	8 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	36 (46%)	25 (32%)	9 (12%)	1 (1%)	2 (3%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	37 (46%)	29 (36%)	10 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	41 (55%)	23 (31%)	7 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	40 (58%)	21 (30%)	7 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	64 (39%)	56 (34%)	37 (22%)	6 (4%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	47 (42%)	43 (38%)	20 (18%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	73 (46%)	64 (40%)	17 (11%)	2 (1%)	2 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	69 (48%)	51 (35%)	22 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	145 (100%)
	第5期	54 (45%)	43 (36%)	18 (15%)	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	124 (57%)	57 (26%)	23 (11%)	6 (3%)	1 (0%)	5 (2%)	216 (100%)
	第2期	97 (56%)	57 (33%)	12 (7%)	2 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	96 (56%)	51 (30%)	15 (9%)	4 (2%)	1 (1%)	4 (2%)	171 (100%)
	第4期	87 (58%)	49 (33%)	9 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (3%)	150 (100%)
	第5期	78 (54%)	45 (31%)	16 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	22 (30%)	33 (45%)	14 (19%)	3 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	17 (28%)	27 (44%)	12 (20%)	2 (3%)	1 (2%)	2 (3%)	61 (100%)
	第3期	17 (17%)	63 (62%)	14 (14%)	5 (5%)	1 (1%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	22 (24%)	52 (57%)	16 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	19 (24%)	41 (51%)	15 (19%)	2 (3%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
知的障害	第1期	143 (72%)	32 (16%)	11 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (6%)	198 (100%)
	第2期	107 (64%)	41 (24%)	15 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (3%)	168 (100%)
	第3期	151 (64%)	54 (23%)	17 (7%)	1 (0%)	0 (0%)	14 (6%)	237 (100%)
	第4期	125 (65%)	38 (20%)	10 (5%)	3 (2%)	0 (0%)	17 (9%)	193 (100%)
	第5期	93 (53%)	48 (27%)	16 (9%)	4 (2%)	1 (1%)	15 (9%)	177 (100%)
精神障害	第1期	38 (46%)	34 (41%)	9 (11%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	30 (48%)	22 (35%)	8 (13%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	37 (39%)	40 (43%)	14 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	40 (47%)	33 (39%)	7 (8%)	3 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	26 (37%)	30 (43%)	12 (17%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	70 (100%)

図表 2－3－41 働く上で重視すること（勤務時間や休日）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	51 (49%)	35 (34%)	11 (11%)	3 (3%)	2 (2%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	37 (47%)	22 (28%)	14 (18%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	39 (49%)	29 (36%)	7 (9%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	41 (55%)	21 (28%)	9 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	42 (61%)	13 (19%)	10 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	78 (47%)	49 (30%)	30 (18%)	3 (2%)	0 (0%)	5 (3%)	165 (100%)
	第2期	48 (42%)	41 (36%)	18 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	74 (47%)	59 (37%)	23 (14%)	2 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	72 (50%)	45 (31%)	22 (15%)	3 (2%)	1 (1%)	2 (1%)	145 (100%)
	第5期	68 (57%)	34 (28%)	14 (12%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	113 (52%)	69 (32%)	22 (10%)	6 (3%)	3 (1%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	84 (48%)	59 (34%)	20 (11%)	4 (2%)	3 (2%)	4 (2%)	174 (100%)
	第3期	85 (50%)	61 (36%)	16 (9%)	2 (1%)	2 (1%)	5 (3%)	171 (100%)
	第4期	75 (50%)	57 (38%)	11 (7%)	2 (1%)	1 (1%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	75 (52%)	47 (33%)	14 (10%)	1 (1%)	2 (1%)	5 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	38 (52%)	25 (34%)	9 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	28 (46%)	20 (33%)	11 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	61 (100%)
	第3期	49 (49%)	36 (36%)	10 (10%)	5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	44 (48%)	27 (29%)	18 (20%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	35 (44%)	27 (34%)	10 (13%)	5 (6%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
知的障害	第1期	130 (66%)	37 (19%)	16 (8%)	2 (1%)	1 (1%)	12 (6%)	198 (100%)
	第2期	110 (65%)	41 (24%)	12 (7%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	151 (64%)	60 (25%)	12 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	12 (5%)	237 (100%)
	第4期	131 (68%)	37 (19%)	8 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	16 (8%)	193 (100%)
	第5期	110 (62%)	45 (25%)	10 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
精神障害	第1期	52 (63%)	19 (23%)	10 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	42 (67%)	12 (19%)	6 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	63 (100%)
	第3期	56 (60%)	26 (28%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	55 (65%)	18 (21%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	41 (59%)	23 (33%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)

図表 2-3-42 働く上で重視すること（仕事仲間との人間関係）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	67 (64%)	23 (22%)	8 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	48 (62%)	18 (23%)	6 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	52 (65%)	17 (21%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	5 (6%)	80 (100%)
	第4期	45 (60%)	18 (24%)	7 (9%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	43 (62%)	17 (25%)	6 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	71 (43%)	63 (38%)	19 (12%)	7 (4%)	1 (1%)	4 (2%)	165 (100%)
	第2期	54 (48%)	44 (39%)	10 (9%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	63 (40%)	69 (43%)	20 (13%)	4 (3%)	2 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	65 (45%)	52 (36%)	23 (16%)	4 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	62 (52%)	31 (26%)	24 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	128 (59%)	58 (27%)	21 (10%)	0 (0%)	5 (2%)	4 (2%)	216 (100%)
	第2期	102 (59%)	44 (25%)	23 (13%)	2 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	92 (54%)	54 (32%)	15 (9%)	2 (1%)	3 (2%)	5 (3%)	171 (100%)
	第4期	84 (56%)	42 (28%)	15 (10%)	2 (1%)	3 (2%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	80 (56%)	36 (25%)	20 (14%)	3 (2%)	1 (1%)	4 (3%)	144 (100%)
内部障害	第1期	37 (51%)	27 (37%)	8 (11%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	35 (57%)	21 (34%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	44 (44%)	44 (44%)	12 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	44 (48%)	34 (37%)	13 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	32 (40%)	32 (40%)	13 (16%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
知的障害	第1期	145 (73%)	28 (14%)	10 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	13 (7%)	198 (100%)
	第2期	112 (67%)	37 (22%)	13 (8%)	1 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	168 (100%)
	第3期	156 (66%)	41 (17%)	21 (9%)	4 (2%)	2 (1%)	13 (5%)	237 (100%)
	第4期	133 (69%)	36 (19%)	6 (3%)	3 (2%)	2 (1%)	13 (7%)	193 (100%)
	第5期	100 (57%)	51 (29%)	13 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	11 (6%)	177 (100%)
精神障害	第1期	54 (65%)	24 (29%)	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	35 (56%)	23 (37%)	2 (3%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	56 (60%)	30 (32%)	4 (4%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	59 (69%)	14 (16%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	47 (67%)	17 (24%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)

27 職場に配慮を希望すること

働く上で職場にどのような配慮を希望するかについて尋ねた。回答時に就労していない者へは、自身の就労時の経験から回答を求めた。

図表 2－3－43 職場に配慮を希望すること（複数回答）（単位：人）

		作業手順	仕事量	設備	通勤	援助者	休み	安全健康	その他	特にない	人数
視覚障害	第1期	49 (47%)	31 (30%)	42 (40%)	19 (18%)	31 (30%)	28 (27%)	26 (25%)	15 (14%)	—	104
	第2期	29 (37%)	16 (21%)	24 (31%)	14 (18%)	18 (23%)	17 (22%)	17 (22%)	9 (12%)	—	78
	第3期	25 (31%)	25 (31%)	30 (38%)	17 (21%)	25 (31%)	20 (25%)	20 (25%)	4 (5%)	—	80
	第4期	28 (37%)	22 (29%)	39 (52%)	19 (25%)	19 (25%)	17 (23%)	16 (21%)	4 (5%)	—	75
	第5期	33 (48%)	17 (25%)	35 (51%)	16 (23%)	29 (42%)	22 (32%)	24 (35%)	4 (6%)	13 (19%)	69
聴覚障害	第1期	72 (44%)	30 (18%)	44 (27%)	4 (2%)	114 (69%)	31 (19%)	26 (16%)	15 (9%)	—	165
	第2期	50 (44%)	19 (17%)	24 (21%)	5 (4%)	72 (64%)	20 (18%)	25 (22%)	18 (16%)	—	113
	第3期	75 (47%)	30 (19%)	32 (20%)	6 (4%)	107 (67%)	38 (24%)	33 (21%)	11 (7%)	—	159
	第4期	70 (48%)	25 (17%)	24 (17%)	8 (6%)	93 (64%)	27 (19%)	29 (20%)	10 (7%)	—	145
	第5期	73 (61%)	36 (30%)	29 (24%)	4 (3%)	87 (73%)	27 (23%)	30 (25%)	3 (3%)	12 (10%)	120
肢体不自由	第1期	92 (43%)	90 (42%)	58 (27%)	43 (20%)	54 (25%)	86 (40%)	61 (28%)	25 (12%)	—	216
	第2期	60 (34%)	60 (34%)	44 (25%)	41 (24%)	32 (18%)	77 (44%)	35 (20%)	16 (9%)	—	174
	第3期	70 (41%)	64 (37%)	44 (26%)	43 (25%)	32 (19%)	65 (38%)	39 (23%)	16 (9%)	—	171
	第4期	66 (44%)	58 (39%)	36 (24%)	47 (31%)	27 (18%)	70 (47%)	53 (35%)	10 (7%)	—	150
	第5期	62 (43%)	63 (44%)	55 (38%)	57 (40%)	33 (23%)	64 (44%)	43 (30%)	6 (4%)	20 (14%)	144
内部障害	第1期	18 (25%)	15 (21%)	8 (11%)	11 (15%)	14 (19%)	44 (60%)	17 (23%)	15 (21%)	—	73
	第2期	15 (25%)	22 (36%)	6 (10%)	9 (15%)	11 (18%)	34 (56%)	18 (30%)	7 (11%)	—	61
	第3期	21 (21%)	18 (18%)	8 (8%)	15 (15%)	10 (10%)	64 (63%)	35 (35%)	6 (6%)	—	101
	第4期	19 (21%)	18 (20%)	8 (9%)	9 (10%)	11 (12%)	52 (57%)	23 (25%)	6 (7%)	—	92
	第5期	21 (26%)	19 (24%)	9 (11%)	9 (11%)	9 (11%)	41 (51%)	23 (29%)	0 (0%)	15 (19%)	80
知的障害	第1期	134 (68%)	100 (51%)	28 (14%)	26 (13%)	113 (57%)	39 (20%)	44 (22%)	11 (6%)	—	198
	第2期	107 (64%)	79 (47%)	23 (14%)	23 (14%)	83 (49%)	35 (21%)	33 (20%)	12 (7%)	—	168
	第3期	137 (58%)	103 (43%)	22 (9%)	22 (9%)	102 (43%)	47 (20%)	53 (22%)	11 (5%)	—	237
	第4期	118 (61%)	71 (37%)	29 (15%)	23 (12%)	78 (40%)	52 (27%)	54 (28%)	3 (2%)	—	193
	第5期	121 (68%)	80 (45%)	49 (28%)	41 (23%)	97 (55%)	53 (30%)	58 (33%)	2 (1%)	16 (9%)	177
精神障害	第1期	43 (52%)	40 (48%)	13 (16%)	11 (13%)	37 (45%)	41 (49%)	23 (28%)	4 (5%)	—	83
	第2期	28 (44%)	29 (46%)	12 (19%)	9 (14%)	29 (46%)	30 (48%)	13 (21%)	7 (11%)	—	63
	第3期	51 (54%)	38 (40%)	12 (13%)	10 (11%)	36 (38%)	36 (38%)	20 (21%)	5 (5%)	—	94
	第4期	49 (58%)	38 (45%)	12 (14%)	16 (19%)	41 (48%)	44 (52%)	19 (22%)	4 (5%)	—	85
	第5期	40 (57%)	35 (50%)	14 (20%)	14 (20%)	30 (43%)	44 (63%)	21 (30%)	4 (6%)	6 (9%)	70

※調査票の表現は図表では略して表記した。「作業手順」：作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること、「仕事量」：作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること、「設備」：作業を容易にする機器や設備を改善すること、「通勤」：通勤の便宜を図ること、「援助者」：仕事やコミュニケーションを援助してくれる者をまわりに配置すること、「休み」：体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること、「安全健康」：安全や健康管理に特別の配慮をすること。

28 職場への要望

仕事をする上で職場や職場の者に特に望むことについて尋ねた。回答時に就労していない者へは、自身の就労時の経験から回答を求めた。

図表 2－3－44 職場への要望（複数回答）（単位：人）

	理解	仲間	雇用維持	給与改善	時間休日	昇進	教育	健康	相談	その他	特にない	人数
視覚障害	第1期 57 (55%)	6 (6%)	44 (42%)	39 (38%)	19 (18%)	37 (36%)	25 (24%)	13 (13%)	25 (24%)	3 (3%)	—	104
	第2期 41 (53%)	3 (4%)	27 (35%)	30 (38%)	8 (10%)	20 (26%)	21 (27%)	5 (6%)	17 (22%)	5 (6%)	—	78
	第3期 41 (51%)	4 (5%)	28 (35%)	23 (29%)	12 (15%)	21 (26%)	19 (24%)	9 (11%)	14 (18%)	7 (9%)	—	80
	第4期 39 (52%)	4 (5%)	26 (35%)	29 (39%)	15 (20%)	23 (31%)	12 (16%)	8 (11%)	13 (17%)	4 (5%)	0 (0%)	75
	第5期 39 (57%)	14 (20%)	22 (32%)	24 (35%)	7 (10%)	23 (33%)	18 (26%)	5 (7%)	16 (23%)	0 (0%)	7 (10%)	69
聴覚障害	第1期 102 (62%)	38 (23%)	57 (35%)	61 (37%)	16 (10%)	69 (42%)	48 (29%)	25 (15%)	52 (32%)	11 (7%)	—	165
	第2期 65 (58%)	34 (30%)	38 (34%)	44 (39%)	15 (13%)	38 (34%)	30 (27%)	17 (15%)	38 (34%)	8 (7%)	—	113
	第3期 89 (56%)	37 (23%)	47 (30%)	56 (35%)	19 (12%)	54 (34%)	43 (27%)	22 (14%)	46 (29%)	12 (8%)	—	159
	第4期 91 (63%)	37 (26%)	41 (28%)	60 (41%)	19 (13%)	52 (36%)	38 (26%)	24 (17%)	40 (28%)	10 (7%)	0 (0%)	145
	第5期 68 (57%)	42 (35%)	38 (32%)	44 (37%)	19 (16%)	40 (33%)	32 (27%)	13 (11%)	36 (30%)	8 (7%)	10 (8%)	120
肢体不自由	第1期 87 (40%)	14 (6%)	82 (38%)	82 (38%)	37 (17%)	74 (34%)	45 (21%)	31 (14%)	55 (25%)	11 (5%)	—	216
	第2期 73 (42%)	12 (7%)	66 (38%)	58 (33%)	52 (30%)	47 (27%)	20 (11%)	28 (16%)	39 (22%)	12 (7%)	—	174
	第3期 64 (37%)	13 (8%)	61 (36%)	63 (37%)	43 (25%)	44 (26%)	22 (13%)	13 (8%)	37 (22%)	7 (4%)	—	171
	第4期 56 (37%)	13 (9%)	50 (33%)	59 (39%)	35 (23%)	42 (28%)	24 (16%)	27 (18%)	42 (28%)	6 (4%)	0 (0%)	150
	第5期 56 (39%)	21 (15%)	52 (36%)	52 (36%)	39 (27%)	35 (24%)	18 (13%)	24 (17%)	34 (24%)	6 (4%)	25 (17%)	144
内部障害	第1期 20 (27%)	4 (5%)	27 (37%)	28 (38%)	24 (33%)	25 (34%)	15 (21%)	7 (10%)	10 (14%)	7 (10%)	—	73
	第2期 28 (46%)	4 (7%)	19 (31%)	20 (33%)	15 (25%)	17 (28%)	11 (18%)	10 (16%)	9 (15%)	5 (8%)	—	61
	第3期 41 (41%)	0 (0%)	29 (29%)	33 (33%)	29 (29%)	35 (35%)	12 (12%)	11 (11%)	15 (15%)	6 (6%)	—	101
	第4期 43 (47%)	7 (8%)	22 (24%)	31 (34%)	25 (27%)	20 (22%)	13 (14%)	12 (13%)	17 (18%)	4 (4%)	0 (0%)	92
	第5期 28 (35%)	5 (6%)	20 (25%)	21 (26%)	22 (28%)	31 (39%)	6 (8%)	9 (11%)	13 (16%)	2 (3%)	14 (18%)	80
知的障害	第1期 87 (44%)	40 (20%)	139 (70%)	72 (36%)	22 (11%)	36 (18%)	20 (10%)	27 (14%)	83 (42%)	9 (5%)	—	198
	第2期 73 (43%)	28 (17%)	125 (74%)	64 (38%)	29 (17%)	39 (23%)	17 (10%)	26 (15%)	73 (43%)	8 (5%)	—	168
	第3期 91 (38%)	36 (15%)	151 (64%)	85 (36%)	29 (12%)	50 (21%)	16 (7%)	28 (12%)	91 (38%)	6 (3%)	—	237
	第4期 87 (45%)	22 (11%)	123 (64%)	78 (40%)	28 (15%)	38 (20%)	11 (6%)	24 (12%)	66 (34%)	4 (2%)	0 (0%)	193
	第5期 89 (50%)	43 (24%)	106 (60%)	73 (41%)	40 (23%)	35 (20%)	19 (11%)	25 (14%)	61 (34%)	2 (1%)	23 (13%)	177
精神障害	第1期 52 (63%)	7 (8%)	49 (59%)	36 (43%)	23 (28%)	36 (43%)	24 (29%)	13 (16%)	37 (45%)	5 (6%)	—	83
	第2期 37 (59%)	4 (6%)	30 (48%)	27 (43%)	15 (24%)	21 (33%)	13 (21%)	12 (19%)	21 (33%)	0 (0%)	—	63
	第3期 49 (52%)	6 (6%)	53 (56%)	39 (41%)	23 (24%)	26 (28%)	10 (11%)	14 (15%)	30 (32%)	3 (3%)	—	94
	第4期 42 (49%)	7 (8%)	44 (52%)	35 (41%)	23 (27%)	25 (29%)	8 (9%)	15 (18%)	38 (45%)	6 (7%)	0 (0%)	85
	第5期 42 (60%)	11 (16%)	35 (50%)	30 (43%)	26 (37%)	25 (36%)	13 (19%)	14 (20%)	34 (49%)	2 (3%)	3 (4%)	70

※「特にない」は第4期調査票から選択肢に追加したが、4期報告書では集計されていないため0とした。

29 差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況

第5期調査では、雇用の分野における障害者に対する差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況について新たに調査した。

まず、すべての者に対して、指針について把握しているかどうかを尋ねた（図表2－3－45）。就労中の者、就労していない者、就労中かどうかが不明の者別に集計した図表をあわせて示した。

図表2－3－45 雇用分野における障害者の差別禁止・合理的配慮の指針の把握状況（単位：人）

	把握している	聞いたことはあるが 把握していない	知らない	無回答	計
視覚障害	23 (33%)	29 (42%)	16 (23%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	61 (51%)	34 (28%)	22 (18%)	3 (3%)	120 (100%)
肢体不自由	41 (29%)	40 (28%)	58 (40%)	5 (4%)	144 (100%)
内部障害	24 (30%)	22 (28%)	31 (39%)	3 (4%)	80 (100%)
知的障害	26 (15%)	27 (15%)	112 (63%)	12 (7%)	177 (100%)
精神障害	10 (14%)	19 (27%)	39 (56%)	2 (3%)	70 (100%)
計	185 (28%)	171 (26%)	278 (42%)	26 (4%)	660 (100%)

うち就労中の者の結果

	把握している	聞いたことはあるが 把握していない	知らない	無回答	計
視覚障害	21 (33%)	28 (44%)	14 (22%)	1 (2%)	64 (100%)
聴覚障害	55 (51%)	32 (30%)	19 (18%)	2 (2%)	108 (100%)
肢体不自由	33 (30%)	31 (28%)	45 (41%)	1 (1%)	110 (100%)
内部障害	22 (33%)	22 (33%)	22 (33%)	1 (2%)	67 (100%)
知的障害	22 (14%)	25 (16%)	99 (64%)	9 (6%)	155 (100%)
精神障害	8 (15%)	18 (35%)	25 (48%)	1 (2%)	52 (100%)
計	161 (29%)	156 (28%)	224 (40%)	15 (3%)	556 (100%)

うち就労していない者の結果

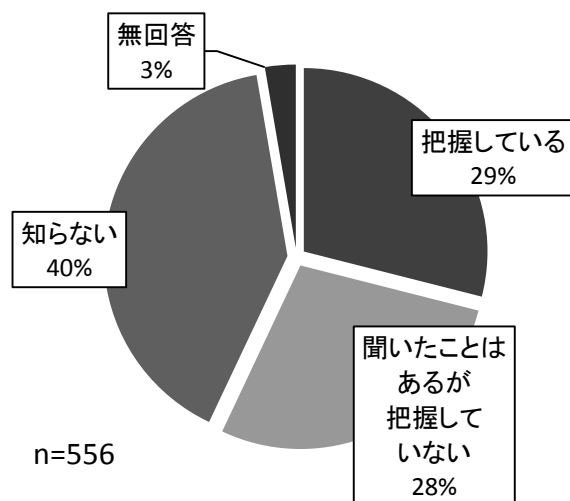
	把握している	聞いたことはあるが 把握していない	知らない	無回答	計
視覚障害	2 (40%)	1 (20%)	2 (40%)	0 (0%)	5 (100%)
聴覚障害	5 (46%)	2 (18%)	3 (27%)	1 (9%)	11 (100%)
肢体不自由	7 (22%)	9 (28%)	13 (41%)	3 (9%)	32 (100%)
内部障害	2 (17%)	0 (0%)	8 (67%)	2 (17%)	12 (100%)
知的障害	4 (19%)	2 (10%)	12 (57%)	3 (14%)	21 (100%)
精神障害	2 (12%)	1 (6%)	14 (82%)	0 (0%)	17 (100%)
計	22 (22%)	15 (15%)	52 (53%)	9 (9%)	98 (100%)

うち就労中かどうか不明の者の結果

	把握している	聞いたことはあるが 把握していない	知らない	無回答	計
視覚障害	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
聴覚障害	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
肢体不自由	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)
内部障害	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
知的障害	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
精神障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	1 (100%)
計	2 (33%)	0 (0%)	2 (33%)	2 (33%)	6 (100%)

※調査票の表現は、図表では略して表記した。「把握している」：指針の内容を把握している、「聞いたことはあるが把握していない」：指針の名称は聞いたことがあるが内容は把握していない。

図表 2－3－45 の就労者 556 人の、障害のある者への差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況をグラフにした（図表 2－3－46）。「内容を把握している」と「名称は聞いたことがあるが、内容は把握していない」を合わせると、半数を超える者に差別禁止指針と合理的配慮指針に触れる機会があった一方で、約 4 割の者が「知らない」と回答していた。



図表 2－3－46 障害のある者への差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況

30 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会

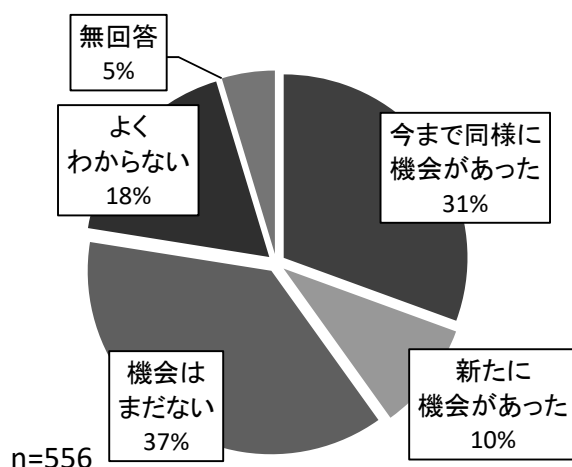
次に、平成 28 年 4 月以降における職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の有無について、就労中の者へ調査した。

図表 2－3－47 平成 28 年 4 月以降の職場で支障となっていることの確認や話合いの機会（単位：人）

	今まで同様に 機会があった	新たに機会が あった	機会は まだない	よくわからない	無回答	計
視覚障害	16 (25%)	3 (5%)	27 (42%)	11 (17%)	7 (11%)	64 (100%)
聴覚障害	44 (41%)	16 (15%)	39 (36%)	6 (6%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	30 (27%)	7 (6%)	50 (46%)	16 (15%)	7 (6%)	110 (100%)
内部障害	15 (22%)	5 (8%)	37 (55%)	7 (10%)	3 (5%)	67 (100%)
知的障害	53 (34%)	11 (7%)	35 (23%)	51 (33%)	5 (3%)	155 (100%)
精神障害	12 (23%)	11 (21%)	20 (39%)	8 (15%)	1 (2%)	52 (100%)
計	170 (31%)	53 (10%)	208 (37%)	99 (18%)	26 (5%)	556 (100%)

※調査票の表現は、図表では略して表記した。「今まで同様に機会があった」：今までと同じように確認や話合いの機会があった、「新たに機会があった」：新たに確認や話合いの機会があった、「機会はまだない」：確認や話合いの機会はまだない。

図表 2－3－47 で示した、就労中 556 人の平成 28 年 4 月以降の職場での合理的配慮に関する話合いの機会の状況をグラフにした（図表 2－3－48）。「今までと同じように機会があった」者と「新たに機会があった」者を合わせると、約 4 割の者に話合いの機会がある一方で、話合いの「機会はまだない」との回答も約 4 割あった。



図表 2－3－48 平成 28 年 4 月以降の職場での合理的配慮に関する話合いの機会の状況

第 4 節 調査回答者の生活状況

1 家族構成の状況

第 5 期調査回答者の家族構成は図表 2－4－1 のとおりである（ここでは同居の有無は問わない）。

図表 2－4－1 家族構成の状況（複数回答）（単位：人）

	配偶者	子ども	自分の父親	自分の母親	兄弟姉妹	その他	無回答	人数
視覚障害	30 (43%)	23 (33%)	37 (54%)	44 (64%)	37 (54%)	16 (23%)	3 (4%)	69
聴覚障害	70 (58%)	52 (43%)	38 (32%)	55 (46%)	34 (28%)	18 (15%)	8 (7%)	120
肢体不自由	51 (35%)	35 (24%)	60 (42%)	84 (58%)	59 (41%)	15 (10%)	8 (6%)	144
内部障害	34 (43%)	26 (33%)	25 (31%)	48 (60%)	33 (41%)	14 (18%)	4 (5%)	80
知的障害	3 (2%)	2 (1%)	114 (64%)	142 (80%)	111 (63%)	26 (15%)	5 (3%)	177
精神障害	16 (23%)	8 (11%)	36 (51%)	42 (60%)	36 (51%)	9 (13%)	6 (9%)	70
計	204	146	310	415	310	98	34	660

2 現在の住まい

第5期調査回答者の現在の住まいは図表2－4－2のとおりである。

図表2－4－2 現在の住まい（単位：人）

	自分や配偶者の 持ち家・賃貸	家族の 持ち家・賃貸	社員寮や会社が 用意する住宅	福祉施設等	その他	無回答	計
視覚障害	50 (73%)	16 (23%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	69 (100%)
聴覚障害	83 (69%)	24 (20%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	8 (7%)	120 (100%)
肢体不自由	83 (58%)	51 (35%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (1%)	6 (4%)	144 (100%)
内部障害	59 (74%)	15 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (5%)	80 (100%)
知的障害	22 (12%)	103 (58%)	0 (0%)	34 (19%)	2 (1%)	16 (9%)	177 (100%)
精神障害	32 (46%)	29 (41%)	0 (0%)	5 (7%)	2 (3%)	2 (3%)	70 (100%)
計	329 (50%)	238 (36%)	4 (1%)	40 (6%)	13 (2%)	36 (6%)	660 (100%)

※調査票の選択肢は順に「自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）」「家族（両親、兄弟など）の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）」「会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれる住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）」「福祉施設や地域の団体などが運営する援護寮、福祉ホームやグループホームなどの施設」「その他」

3 同居者の有無

現在の住まいについて「自分や配偶者の持ち家・賃貸」「家族の持ち家・賃貸」「社員寮や会社が用意する住宅」のいずれかに回答した者を対象に、同居者の有無を尋ねた。

図表 2－4－3 同居者の有無（単位：人）

		一人暮らし である	一人暮らし ではない	無回答	計
視覚障害	第1期	27 (27%)	71 (70%)	3 (3%)	101 (100%)
	第2期	15 (21%)	53 (74%)	4 (6%)	72 (100%)
	第3期	11 (33%)	22 (67%)	0 (0%)	33 (100%)
	第4期	17 (25%)	50 (74%)	1 (1%)	68 (100%)
	第5期	18 (26%)	50 (74%)	0 (0%)	68 (100%)
聴覚障害	第1期	28 (17%)	134 (82%)	2 (1%)	164 (100%)
	第2期	21 (19%)	86 (79%)	2 (2%)	109 (100%)
	第3期	5 (10%)	45 (88%)	1 (2%)	51 (100%)
	第4期	17 (13%)	112 (86%)	1 (1%)	130 (100%)
	第5期	13 (12%)	93 (86%)	2 (2%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	26 (13%)	175 (85%)	5 (2%)	206 (100%)
	第2期	17 (11%)	138 (87%)	3 (2%)	158 (100%)
	第3期	7 (11%)	58 (89%)	0 (0%)	65 (100%)
	第4期	22 (16%)	118 (84%)	0 (0%)	140 (100%)
	第5期	16 (12%)	118 (87%)	1 (1%)	135 (100%)
内部障害	第1期	14 (19%)	58 (79%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	11 (19%)	47 (80%)	1 (2%)	59 (100%)
	第3期	5 (24%)	16 (76%)	0 (0%)	21 (100%)
	第4期	18 (20%)	71 (79%)	1 (1%)	90 (100%)
	第5期	13 (18%)	57 (77%)	4 (5%)	74 (100%)
知的障害	第1期	4 (2%)	154 (80%)	35 (18%)	193 (100%)
	第2期	4 (2%)	130 (80%)	28 (17%)	162 (100%)
	第3期	2 (2%)	81 (94%)	3 (3%)	86 (100%)
	第4期	11 (8%)	126 (91%)	1 (1%)	138 (100%)
	第5期	10 (8%)	113 (90%)	2 (2%)	125 (100%)
精神障害	第1期	17 (21%)	59 (73%)	5 (6%)	81 (100%)
	第2期	9 (15%)	49 (82%)	2 (3%)	60 (100%)
	第3期	4 (14%)	24 (86%)	0 (0%)	28 (100%)
	第4期	18 (25%)	53 (75%)	0 (0%)	71 (100%)
	第5期	19 (31%)	42 (69%)	0 (0%)	61 (100%)
計	第1期	116 (14%)	651 (80%)	51 (6%)	818 (100%)
	第2期	77 (12%)	503 (81%)	40 (6%)	620 (100%)
	第3期	34 (12%)	246 (87%)	4 (1%)	284 (100%)
	第4期	103 (16%)	530 (83%)	4 (1%)	637 (100%)
	第5期	89 (16%)	473 (83%)	9 (2%)	571 (100%)

※第4期報告書とは項目立てを変更し別途集計した。

4 最近２年間の生活上の出来事

ひとつ前の調査以降の２年間に本人や家族に起きた出来事について尋ねた。第２期から第５期までの各回の回答結果を図表２－４－４に集計した。

図表２－４－４ 最近２年間の生活上の出来事（複数回答）（単位：人）※次ページへ続く

		結婚	離婚	子ども誕生	引越し	親から独立	自分が入院	通学卒業	年金受給
視覚障害	第2期	4 (5%)	2 (3%)	2 (3%)	9 (12%)	4 (5%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)
	第3期	2 (3%)	1 (1%)	3 (4%)	8 (10%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)
	第4期	3 (4%)	0 (0%)	5 (7%)	7 (9%)	0 (0%)	3 (4%)	3 (4%)	0 (0%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	0 (0%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (1%)
聴覚障害	第2期	9 (8%)	0 (0%)	2 (2%)	17 (15%)	5 (4%)	3 (3%)	2 (2%)	3 (3%)
	第3期	10 (6%)	4 (3%)	7 (4%)	15 (9%)	2 (1%)	4 (3%)	1 (1%)	2 (1%)
	第4期	9 (6%)	2 (1%)	6 (4%)	16 (11%)	4 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	0 (0%)
	第5期	3 (3%)	1 (1%)	9 (8%)	9 (8%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)
肢体不自由	第2期	6 (3%)	1 (1%)	3 (2%)	12 (7%)	3 (2%)	16 (9%)	2 (1%)	7 (4%)
	第3期	1 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	11 (6%)	3 (2%)	14 (8%)	2 (1%)	3 (2%)
	第4期	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	9 (6%)	1 (1%)	11 (7%)	1 (1%)	3 (2%)
	第5期	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	0 (0%)	8 (6%)	3 (2%)	3 (2%)
内部障害	第2期	2 (3%)	0 (0%)	3 (5%)	4 (7%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)
	第3期	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)	6 (6%)	1 (1%)	7 (7%)	2 (2%)	4 (4%)
	第4期	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	7 (8%)	2 (2%)	11 (12%)	1 (1%)	2 (2%)
	第5期	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	5 (6%)	1 (1%)	3 (4%)	0 (0%)	3 (4%)
知的障害	第2期	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (6%)	4 (2%)	2 (1%)	2 (1%)	14 (8%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (3%)	5 (2%)	3 (1%)	5 (2%)	14 (6%)
	第4期	2 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	7 (4%)
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (4%)	6 (3%)	4 (2%)	1 (1%)	6 (3%)
精神障害	第2期	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	2 (3%)
	第3期	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (13%)	3 (3%)	2 (2%)	4 (4%)	8 (9%)
	第4期	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (6%)	3 (4%)	5 (6%)	2 (2%)	2 (2%)
	第5期	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	3 (4%)	2 (3%)

図表 2-4-4 最近 2 年間の生活上の出来事（複数回答）（単位：人）※前ページからの続き

		年金中止	親が離婚	親が退職	家族が入院	家族の介護	家族が死亡	該当なし	無回答	人数
視覚障害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	7 (9%)	—	5 (6%)	45 (58%)	2 (3%)	78
	第3期	1 (1%)	1 (1%)	4 (5%)	6 (8%)	—	5 (6%)	50 (63%)	4 (5%)	80
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	2 (3%)	—	3 (4%)	50 (67%)	2 (3%)	75
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	3 (4%)	4 (6%)	4 (6%)	44 (64%)	6 (9%)	69
聴覚障害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	5 (4%)	—	8 (7%)	63 (56%)	10 (9%)	113
	第3期	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (7%)	—	10 (6%)	98 (62%)	13 (8%)	159
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	10 (7%)	—	6 (4%)	91 (63%)	8 (6%)	145
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (8%)	3 (3%)	3 (3%)	73 (61%)	9 (8%)	120
肢体不自由	第2期	1 (1%)	0 (0%)	4 (2%)	10 (6%)	—	17 (10%)	97 (56%)	14 (8%)	174
	第3期	2 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	17 (10%)	—	13 (8%)	98 (57%)	16 (9%)	171
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	12 (8%)	—	8 (5%)	91 (61%)	15 (10%)	150
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	6 (4%)	14 (10%)	10 (7%)	14 (10%)	78 (54%)	14 (10%)	144
内部障害	第2期	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	5 (8%)	—	5 (8%)	35 (57%)	7 (11%)	61
	第3期	3 (3%)	0 (0%)	5 (5%)	12 (12%)	—	13 (13%)	52 (51%)	7 (7%)	101
	第4期	5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (4%)	—	12 (13%)	50 (54%)	6 (7%)	92
	第5期	3 (4%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (5%)	2 (3%)	7 (9%)	39 (49%)	14 (18%)	80
知的障害	第2期	1 (1%)	0 (0%)	7 (4%)	12 (7%)	—	9 (5%)	106 (63%)	13 (8%)	168
	第3期	0 (0%)	1 (0%)	8 (3%)	7 (3%)	—	12 (5%)	146 (62%)	38 (16%)	237
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	6 (3%)	4 (2%)	—	16 (8%)	126 (65%)	26 (13%)	193
	第5期	0 (0%)	1 (1%)	9 (5%)	9 (5%)	8 (5%)	11 (6%)	115 (65%)	14 (8%)	177
精神障害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (6%)	—	8 (13%)	41 (65%)	2 (3%)	63
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	7 (7%)	—	8 (9%)	48 (51%)	7 (7%)	94
	第4期	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	7 (8%)	—	8 (9%)	49 (58%)	7 (8%)	85
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	11 (16%)	6 (9%)	8 (11%)	33 (47%)	11 (16%)	70

※「家族の介護」は第5期で追加した調査項目。調査票の表現は図表では略して表記した。「子ども誕生」：自分の子どもが生まれた、「引越し」：自分が引越しをした、「親から独立」：自分が親元から離れて暮らし始めた、「自分が入院」：自分が、病気や事故で1ヶ月以上の入院をした、「通学卒業」：学校に通ったまたは卒業した、「年金受給」：自分の障害に関する年金を受給しはじめた、「年金中止」：自分の障害に関する年金の受給がなくなった、「家族が入院」：家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、病気や事故で1ヶ月以上の入院をした、「家族の介護」：家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）の介護が必要になった、「家族が死亡」：家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、亡くなった、「該当なし」：該当する項目なし。

5 障害に関する年金受給

第5期調査回答者の障害に関する年金の受給状況を集計した。

図表 2-4-5 障害に関する年金受給（単位：人）

	受給している	受給していない	わからない	無回答	計
視覚障害	54 (78%)	13 (19%)	0 (0%)	2 (3%)	69 (100%)
聴覚障害	106 (88%)	9 (8%)	2 (2%)	3 (3%)	120 (100%)
肢体不自由	108 (75%)	33 (23%)	1 (1%)	2 (1%)	144 (100%)
内部障害	53 (66%)	26 (33%)	0 (0%)	1 (1%)	80 (100%)
知的障害	145 (82%)	22 (12%)	2 (1%)	8 (5%)	177 (100%)
精神障害	54 (77%)	16 (23%)	0 (0%)	0 (0%)	70 (100%)
計	520 (79%)	119 (18%)	5 (1%)	16 (2%)	660 (100%)

6 生活するための収入源

第5期調査回答者の生活するための収入源を集計した。

図表2-4-6 生活するための収入源（複数回答）（単位：人）

	年金	家族などの支援	働いて得る収入	その他	わからない	無回答	人数
視覚障害	46 (67%)	5 (7%)	61 (88%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69
聴覚障害	69 (58%)	20 (17%)	96 (80%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	120
肢体不自由	94 (65%)	20 (14%)	113 (78%)	7 (5%)	0 (0%)	3 (2%)	144
内部障害	48 (60%)	8 (10%)	68 (85%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	80
知的障害	115 (65%)	53 (30%)	145 (82%)	3 (2%)	2 (1%)	12 (7%)	177
精神障害	53 (76%)	16 (23%)	54 (77%)	12 (17%)	2 (3%)	0 (0%)	70
計	425 (64%)	122 (18%)	537 (81%)	28 (4%)	5 (1%)	21 (3%)	660

7 経済的なことに関する相談先

第5期調査の回答者の経済的に困ったことが起きたときに相談する者や機関を集計した。

図表2-4-7 経済的なことに関する相談先（複数回答）（単位：人）

	家族や身近な人	職場の人	就労支援機関	居住場所	相談機関
視覚障害	48 (70%)	7 (10%)	3 (4%)	0 (0%)	7 (10%)
聴覚障害	92 (77%)	9 (8%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)
肢体不自由	104 (72%)	12 (8%)	5 (4%)	1 (1%)	5 (4%)
内部障害	51 (64%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)
知的障害	128 (72%)	26 (15%)	40 (23%)	22 (12%)	29 (16%)
精神障害	50 (71%)	9 (13%)	17 (24%)	5 (7%)	13 (19%)
計	473	65	69	29	59

	医療機関	行政機関	訪問支援	学校の先生	障害者団体
視覚障害	1 (1%)	3 (4%)	1 (1%)	3 (4%)	4 (6%)
聴覚障害	1 (1%)	5 (4%)	0 (0%)	3 (3%)	13 (11%)
肢体不自由	1 (1%)	9 (6%)	3 (2%)	3 (2%)	3 (2%)
内部障害	2 (3%)	7 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)
知的障害	3 (2%)	10 (6%)	2 (1%)	6 (3%)	12 (7%)
精神障害	15 (21%)	6 (9%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)
計	23	40	8	16	36

	その他	相談しない	無回答	人数
視覚障害	1 (1%)	20 (29%)	6 (9%)	69
聴覚障害	3 (3%)	22 (18%)	3 (3%)	120
肢体不自由	1 (1%)	39 (27%)	4 (3%)	144
内部障害	1 (1%)	23 (29%)	2 (3%)	80
知的障害	3 (2%)	23 (13%)	10 (6%)	177
精神障害	3 (4%)	12 (17%)	2 (3%)	70
計	12	139	27	660

※調査票の表現は図表では略して表記した。「家族や身近な人」：家族や身近な者（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人など）、「職場の人」：職場の者（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医など）、「就労支援機関」：就労支援をする機関の者（障害者就業・生活支援センターの職員、障害者職業センターの職員など）、「居住場所」：居住している場所の者（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員など）、「相談機関」：相談をする機関の者（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員）、「医療機関」：医療機関の者（病院の主治医、ケースワーカー・ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師など）、「行政機関」：行政機関の者（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員など）、「訪問支援」：訪問してくる支援事業所の者（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員、など）、「学校の先生」：卒業した学校や現在通っている学校の先生、「障害者団体」：同じ障害のある者の団体、「相談しない」：相談したり利用したことはない。

8 生活の満足度

仕事以外の生活に関する4つの項目の満足度について、「満足」から「不満」までの5段階で尋ねた。第1期から第5期までの結果を図表2-4-8から図表2-4-11に示した。

図表2-4-8 家族との関係の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	46 (44%)	40 (38%)	11 (11%)	2 (2%)	0 (0%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	46 (59%)	23 (29%)	7 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	38 (48%)	29 (36%)	7 (9%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	40 (53%)	22 (29%)	10 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	35 (51%)	21 (30%)	9 (13%)	3 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	62 (38%)	60 (36%)	33 (20%)	8 (5%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	39 (35%)	41 (36%)	26 (23%)	4 (4%)	0 (0%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	52 (33%)	71 (45%)	31 (19%)	3 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	52 (36%)	57 (39%)	26 (18%)	6 (4%)	3 (2%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	40 (33%)	47 (39%)	25 (21%)	2 (2%)	4 (3%)	2 (2%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	109 (50%)	60 (28%)	37 (17%)	4 (2%)	4 (2%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	84 (48%)	59 (34%)	23 (13%)	4 (2%)	1 (1%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	77 (45%)	59 (35%)	28 (16%)	4 (2%)	3 (2%)	0 (0%)	171 (100%)
	第4期	74 (49%)	49 (33%)	16 (11%)	5 (3%)	2 (1%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	63 (44%)	46 (32%)	18 (13%)	9 (6%)	2 (1%)	6 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	34 (47%)	31 (42%)	5 (7%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	31 (51%)	22 (36%)	7 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	45 (45%)	39 (39%)	11 (11%)	1 (1%)	1 (1%)	4 (4%)	101 (100%)
	第4期	37 (40%)	38 (41%)	12 (13%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	35 (44%)	29 (36%)	11 (14%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
知的障害	第1期	115 (58%)	44 (22%)	19 (10%)	7 (4%)	2 (1%)	11 (6%)	198 (100%)
	第2期	90 (54%)	43 (26%)	17 (10%)	6 (4%)	5 (3%)	7 (4%)	168 (100%)
	第3期	127 (54%)	56 (24%)	30 (13%)	6 (3%)	2 (1%)	16 (7%)	237 (100%)
	第4期	103 (53%)	50 (26%)	19 (10%)	7 (4%)	1 (1%)	13 (7%)	193 (100%)
	第5期	98 (55%)	43 (24%)	21 (12%)	4 (2%)	3 (2%)	8 (5%)	177 (100%)
精神障害	第1期	32 (39%)	30 (36%)	11 (13%)	7 (8%)	2 (2%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	26 (41%)	22 (35%)	9 (14%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	63 (100%)
	第3期	25 (27%)	43 (46%)	15 (16%)	4 (4%)	5 (5%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	32 (38%)	29 (34%)	16 (19%)	6 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	20 (29%)	23 (33%)	12 (17%)	5 (7%)	4 (6%)	6 (9%)	70 (100%)

図表 2-4-9 友人・知人との関係の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	42 (40%)	40 (38%)	15 (14%)	5 (5%)	0 (0%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	32 (41%)	31 (40%)	12 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	34 (43%)	30 (38%)	12 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	28 (37%)	31 (41%)	12 (16%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	28 (41%)	25 (36%)	14 (20%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	35 (21%)	90 (55%)	35 (21%)	4 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	28 (25%)	55 (49%)	24 (21%)	3 (3%)	0 (0%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	34 (21%)	78 (49%)	38 (24%)	7 (4%)	0 (0%)	2 (1%)	159 (100%)
	第4期	27 (19%)	77 (53%)	34 (23%)	6 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	18 (15%)	62 (52%)	36 (30%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	84 (39%)	64 (30%)	56 (26%)	7 (3%)	3 (1%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	50 (29%)	76 (44%)	38 (22%)	4 (2%)	1 (1%)	5 (3%)	174 (100%)
	第3期	59 (35%)	65 (38%)	39 (23%)	5 (3%)	2 (1%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	52 (35%)	53 (35%)	35 (23%)	5 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	150 (100%)
	第5期	44 (31%)	54 (38%)	30 (21%)	8 (6%)	1 (1%)	7 (5%)	144 (100%)
内部障害	第1期	25 (34%)	36 (49%)	9 (12%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	19 (31%)	30 (49%)	8 (13%)	2 (3%)	1 (2%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	32 (32%)	48 (48%)	13 (13%)	4 (4%)	1 (1%)	3 (3%)	101 (100%)
	第4期	24 (26%)	42 (46%)	18 (20%)	3 (3%)	2 (2%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	16 (20%)	39 (49%)	21 (26%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
知的障害	第1期	93 (47%)	51 (26%)	36 (18%)	7 (4%)	3 (2%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	75 (45%)	46 (27%)	31 (18%)	6 (4%)	1 (1%)	9 (5%)	168 (100%)
	第3期	94 (40%)	71 (30%)	45 (19%)	7 (3%)	3 (1%)	17 (7%)	237 (100%)
	第4期	80 (41%)	52 (27%)	39 (20%)	6 (3%)	2 (1%)	14 (7%)	193 (100%)
	第5期	67 (38%)	50 (28%)	43 (24%)	5 (3%)	2 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
精神障害	第1期	20 (24%)	33 (40%)	22 (27%)	5 (6%)	2 (2%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	16 (25%)	26 (41%)	16 (25%)	5 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	22 (23%)	31 (33%)	25 (27%)	7 (7%)	6 (6%)	3 (3%)	94 (100%)
	第4期	20 (24%)	24 (28%)	31 (36%)	7 (8%)	3 (4%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	10 (14%)	27 (39%)	20 (29%)	5 (7%)	4 (6%)	4 (6%)	70 (100%)

図表 2-4-10 自分の体力や健康の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	18 (17%)	31 (30%)	27 (26%)	16 (15%)	10 (10%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	10 (13%)	28 (36%)	17 (22%)	15 (19%)	6 (8%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	11 (14%)	30 (38%)	25 (31%)	11 (14%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	9 (12%)	26 (35%)	21 (28%)	13 (17%)	3 (4%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	12 (17%)	20 (29%)	22 (32%)	15 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	36 (22%)	43 (26%)	60 (36%)	21 (13%)	4 (2%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	17 (15%)	36 (32%)	37 (33%)	16 (14%)	4 (4%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	22 (14%)	57 (36%)	58 (36%)	18 (11%)	3 (2%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	22 (15%)	54 (37%)	40 (28%)	24 (17%)	4 (3%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	13 (11%)	40 (33%)	42 (35%)	19 (16%)	4 (3%)	2 (2%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	36 (17%)	47 (22%)	61 (28%)	43 (20%)	27 (13%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	19 (11%)	34 (20%)	53 (30%)	40 (23%)	23 (13%)	5 (3%)	174 (100%)
	第3期	28 (16%)	23 (13%)	53 (31%)	38 (22%)	27 (16%)	2 (1%)	171 (100%)
	第4期	16 (11%)	39 (26%)	43 (29%)	28 (19%)	20 (13%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	21 (15%)	21 (15%)	38 (26%)	38 (26%)	20 (14%)	6 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	8 (11%)	16 (22%)	21 (29%)	18 (25%)	9 (12%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	9 (15%)	14 (23%)	19 (31%)	12 (20%)	5 (8%)	2 (3%)	61 (100%)
	第3期	12 (12%)	22 (22%)	33 (33%)	20 (20%)	13 (13%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	5 (5%)	24 (26%)	25 (27%)	21 (23%)	15 (16%)	2 (2%)	92 (100%)
	第5期	5 (6%)	17 (21%)	32 (40%)	16 (20%)	8 (10%)	2 (3%)	80 (100%)
知的障害	第1期	82 (41%)	55 (28%)	32 (16%)	14 (7%)	7 (4%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	60 (36%)	54 (32%)	30 (18%)	11 (7%)	2 (1%)	11 (7%)	168 (100%)
	第3期	86 (36%)	73 (31%)	43 (18%)	13 (5%)	7 (3%)	15 (6%)	237 (100%)
	第4期	67 (35%)	57 (30%)	42 (22%)	8 (4%)	5 (3%)	14 (7%)	193 (100%)
	第5期	57 (32%)	58 (33%)	33 (19%)	12 (7%)	8 (5%)	9 (5%)	177 (100%)
精神障害	第1期	8 (10%)	23 (28%)	25 (30%)	19 (23%)	7 (8%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	7 (11%)	13 (21%)	19 (30%)	13 (21%)	11 (17%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	12 (13%)	24 (26%)	28 (30%)	18 (19%)	10 (11%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	8 (9%)	29 (34%)	21 (25%)	17 (20%)	10 (12%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	8 (11%)	14 (20%)	20 (29%)	18 (26%)	6 (9%)	4 (6%)	70 (100%)

図表 2-4-11 収入や経済生活の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	9 (9%)	30 (29%)	30 (29%)	17 (16%)	16 (15%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	13 (17%)	23 (29%)	21 (27%)	12 (15%)	7 (9%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	13 (16%)	36 (45%)	16 (20%)	8 (10%)	5 (6%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	11 (15%)	26 (35%)	15 (20%)	12 (16%)	8 (11%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	12 (17%)	22 (32%)	15 (22%)	9 (13%)	10 (15%)	1 (1%)	69 (100%)
聴覚障害	第1期	16 (10%)	41 (25%)	55 (33%)	35 (21%)	17 (10%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	9 (8%)	29 (26%)	35 (31%)	29 (26%)	8 (7%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	9 (6%)	53 (33%)	58 (36%)	31 (19%)	7 (4%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	10 (7%)	49 (34%)	48 (33%)	26 (18%)	11 (8%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	10 (8%)	41 (34%)	47 (39%)	11 (9%)	9 (8%)	2 (2%)	120 (100%)
肢体不自由	第1期	35 (16%)	42 (19%)	68 (31%)	43 (20%)	27 (13%)	1 (0%)	216 (100%)
	第2期	24 (14%)	43 (25%)	51 (29%)	29 (17%)	23 (13%)	4 (2%)	174 (100%)
	第3期	25 (15%)	47 (27%)	42 (25%)	35 (20%)	21 (12%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	17 (11%)	34 (23%)	45 (30%)	30 (20%)	20 (13%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	20 (14%)	30 (21%)	44 (31%)	23 (16%)	21 (15%)	6 (4%)	144 (100%)
内部障害	第1期	8 (11%)	18 (25%)	22 (30%)	14 (19%)	9 (12%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	8 (13%)	16 (26%)	17 (28%)	14 (23%)	5 (8%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	9 (9%)	32 (32%)	26 (26%)	23 (23%)	9 (9%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	5 (5%)	35 (38%)	21 (23%)	21 (23%)	7 (8%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	1 (1%)	27 (34%)	25 (31%)	18 (23%)	7 (9%)	2 (3%)	80 (100%)
知的障害	第1期	82 (41%)	59 (30%)	27 (14%)	16 (8%)	6 (3%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	55 (33%)	49 (29%)	35 (21%)	13 (8%)	9 (5%)	7 (4%)	168 (100%)
	第3期	69 (29%)	66 (28%)	47 (20%)	21 (9%)	14 (6%)	20 (8%)	237 (100%)
	第4期	61 (32%)	47 (24%)	33 (17%)	26 (13%)	11 (6%)	15 (8%)	193 (100%)
	第5期	55 (31%)	48 (27%)	36 (20%)	15 (9%)	13 (7%)	10 (6%)	177 (100%)
精神障害	第1期	5 (6%)	24 (29%)	25 (30%)	18 (22%)	11 (13%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	4 (6%)	10 (16%)	23 (37%)	14 (22%)	12 (19%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	10 (11%)	18 (19%)	22 (23%)	33 (35%)	9 (10%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	6 (7%)	25 (29%)	24 (28%)	12 (14%)	18 (21%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	6 (9%)	17 (24%)	16 (23%)	18 (26%)	9 (13%)	4 (6%)	70 (100%)

第5節 調査回答者の特徴と留意点について

本調査の回答者は、調査対象者としての募集方法から、障害のある労働者の一般人口の代表的なサンプルとは言い切れず、本調査から得られた知見をより広い範囲の障害のある労働者にあてはめて考える際は慎重に行う必要がある。本調査における回答者の特徴については、集計結果から次のような点が推測できる。

- ・本調査への紹介元として、当事者団体や職業リハビリテーション機関が合わせて7割であることから、社会資源の活用に積極的な者が多い可能性がある。
- ・知的障害においては、調査票の記入に際して周囲の支援を受けた者が6割を超えることから、周囲の支援を受けやすい状況にある者が調査回答者に多く含まれる可能性がある。
- ・転居が多いと連絡先不明になりやすいことから、継続して回答が得られている者は、比較的安定した生活状況であることが考えられる。

これらの点は本調査の限界であるが、16年間という他に類を見ない長期縦断調査の利点を活かし、横断調査や短期の縦断調査では捉えにくい、障害者の職業生活の特徴を捉え、仮説を提示することは十分に可能であると考えられる。

第6節 今後の調査について

第4節までにおいて、第1期調査から第4期調査の結果と併せて第5期調査結果を掲載した。

本節は第5期までの調査結果を基に、今後（第6期調査以降）の課題や研究の方向性等を以下のとおり整理した。

- **調査票のわかりやすさの向上について**：就労を継続している者と退職して障害者福祉サービス等を利用している者の双方に対して調査を行うため、質問項目が現在の状況によって分岐する構造になっており、研究対象者から「わかりにくい」と指摘があった。また、読み仮名に加えて平易な表現とした調査票について研究対象者から「質問内容が難しい」と指摘があった。今後の調査実施にあたっては、分岐する構造の見直し、加えて、全国手をつなぐ育成会連合会による「わかりやすい情報提供のガイドライン」に沿った記述を更に徹底したい。
- **調査対象者数の減少及び回収率の低下について**：全ての期に回答のある者は調査対象者の約4割であるものの、調査対象者数は、期を重ねるごとに減少している。第3期の調査実施にあたり調査対象者を補充したが、第5期では住所不明、調査中止の希望受理、死亡により40名以上の減少となっている。加えて、回収率自体も期を重ねるごとに低下傾向がみられ、その理由として、退職に伴う調査継続のモチベーションの低下が推測される。今後の調査実施にあたっては、調査中止の希望を受ける際に丁寧な継続依頼を行うことで中止希望の再検討を促したい。未回答の者に対して、「サイクル便り」による継続した回答勧奨の働きかけを続けるとともに、本研究の重要な目的の一つである雇用からの引退プロセスの把握のために、現状の確認のみに絞った葉書等を使用する簡便な方法等による補足調査の実施の検討を行いたい。
- **調査へのインターネットの活用について**：研究対象者からインターネットを使用した調査票の回答や回収等の要望があった。本調査は研究対象者から機微情報を取得するため、現時点でのインターネットを使用した調査票の回答や回収等は、セキュリティに問題が発生する可能性が否定できないとの認識に基づいて実施していない。しかし今後については、インフラ整備等の状況を踏まえて慎重に検討する必要があるだろう。
- **調査結果を踏まえた詳細情報の確認について**：本調査は研究対象者に対して10年近くの経過を把握した段階である。この調査結果の中には、例えば、正社員への登用、異職種への転職、精神障害者の長期就労継続等の特徴的な事例がある。これらの事例に関して、本調査では、その詳細の把握まではできていないため、特徴的な事例を中心に、今後は、新たに研究協力の同意が得られた場合に限り、個別ヒアリングを検討したい。まず、第6期においては、各障害種類1名程度の特徴的な事例を抽出して、補足的に詳細情報を確認するヒアリング調査の実施を計画したい。
- **第8期（調査終了）を見据えた研究計画について**：本調査は全体の調査期間の折り返しとなった。今後は、第8期調査終了によるデータセットの完成を踏まえて、この調査結果を総合的に活用した研究として、具体的な研究テーマの設定及び補足調査研究の必要性等の検討を開始したい。具体的には、前項にて取りあげたヒアリング調査に関しても、ライフヒストリーの把握等を目的としたヒアリング等の必要性についても検討議題として、第6期の研究委員会等における議論の開始を計画したい。

第3章

調査結果の分析経過

第3章 調査結果の分析経過

第1期から第4期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載する他、複数の調査項目の結果を用いて様々な分析を実施してきた。本節は、これまでに実施した分析結果等を整理した。

1 第1期調査における分析

第1期報告書では、各調査項目の集計結果を掲載するとともに、以下の観点に着目して、障害別に二つの調査項目をクロス集計した。

- (1) 就労形態別の就労状況（仕事内容、労働時間、休日数、給与額、仕事満足度、経済的自立度）
- (2) 仕事内容別の給与等（給与額、初職継続・転職、仕事満足度）
- (3) 住居環境別の就労形態等（就労形態、経済的自立度、仕事関係相談先、経済面相談先）
- (4) 取得免許・資格別の就労形態・給与額
- (5) 環境整備及び配慮事項の分類による障害別の状況
- (6) 男女別の就労形態・仕事満足度
- (7) 初職と転職別の勤続年数
- (8) 障害診断時期別の学歴等（最終学歴、仕事内容、給与額）
- (9) 仕事満足度の影響要因（年代の関係、障害年金受給状況の関係、給与額の関係、転職経験の関係、現職勤続年数の関係、仕事をする上での重要度との関連）
- (10) 仕事に関する今後の考えと就労状況等（働ける年齢、年代、就労形態、勤続年数）
- (11) 前期調査と後期調査の比較（男女比、平均年齢、障害の診断時期、手帳所持者、家族構成・住まい、最終学歴、現在の仕事、仕事内容、就業時間、給与、障害についての会社への説明、仕事の満足度、障害年金、生活の収入源、仕事をする上での重要度、仕事をする上で必要な事、会社へ望む事項）

以上の分析を踏まえ、調査開始段階の第1期調査結果について主に次のように考察した。

- ・調査回答者の年齢は偏りなく、職業生活の変遷を継続的に把握していくことが可能である。
- ・男女比は実態に近い。
- ・現職は基本的に雇用保険被保険者であり、就労する障害者全体の中では安定的な就業環境にある。
- ・仕事の満足度や現在の仕事の継続意思は、前期調査と後期調査でほとんど差がみられなかった。
- ・職場で決まっている定年より前に職業生活から引退を希望する者が少なくない。

2 第2期調査における分析

第2期報告書では、各調査項目について第1回調査と第2回調査の回答結果をクロス集計するとともに、以下の観点に着目して、障害別にその状況を集計して分析した。

- (1) 第1回調査と第2回調査の間で起きた仕事に関係した出来事についての分析
 - ア 配置転換があった者について（障害別の比率、男女別の比率、年齢別の比率、就労形態別の比率、仕事内容（配置転換後）別の比率、第1回調査と第2回調査の仕事内容の状況、勤続年数別の比率、仕事の継続意思、第1回調査と第2回調査の仕事の継続意思の状況、第1回調査と第2回調査の「仕事内容」についての満足度の状況）
 - イ 給料が上がった者について（障害別の比率、男女別の比率、年齢別の比率、就労形態別の比率、仕事内容別の比率、勤続年数別の比率、勤務先の従業員規模別の比率、給与額別の比率、第1回調査と

第2回調査の給与区分の状況、第1回調査と第2回調査の仕事の継続意思の状況)

(2) その他仕事に関係した出来事

ア 「昇進した」者の状況

イ 「正社員になった」者の状況

ウ 「休職をした」者の状況

エ 「転職をした」者の状況(障害・性別等の状況、第1回調査と第2回調査の仕事内容の状況、第1回調査と第2回調査の(転職後の)会社の従業員規模の状況、第1回調査と第2回調査の給与額の状況、第1回調査と第2回調査の継続意思の状況)

オ 「給料が下がった」者の状況(障害別の比率、男女別の比率、年齢区分別の比率、就労形態別の比率、仕事内容別の比率、勤続年数別の比率、会社の従業員規模別の比率、給与額別の比率、第1回調査と第2回調査の給与区分の状況、第1回調査と第2回調査の継続意思の状況)

以上の分析を踏まえ、第1期調査結果と第2期調査結果の比較、第2期調査の前期調査と後期調査の比較について主に次のように考察した。

・第1期調査と第2期調査の比較(前期調査)

基本的には同じ状況が継続され、変化は少なかった。これは安定的に仕事が継続していたともいえる。変化があった者の割合は、障害者手帳等の状況は1～2割、仕事の状況は2～3割であり大きくない。

調査結果から、徐々に生活の変化が確認されてきている。親元から離れて暮らし始め(14人)、引越しをして(18人)、自立して生活が安定してくれば結婚し(18人)、子どもが生まれる(9人)。このような人生のキャリアを形成していく様子を見ることができた。

就労形態からみて所得が減少したことから障害年金の所得制限以下となり、新たに障害年金の受給を開始したと考えられる者が数名いた。

調査間で16人(5.2%)が転職した。転職者の半数は仕事内容が変わり、仕事の継続意思は「現在の仕事を続けたい」が4人から12人に増加した。総合すると転職してキャリアを積んでいる者が多いと考えられた。

第1期調査で「現在の仕事とは別の仕事がしたい」と回答した33名のうち、配置転換があった者は6名、転職した者は3名おり、27.3%の者の希望が実現したと考えられる。

厳しい景気、経済情勢の中で雇用者数等はわずかの減少であったが、非正規雇用の増加がみられ、転職希望者が増加するといった、一般労働者と同様の傾向がうかがわれた。

・第1期調査と第2期調査の比較(後期調査)

障害者手帳等の状況は、手帳種類、等級ともに変化はほとんどなかった。

新たに障害年金を受給するようになった者が4人いたが、所得制限によりこれまで受給せずにいたと推測される者が多く、年金受給に伴い等級を変更した者はいなかった。

地域生活で困った時の相談・利用先では、配偶者のいる者の83.6%が配偶者を相談先として回答しており、働く障害者にとって家族は支援者として重要な役割を果たしていた。

ライフイベントでは、「家族が亡くなった」「家族が病気や事故で入院した」への回答が多いのは、障害の有無とは関係なく加齢の結果であると考えられる。

昇進した者は13人(4.7%)おり、その者の自由記述からは、地域活動や趣味が充実していて明確な将来展望を持っている者が多いことが伺われた。また昇進した13人のうち11人が職務内容に関連のある資格を有していた。キャリアアップが実現している例も確認できたが、雇い主側における障害の理解な

どソフト的な職場環境の整備が必要であるなどの課題もみられた。

第1期調査で「現在の仕事とは別の仕事がしたい」と回答した34名のうち、配置転換があった者は11名、転職した者は2名おり、38.2%の者の希望が実現したと考えられる。

将来かなえたい希望についての自由記述の回答で自らの障害と向き合いながら退職後の将来設計を早い時期から描いている回答が多くみられた。

・第2期調査における前期調査と後期調査結果の比較

障害者手帳の所持状況や等級は2回の調査ともほとんど同じであり、年代による違いは見られない。

住居環境の変化は前期調査（16.5%）より後期調査の方がやや少なく（10.9%）、住居が定まってきたことが伺える。

就労形態の変化は前期調査（16.5%）より後期調査の方がやや少なく（10.2%）、中高年層になると安定あるいは固定してくる者がいるが、一方で仕事内容は変化ありが前期調査（14.3%）より後期調査の方がやや多い（18.0%）。

勤務時間の変化は前期調査（18.5%）と後期調査（16.9%）に大きな違いはないが、前期調査は時間が短くなった者がやや多い。

給与額の変化は前期調査（20.3%）より後期調査（23.9%）の方がやや多く、後期調査は給与区分が下がった者が上がった者より多い。

通勤時間の変化は前期調査（20.6%）と後期調査（18.8%）に大きな違いはないが、前期調査はより長く、後期調査はより短くなった者の方が多い。

結婚している割合は前期調査（15.6%）より後期調査（42.7%）の方が多く、子どもがいる割合は前期調査（6.5%）より後期調査（36.9%）の方が多い。

ライフイベントで多いものは、前期調査、後期調査とも「家族の入院」は共通だが、前期調査では「引越え」「障害年金受給開始」、後期調査では「家族の死亡」「自分の入院」となっており、世代の違いを表している。

仕事の関連した出来事で多いものは、前期調査、後期調査とも「給料が上がった」「配置転換」が共通であり、後期調査では「上司の異動」も多い。

3 第3期調査における分析

第3期報告書では、各調査項目について第2回調査と第3回調査の回答結果をクロス集計するとともに、第1回調査から第3回調査までの間の変化に着目して、その状況を集計して分析した。

- （1） 就労形態の変化の分析（「雇用契約あり（被雇用者）」と「雇用契約なし（自営及び非就労）」の間の変化、正社員とパート・アルバイト等の間の変化）
- （2） 雇用契約あり（被雇用者）と雇用契約なし（自営及び非就労）の間の変化と生活及び仕事の状況（対象者の属性、男女別割合、年代別構成、ライフイベント、同居の家族、仕事上の出来事、仕事の満足度、仕事継続の意思、離職理由、就職活動の状況）
- （3） 正社員及びパート・アルバイト継続者の状況（障害別構成、男女別構成、年代別構成、ライフイベント、同居の家族、仕事上の出来事、仕事の内容、1か月当たりの給与額、仕事の満足度、仕事継続の意思）
- （4） 正社員とパート・アルバイト間変化者の状況（変化した者の属性、変化した者の勤務条件の変化、変化した者の仕事満足度）
- （5） 雇用契約による就労と福祉的就労との間の変化

以上の分析を踏まえ、主に次のように考察した。

- ・ライフイベントの年代ごとの状況

「結婚」「出産」「引越し」など家族形成に関わる出来事は30才代がピークとなっている。また、「親元からの自立」や「就学」は20才代が最も高く、次第に低下している。「年金の受給開始」は20才代で最も多く、「自分の入院」は年齢に応じ増加の傾向がみられる。

家族に関することでは、年齢が高くなるに応じて家族の「入院」「死亡」が増加しており、「家族の離職」は20才代から30才代にかけて増加するがその後減少している。

- ・仕事上の出来事の年代ごとの状況

「昇給」は30～50%の水準で、また「配置転換」は20%程度の水準で、ほぼ全ての年代を通じて他の出来事よりも高い割合で起こっている。

「昇進」は40才代が、「支援者がいなくなる」のは30才代がそれぞれピークとなっており、支援を受ける立場から独り立ちして昇進していく状況が窺われる。また、「正社員への転換」は20才代から30才代にかけて2%程度の水準で起こっており他の年代より高い割合となっている。また、「転職」と「休職」は、ほぼ全ての年代を通じて、3%から5%程度の水準で起こっている。

4 第4期調査における分析

第4期報告書では、各調査項目の集計結果を掲載するとともに、以下の観点に着目して、一般化推定方程式を用いて分析した。

- (1) 職業生活の満足度に関連する要因（固定的要因（性別、障害種類、調査期、年齢）、就業条件、職場で得られている配慮、直近2年間の仕事上の出来事、直近2年間の生活上の出来事）
- (2) 職業上のニーズに関連する要因（固定的要因（性別、障害種類、調査期、年齢）、就業条件、直近2年間の仕事上の出来事、直近2年間の生活上の出来事）

以上の分析を踏まえ、主に次のように考察した。

- ・職業生活の満足度について

知的障害では他の障害種類よりも全般に満足度が高かったが、回答へのバイアスとの関係から慎重に解釈する必要があると考えられた。聴覚障害では全般に満足度が低く、雇用管理に加えて就労支援及び施策上の課題が示唆された。

個人要因だけでなく、職種や給与水準、職場への障害の説明の程度等、様々な環境要因が職業生活の質に影響する様子を捉えることができた。

職場において実際に得られている配慮の種類は、今後の支援への直接的な示唆を与えるものもみられた。一例として、精神障害では作業手順の支援を重視することの意義が示唆された。

- ・職業上のニーズについて

障害種類の影響が広範囲にみられた。各障害種類によって職業上のニーズが異なっており、例えば、視覚障害では職場の機器や設備面の改善へのニーズが特に高く、一方、聴覚障害では援助者の配置や教育・研修への要望のニーズが高かった。これらは障害特性に合致した支援の重要性が再認識される結果となった。

年齢と職業上のニーズとの関係から、業務への習熟や加齢の影響が考えられた。

就業条件等と職業上のニーズの関連についても様々な興味深い結果が得られたが、因果関係の推測が

難しい場合があった。

5 第5期調査における分析方針

これまでの分析の経過を踏まえ、第5期では仕事の満足度に着目して2つの分析を実施する。

- (1) 第5期において新たに調査項目として設定した「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」は、合理的配慮の推進にあたり障害者と事業主が相互理解を深めていくうえで重要であることを踏まえ、この項目の回答状況により働く障害者の仕事の満足度に違いがあるか分析する。
- (2) 第1期から第5期までの調査結果を用いて障害者の職場定着あるいは離職の背景要因について、仕事満足度を切り口として、仕事満足度と就労継続の意欲や離職の関係の分析及び仕事満足度の決定要因を分析する。

第 4 章

結果分析

第4章 結果分析

第1節 職場での確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係

1 分析の目的

第5期調査の開始年である平成28年4月より改正障害者雇用促進法が施行され、すべての事業主に雇用の分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供が義務付けられた。これを踏まえ、第5期調査では、雇用の分野における障害者に対する差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況及び職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の有無について、新たに調査項目として設定した。

本節では、合理的配慮の調整にあたり障害者と事業主が相互理解を深めていくうえで重要となる、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が、障害のある労働者の仕事の満足度にどのように影響しているか明らかにすることを目的とした。この分析にあたっては、第2章に示した「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」の有無に関する設問の回答結果（「今までと同様に確認や話合いの機会があった」「新たに確認や話合いの機会があった」「確認や話合いの機会はまだない」）により、仕事満足度（「仕事の内容の満足度」「給料・待遇（労働条件等）の満足度」「職場の人間関係の満足度」「職場の環境（施設整備等）の満足度」）に違いがあるかどうかを、全障害及び障害種類ごとにクロス集計するとともに、統計解析により有意差を検出した。なお、第2章第5節で述べたように、データの性質上分析結果の一般化には制約があることに留意が必要である。

2 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会と仕事の満足度のクロス集計

「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」と、仕事の満足度の各項目について、全障害のサンプルを使用したクロス集計結果を図表4-1-1から図表4-1-4に示した。

図表4-1-1 確認や話合いの機会×仕事の内容の満足度の集計結果（全障害）

	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	67 39.6%	71 42.0%	25 14.8%	4 2.4%	2 1.2%	169 100.0%
新たに機会があった	16 30.2%	23 43.4%	12 22.6%	2 3.8%	0 0.0%	53 100.0%
機会はまだない	48 23.2%	98 47.3%	39 18.8%	13 6.3%	9 4.3%	207 100.0%
よくわからない	38 38.8%	35 35.7%	23 23.5%	0 0.0%	2 2.0%	98 100.0%
無回答	13 59.1%	4 18.2%	4 18.2%	1 4.5%	0 0.0%	22 100.0%
合計	182 33.2%	231 42.1%	103 18.8%	20 3.6%	13 2.4%	549 100.0%

図表４－１－２ 確認や話合いの機会×給料・待遇（労働条件等）の満足度の集計結果（全障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	54 32.1%	53 31.5%	32 19.0%	24 14.3%	5 3.0%	168 100.0%
新たに機会があった	13 24.5%	13 24.5%	13 24.5%	11 20.8%	3 5.7%	53 100.0%
機会はまだない	33 15.9%	64 30.9%	52 25.1%	37 17.9%	21 10.1%	207 100.0%
よくわからない	24 25.0%	36 37.5%	20 20.8%	7 7.3%	9 9.4%	96 100.0%
無回答	6 28.6%	6 28.6%	2 9.5%	4 19.0%	3 14.3%	21 100.0%
合計	130 23.9%	172 31.6%	119 21.8%	83 15.2%	41 7.5%	545 100.0%

図表４－１－３ 確認や話合いの機会×職場の人間関係の満足度の集計結果（全障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	63 37.5%	55 32.7%	32 19.0%	14 8.3%	4 2.4%	168 100.0%
新たに機会があった	10 18.9%	14 26.4%	20 37.7%	7 13.2%	2 3.8%	53 100.0%
機会はまだない	30 14.5%	60 29.0%	69 33.3%	26 12.6%	22 10.6%	207 100.0%
よくわからない	27 28.1%	37 38.5%	24 25.0%	7 7.3%	1 1.0%	96 100.0%
無回答	10 50.0%	8 40.0%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%	20 100.0%
合計	140 25.7%	174 32.0%	145 26.7%	56 10.3%	29 5.3%	544 100.0%

図表４－１－４ 確認や話合いの機会×職場の環境（施設整備等）の満足度の集計結果（全障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	58 34.7%	61 36.5%	32 19.2%	12 7.2%	4 2.4%	167 100.0%
新たに機会があった	14 26.4%	19 35.8%	11 20.8%	6 11.3%	3 5.7%	53 100.0%
機会はまだない	29 14.1%	72 35.0%	71 34.5%	26 12.6%	8 3.9%	206 100.0%
よくわからない	27 28.1%	38 39.6%	21 21.9%	8 8.3%	2 2.1%	96 100.0%
無回答	11 52.4%	6 28.6%	3 14.3%	0 0.0%	1 4.8%	21 100.0%
合計	139 25.6%	196 36.1%	138 25.4%	52 9.6%	18 3.3%	543 100.0%

3 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係の統計解析

2で示した集計結果について、「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」の設問の選択肢により4つの仕事の満足度に差があるかどうか、それぞれ統計解析を行った。なお、「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」の設問の選択肢「よく分からない」への回答及び「無回答」については、確認や話合いの機会の有無について不明であることから、本分析の対象から除外した。分析にあたり、仕事の満足度を間隔尺度として扱えるか確認したところ、一部の分析において等分散が仮定されなかったことから、順序尺度としてクラスカル・ウォリスの順位検定を実施し、Bonferroni法による補正を行った。なお分析にあたっては「IBM SPSS Statistics version 22.0」を使用した。

また、仕事の満足度について「満足＝2点」、「どちらかといえば満足＝1点」、「どちらともいえない＝0点」、「どちらかといえば不満＝マイナス1点」、「不満＝マイナス2点」として平均と標準偏差を算出した図表に、統計分析結果を併せて、図表4-1-5から図表4-1-11に掲載した。

全障害の結果を用いた分析と障害種類ごとに実施した各分析のうち、5%水準を有意の基準として、有意な差があった結果は次のとおりである。

(1) 全障害の結果を用いた分析

「仕事の内容」($p<.01$)、「給料・待遇(労働条件)」($p<.01$)、「職場の人間関係」($p<.01$)、「職場の環境(施設整備等)」($p<.01$)、のすべての仕事の満足度について、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「確認や話合いの機会はまだない」者よりも満足度が高かった。また「職場の人間関係」($p<.01$)の仕事の満足度については、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「新たに確認や話合いの機会があった」者よりも満足度が高かった(図表4-1-5)。

(2) 障害種類ごとの結果を用いた分析

ア 視覚障害者の結果分析

「職場の人間関係」($p<.01$)の仕事の満足度について、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「確認や話合いの機会はまだない」者よりも満足度が高かった(図表4-1-6)。

イ 聴覚障害者の結果分析

それぞれの仕事の満足度について、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会による有意差は検出されなかった(図表4-1-7)。

ウ 肢体不自由者の結果分析

「仕事の内容」($p<.05$)、「職場の人間関係」($p<.01$)の仕事の満足度について、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「確認や話合いの機会はまだない」者よりも満足度が高かった(図表4-1-8)。

エ 内部障害者の結果分析

それぞれの仕事の満足度について、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会による有意差は検出されなかった(図表4-1-9)。

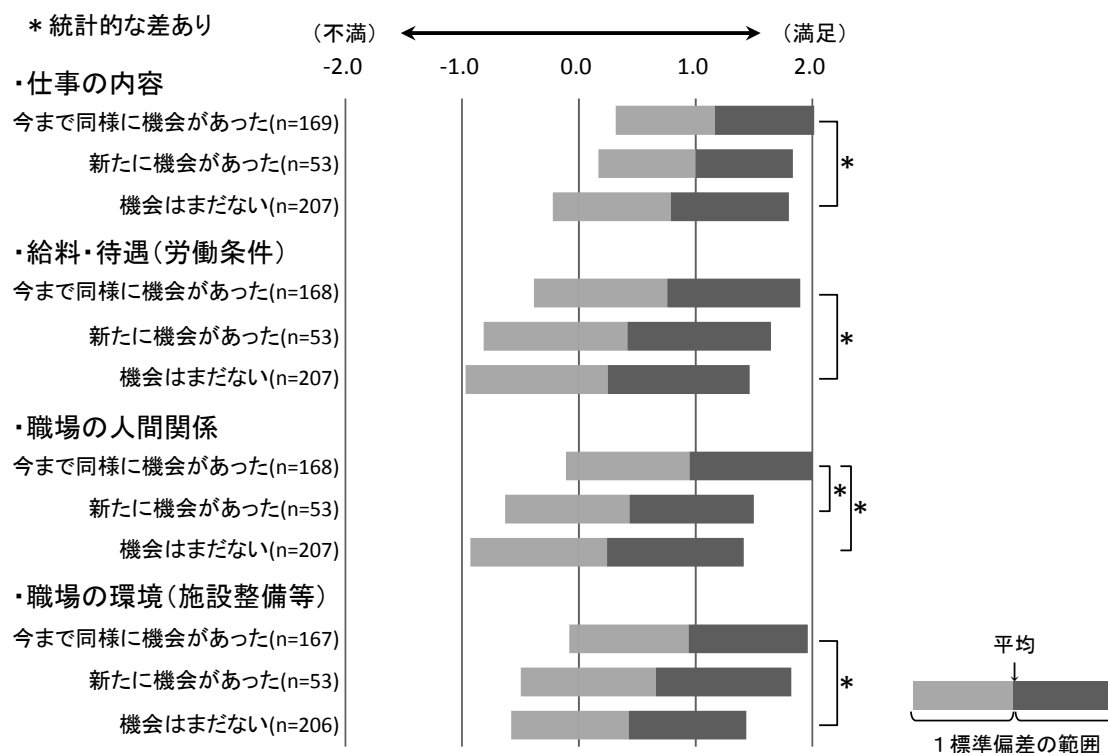
オ 知的障害者の結果分析

「仕事の内容」($p<.01$)、「給料・待遇(労働条件)」($p<.01$)、「職場の人間関係」($p<.01$)、「職場の環境(施設整備等)」($p<.01$)、のすべての仕事の満足度について、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「確認や話合いの機会はまだない」者よりも満足度が高かった(図表4-1-10)。

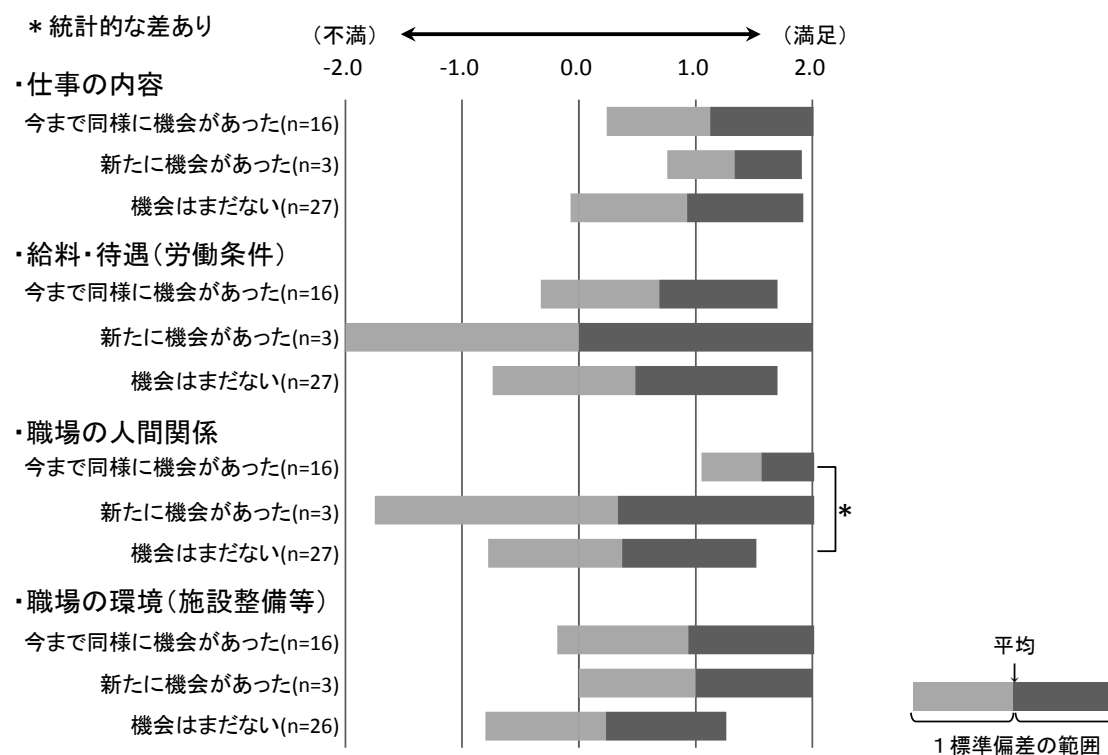
カ 精神障害者の結果分析

それぞれの仕事の満足度について、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会による有意差は

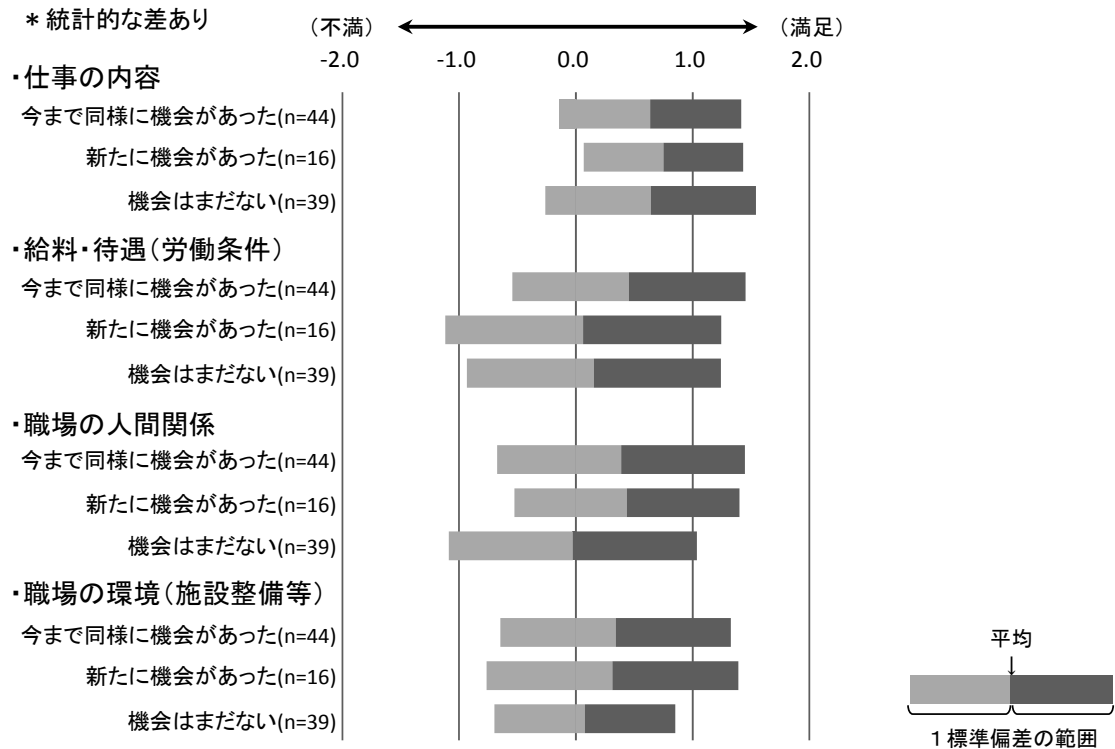
検出されなかった（図表 4－1－11）。



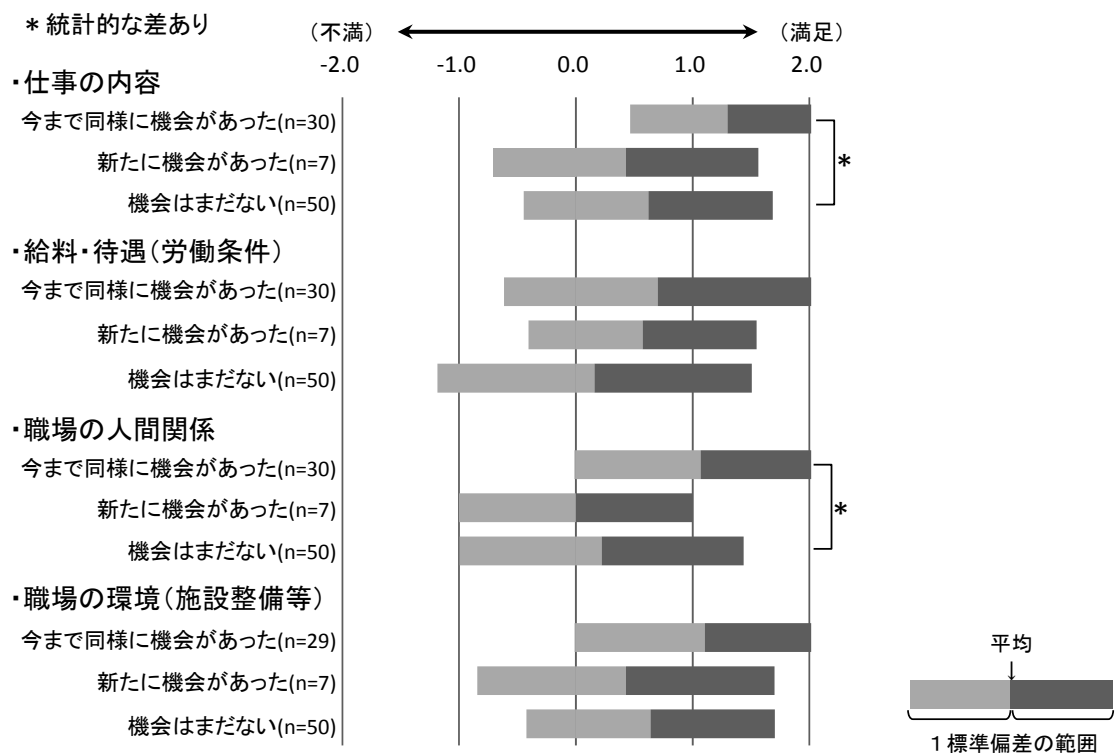
図表 4－1－5 確認や話合いの機会と仕事の満足度の分析結果（全障害）



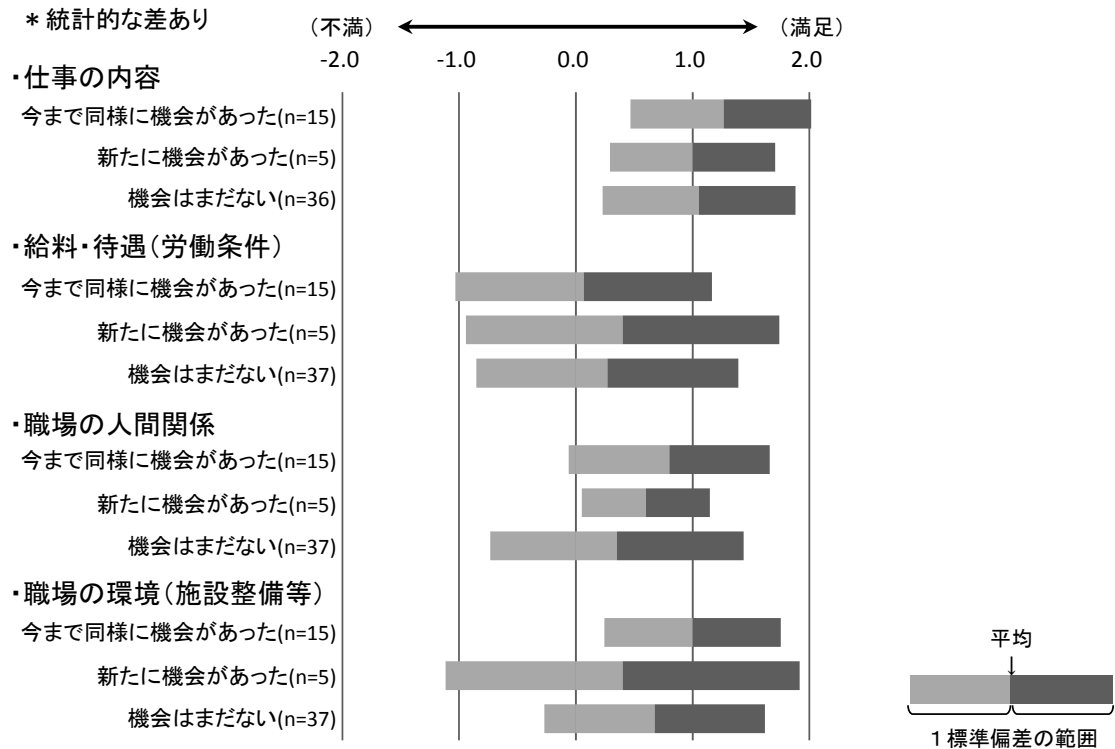
図表 4－1－6 確認や話合いの機会と仕事の満足度の分析結果（視覚障害）



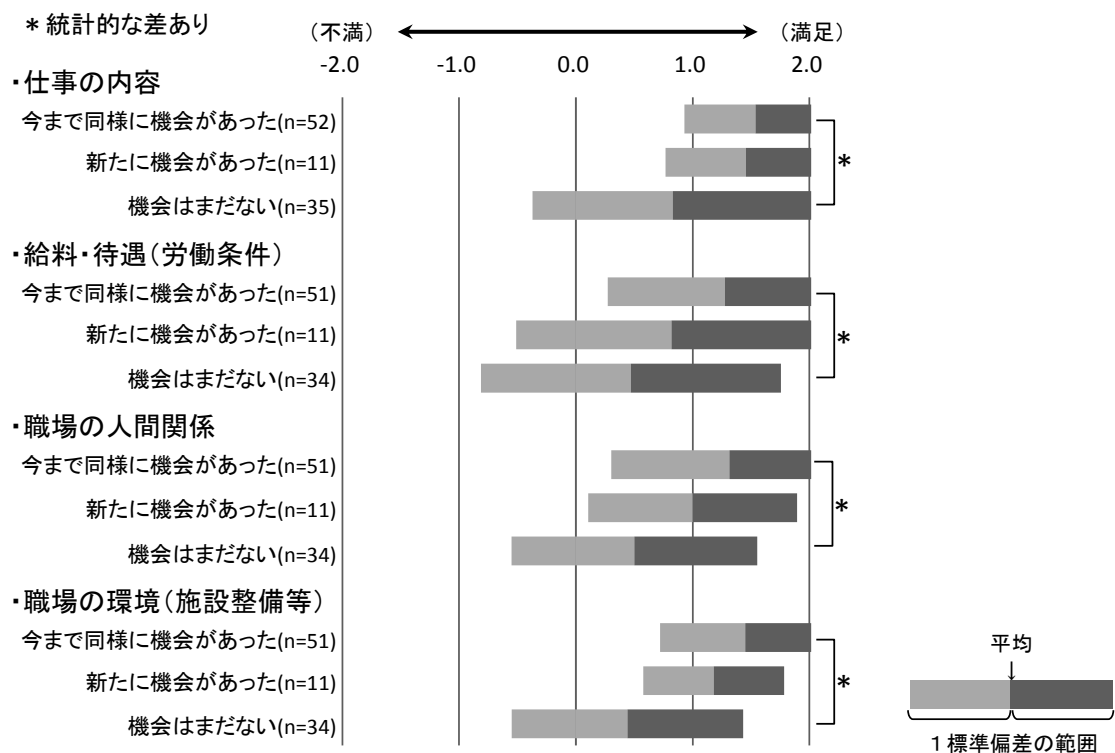
図表 4 - 1 - 7 確認や話合いの機会と仕事の満足度の分析結果（聴覚障害）



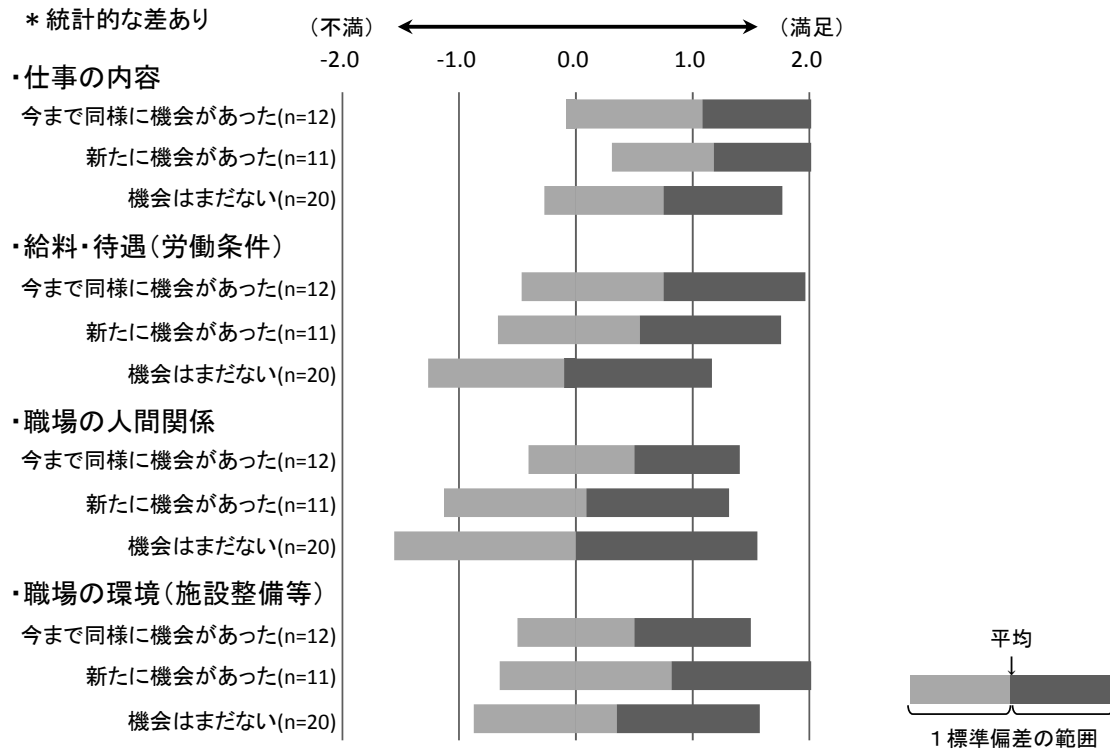
図表 4 - 1 - 8 確認や話合いの機会と仕事の満足度の分析結果（肢体不自由）



図表 4 - 1 - 9 確認や話合いの機会と仕事の満足度の分析結果（内部障害）



図表 4 - 1 - 10 確認や話合いの機会と仕事の満足度の分析結果（知的障害）



図表 4－1－11 確認や話合いの機会と仕事の満足度の分析結果（精神障害）

4 考察

（１）全障害の結果を用いた分析

4つの仕事の満足度すべてにおいて、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「確認や話合いの機会はまだない」よりも有意に満足度が高かったことから、障害者と事業主の間で、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が継続してあることが相互理解を促し、障害者にとってより満足できる仕事の実現に寄与したと考えられた。

また、「新たに確認や話合いの機会があった」と「確認や話合いの機会はまだない」の間には特段の有意な差は検出されなかったことから、制度改正を受けて新たに開始して間もない段階では障害者と事業主の相互理解は醸成されにくいことが示唆され、今後、確認や話合いの機会を継続していくことが求められると考えられた。

（２）障害種別の結果を用いた分析

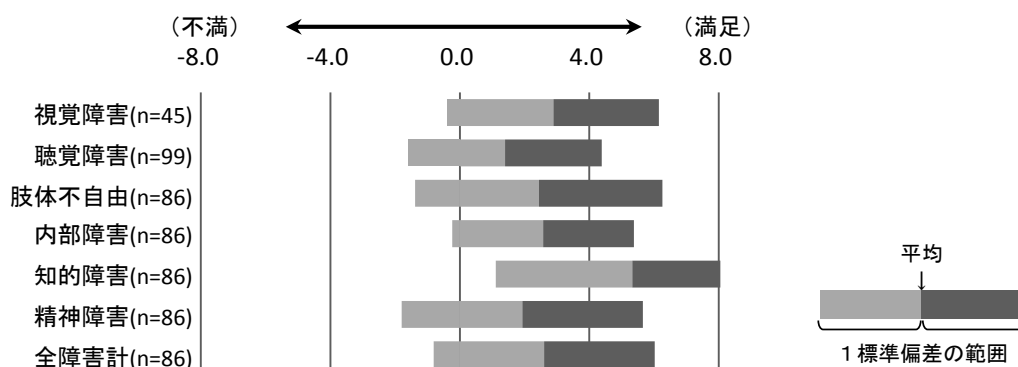
障害別の分析では、対象者の人数が少なく統計的な有意差が検出されなかった「新たに確認や話合いの機会があった」に関する考察は差し控え、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」と「確認や話合いの機会はまだない」による仕事の満足度の違いに着目して考察する。

ア 視覚障害者の結果分析

「職場の人間関係」の満足度について、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「確認や話合いの機会はまだない」よりも有意に満足度が高かったことから、継続した確認や話合いの機会を持つことが人間関係の向上に寄与していると考えられた。

イ 聴覚障害者の結果分析

4つの仕事の満足度すべてにおいて有意差が検出されなかった。継続した確認や話し合いの機会が聴覚障害者の仕事の満足度の向上へ及ぼす影響は薄いものと考えられた。この背景には、聴覚障害者は他の障害種と比べて最も仕事の満足度が低かった（図表4-1-12）ことを考慮すると、確認や話し合いの機会があったとしても、問題点や解決策などを互いに十分に伝達しあえていないことが推察されるため、聴覚障害者と事業主の間には、相互理解を深めるコミュニケーション方法に課題が存在することが示唆された。



図表4-1-12 障害種別の仕事の満足度（4つの仕事満足度の合計）

ウ 肢体不自由者の結果分析

「仕事の内容」と「職場の人間関係」の満足度について、「今までと同様に確認や話し合いの機会があった」者の方が、「確認や話し合いの機会はまだない」より有意に満足度が高かったことから、継続的に確認や話し合いの機会を持つことが仕事内容の改善につながり、職場の人間関係の向上に寄与していると考えられた。

エ 内部障害者の結果分析

有意差は検出されず、また分析対象者数も少なかったことから考察は差し控える。

オ 知的障害者の結果分析

4つの仕事の満足度すべてにおいて、「今までと同様に確認や話し合いの機会があった」者の方が、「確認や話し合いの機会はまだない」よりも有意に満足度が高かった。知的障害者は他の障害種類と比べて高い仕事の満足度を示していた（図表4-1-12）ことを考慮すると、本人が仕事に対して高い満足感を持っていたとしても、職場で支障となっていることの確認や話し合いの機会を継続して実施することが更なる相互理解につながり、知的障害者にとってより一層満足できる仕事の実現に寄与すると考えられた。

カ 精神障害者の結果分析

有意差は検出されず、また分析対象者数も少なかったことから、考察は差し控える。

（3）今後の分析について

職場で支障となっていることの確認や話し合いの機会と仕事の満足度の関係の分析により、確認や話し合いの機会を継続して実施することにより、障害者と事業主が相互理解を深化させていくことの重要性が改めて確認された。話し合いの機会を持つことは、一人ひとりにとっての合理的配慮を障害者本人と事業主の間で確認するうえで重要である。

今回の調査では、「今までと同様に確認や話し合いの機会があった」者と「新たに確認や話し合いの機会があった」者を合わせると約4割に確認や話し合いの機会があったが、一方で「確認や話し合いの機会はまだない」と回答した者も約4割いた。加えて、本分析では「よくわからない」と回答した者は約2割おり、これは確認や話し合いの機会が障害者がそう認識できる形で行われていない可能性を示唆しているため、話し合いの機会が

まだないと認識している者と併せると、約6割の回答者が確認や話合いの機会が明確に与えられていないとも考えられる。よって、調査を継続していく中で、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の実施状況の変化を追跡するとともに、確認や話合いの機会と仕事の満足度との関係が、今後どのように変化していくか継続して分析していく必要があると考えている。

特に、仕事の現状に不満があるから確認や話合いの機会を持つよう障害者側から働きかけた、もしくは逆に現状に不満がないので話合いの機会を求めなかった、というような逆因果の可能性はないか等について、本調査項目をパネルデータ化することにより分析の幅が広がると考えられる。

第2節 「仕事満足度」を決定する要因の検討

1 分析の目的

「障害者の職場定着あるいは離職の背景にはどのような要因が関係しているか」について、本節は、障害者本人の仕事満足度に着目して、まず仕事満足度と就労継続の意欲や離職の関係について分析した後、仕事満足度の決定要因について分析を行った。この分析の目的は、仕事満足度に影響を与える要因を明らかにすることを通して、職場定着ならびに雇用の質の改善策を検討するうえで有益な知見を得ることである。

本分析にあたり、本調査における第1期から第5期までの各期のデータを調査対象者に割り振られたID番号をもとにパネルデータを作成した。これにより、調査対象者の就労状況や仕事満足度などの状態や状況の変化を個人レベルで追うことができるようになったが、本節の分析で特に重要なのは、ある状態や状況と別の状態や状況との間の因果関係をより正確に、また時系列の変化を踏まえて検証することである。各調査期単体のデータ（一時点での横断的データ）を用いた分析ではこのような検証は困難である。ただし、第2章第5節で述べたように、データの性質上分析結果の一般化には制約があることに留意が必要である。

2 方法

本分析では、下記に示した回帰モデルをもとに、ランダム効果モデル（または線形混合モデル）と呼ばれる分析手法を用いて分析を行った。

$$y_{it} = a_0 + b_1x_{it}^1 + b_2x_{it}^2 + \cdots + c_1z_i^1 + c_2z_i^2 + \cdots + u_i + r_{it}$$

ここでは、添え字 i は各調査対象者を、 t は第何期のデータであるかをそれぞれ示している。 y_{it} は目的変数を表している。 x_{it}^1 や x_{it}^2 などは調査期によって変化する要因を表しており、本節の分析の主な考察対象である職業に関する説明変数に相当する。 z_i^1 や z_i^2 などは調査期間で変化しない要因、すなわち基礎的な属性を表しており、統制変数として分析に加えている。 u_i は上記の説明変数を統制した後に残る調査対象者個体の観測不可能なばらつきを表し、 r_{it} は調査対象者個体の調査期独自のばらつきを表している。一時点での横断的データでは、この u_i の影響を取り除くことができないため、因果関係の検証が困難と考えられているが、パネルデータを用いた分析では u_i の影響を取り除くことが可能になる。

本モデルの推定には r_{it} の分散共分散行列を仮定する必要があるが、本調査のデータの特徴を鑑みて、調査期ごとに分散は異なるものの調査期の間で相関はないとする対角行列に従うと仮定して、推定を行った。また、推定には最尤法を用いた。実際の分析は、三輪・林（2014）¹⁾ の第17章で解説されている手順に従い、「IBM SPSS Statistics version 22.0」にて行った。

分析で使用した各目的変数、説明変数および統制変数は下記の通りであり、各変数の記述統計は図表4-2-1にまとめられている。

（1）目的変数

ア 「就労継続意図」

調査項目である「今後も現在の仕事を続けたいと思いますか」という就労継続の意図に関する質問に対して、「現在の仕事を続けたい」と回答した場合は1、それ以外の「現在の仕事とは別の仕事をしたい」「もう仕事はしたくない」「わからない」は0とし、無回答は欠損値として分析に含めなかった。

イ 調査期の間での「離職」の経験

在職期間が2年に満たないか、または前回の調査期で就労していて、今回の調査では就労していない場合は1、それ以外は0とした。

ウ 「仕事満足度」

本調査では、「仕事の内容」、「給与や待遇」、「職場の人間関係」、「職場の環境」のそれぞれの項目に対して、「満足」～「不満」の5段階で回答を求めた。各項目で、「満足」が5点、「不満」が1点となるように変数を作成後、下記 ab の2種類の変数を作成した。これらの変数は、就労継続の意欲や離職の分析では説明変数として扱った。

- a 仕事満足度総合点：各項目の変数の得点を足し合わせ、標準化した。
- b 仕事満足度尺度：各調査期中で、各項目の変数を用いて主成分分析を行い、主成分得点を目的変数とした。

図表 4-2-1 目的変数および説明変数、統制変数の記述統計

比率/平均値		比率/平均値	
就労継続意図 (N=1909)		職種 (N=1967)	
現在の仕事を続けたい	70.8%	製造	22.6%
別の仕事をしたい	14.9%	販売	5.7%
もう仕事はしたくない	0.8%	事務	32.2%
わからない	13.5%	教育	3.2%
離職の経験 (N=1810)		医療福祉	10.1%
あり	18.2%	対人サービス	4.5%
なし	81.8%	清掃	14.1%
仕事満足度総合点 (N=1930)	0.008	職種その他	7.8%
仕事満足度尺度 (N=1930)	0.013	企業規模 (N=1821)	
障害についての説明 (N=2010)		1-9 人	10.7%
会社や職場の者ほとんどに説明	61.3%	10-49 人	26.4%
会社や職場の者のごく一部に説明	30.2%	50-300 人	28.6%
全く説明していない	2.9%	300-999 人	12.1%
分からない	2.7%	1000 人以上	15.9%
無回答	2.8%	分からない	6.4%
配慮を要する項目数 (N=2213)		給与 (N=1970)	
該当する項目なし	11.0%	7 万円未満	10.9%
1 つ	27.6%	7-13 万円	37.9%
2 つ	23.2%	13-25 万円	35.9%
3 つ	16.9%	25 万円以上	15.3%
4 つ以上	21.3%	障害の種類 (N=2213)	
最近二年間の出来事 (N=1746)		視覚障害	8.0%
配置転換	11.9%	聴覚障害	18.0%
上司移動	21.0%	肢体不自由	21.0%
援助者去る	5.0%	内部障害	12.0%
昇進	2.6%	知的障害	28.0%
昇給	28.0%	精神障害	11.0%
減給	9.5%	性別 (N=2213)	
休職	4.5%	男性	66.5%
出向	0.4%	女性	33.5%
現職期間 (N=1973)	11.4 年	調査区分 (N=2213)	
就労形態 (N=2107)		前期調査対象者	53.0%
正社員・正職員	48.4%	後期調査対象者	47.0%
パート・アルバイト・嘱託・契約社員	41.9%		
派遣社員	0.3%		
自営業者・家族従業者	2.1%		
就労継続支援 A 型	2.5%		
就労継続支援 B 型・就労移行支援・福祉作業所	1.9%		
その他	1.2%		
無回答	1.7%		

(2) 説明変数

調査項目である「障害について会社や職場の者に説明しているか否か」、「会社や会社の者に配慮して欲し

いこと」の設問で「配慮が必要」と回答した項目の数（作業手順、作業スピード・仕事量、機器・設備、通勤、援助者、勤務時間や休日の調整、安全健康の各項目）、前回の調査後に職場で起きた出来事、現職期間、正社員か否か、職種、企業規模、給与水準の合計8項目。

（３）統制変数

障害の種類、性別、前期・後期調査どちらの対象者かの3項目。とりわけ、障害の種類については、種類によって背景が異なることが想定されるが、本節の問題意識は上述の仕事に関する目的変数と説明変数の関係にあるため、あくまで統制変数として考慮する。本分析では、すべての期で回答が得られた調査対象者（373人）のみの回答を分析に使用した、いわゆる完備パネルデータでの分析の結果を示す。一方で、分析結果の頑健性を確認するために、脱落の有無に関わらずすべてのデータを使用した、不完備パネルデータで分析を行ったところ、巻末に示している通り完備パネルデータの結果と整合的であり、大きな差異は見られなかった。

3 結果

就労継続意図の決定要因について、まず仕事満足度に関する2つの変数、仕事満足度総合点と仕事満足度尺度を説明変数に加えた分析を行った。図表4-2-2のモデル1とモデル2の分析結果によると、仕事満足度総合点、仕事満足度尺度両変数ともに1%水準で統計学的に有意に就労継続意図と関係している。より具体的には、1標準偏差仕事満足度が高まると、約17パーセントポイント就労継続意図の確率が高まることと両モデルの結果が示している。モデル3では仕事満足度の変数を除き、他の説明変数を加えている。分析の結果、周囲への障害についての説明や昇給の出来事は正で有意であり、援助者が去った経験や減給、休職の出来事、正社員の変数が負で有意であった。必要な配慮の数や現職期間、職種、企業規模、給与水準と就労継続意図との間には有意な関係は見られなかった。

次に離職の決定要因に関して、前回の調査時の就労継続意図との関係を検証したところ、図表4-2-3のモデル1の結果にあるように、負で有意な関係が確認された。より詳細には、2年前の前回の調査時に就労継続意図を示した者はそうでない者より約10パーセントポイント離職の確率が低いことが分かった。離職と仕事満足度との関係については、モデル2の結果が示すように負で有意な関係が確認された。また、仕事満足度総合点の代わりに仕事満足度尺度を説明変数に用いた場合でも同様の結果が得られた。具体的な影響の大きさについては、前回の調査時の総合満足度が1標準偏差低いと、離職の確率は3.5パーセントポイント高まる。これらはモデル1の就労継続意図の結果や図表4-2-2の結果と整合的な結果である。他の説明変数との関係については、モデル3にあるように、休職や出向の経験が正で有意であり、減給や職種が事務である者、給与水準が13-25万円である者については10%水準ではあるが、弱い関係が見られた。また、統制変数として加えた障害の種類に関する変数の中で、精神障害が3つのモデルすべてで正に有意となっており、これは視覚障害者と比して精神障害者の方が離職する確率が高いことを示している。

最後に、仕事満足度の決定要因を検証するために、仕事満足度総合点と仕事満足度尺度をそれぞれ目的変数に設定して分析を行った（図表4-2-4）。両変数に対して有意な関係があるもののうち、周囲への障害についての説明や昇給、事務の仕事、給与水準が正で有意であり、必要な配慮の項目の数や援助者が去った出来事、減給、休職は負で有意であった。なお、現職期間については二乗項も加えており、現職期間が負で有意、その二乗項が正で有意であることから、就労当初は現職期間を経るにつれて仕事満足度は下がる傾向にあるが、ある時点から仕事満足度が上昇に転じる、すなわちU字の関係があると推察される（図表4-2-5）。企業規模については、10人から49人の規模の企業の変数が負で有意であるが、他の規模の変数は有意ではないため、企業規模と仕事満足度の間に系統的な関係は見られなかった。

図表 4-2-2 就労継続意図の決定要因に関する分析結果

	モデル1			モデル2			モデル3		
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差	
仕事満足度総合点	0.175	0.011	***						
仕事満足度尺度				0.179	0.011	***			
障害ほとんどの者に説明 (基準=ほとんどの者に 説明していない)							0.068	0.027	**
配慮を要する項目数 (基準=該当する項目なし)									
要配慮数=1							-0.001	0.045	
要配慮数=2							-0.016	0.047	
要配慮数=3							-0.026	0.050	
要配慮数>=4							-0.030	0.049	
最近二年間の出来事 (基準=それぞれに該当しな い場合)									
配置転換							-0.027	0.036	
上司移動							-0.022	0.029	
援助者去る							-0.128	0.051	**
昇進							-0.087	0.075	
昇給							0.076	0.028	***
減給							-0.083	0.042	**
休職							-0.125	0.059	**
出向							-0.024	0.165	
離職							-0.056	0.046	
現職期間							0.002	0.002	
正社員(基準=正社員以外)							-0.076	0.038	**
職種(基準=製造)									
販売							-0.044	0.065	
事務							-0.005	0.045	
教育							0.070	0.110	
医療福祉							0.078	0.068	
対人サービス							-0.041	0.068	
清掃							0.008	0.053	
職種その他							-0.052	0.055	
企業規模(基準=1-9人)									
10-49人							-0.049	0.051	
50-300人							-0.063	0.051	
300-999人							0.038	0.060	
1000人以上							0.010	0.059	
分からない							0.068	0.069	
給与(基準=7万円未満)									
7-13万円							0.042	0.046	
13-25万円							0.003	0.056	
25万円以上							0.088	0.073	
障害の種類(基準=視覚障害)									
聴覚障害	-0.071	0.055		-0.068	0.055		-0.070	0.078	
肢体不自由	-0.087	0.055		-0.086	0.055		0.023	0.080	
内部障害	-0.063	0.059		-0.064	0.058		-0.002	0.084	
知的障害	-0.008	0.053		-0.007	0.052		0.128	0.084	
精神障害	-0.085	0.060		-0.084	0.060		-0.003	0.089	
男性(基準=女性)	0.031	0.029		0.029	0.028		0.035	0.036	
後期調査対象 (基準=前期調査対象)	0.070	0.028	**	0.071	0.028	**	0.038	0.038	
切片	0.701	0.050	***	0.699	0.050	***	0.614	0.113	***
サンプルサイズ	1847			1847			1244		

注：*, **, ***は係数がそれぞれ 10%, 5%, 1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

図表 4-2-3 離職の決定要因に関する分析結果

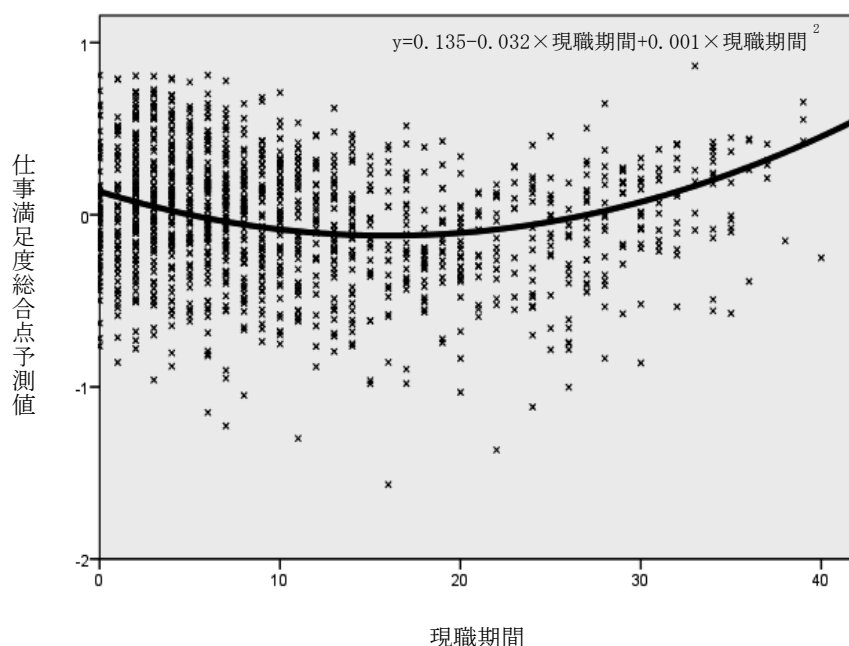
	モデル 1			モデル 2			モデル 3	
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差
就労継続意図（前回）	-0.104	0.019	***					
仕事満足度総合点（前回）				-0.035	0.009	***		
障害ほとんどの者に説明（前回、 基準=ほとんどの者に説明 していない）							0.000	0.022
配慮を要する項目数 （前回、基準=該当する項目なし）								
要配慮数=1							-0.005	0.038
要配慮数=2							-0.039	0.039
要配慮数=3							-0.058	0.042
要配慮数>=4							-0.003	0.042
最近二年間の出来事 （前回、基準=それぞれに該当し ない場合）								
配置転換							-0.009	0.029
上司移動							-0.010	0.026
援助者去る							0.068	0.042
昇進							0.033	0.065
昇給							-0.025	0.023
減給							0.063	0.033
休職							0.198	0.047
出向							0.325	0.140
現職期間（前回）							-0.002	0.001
正社員（前回、基準=正社員以外）							-0.024	0.027
職種（前回、基準=製造）								
販売							-0.018	0.049
事務							-0.059	0.031
教育							-0.021	0.073
医療福祉							-0.031	0.046
対人サービス							-0.025	0.051
清掃							-0.042	0.039
職種その他							-0.004	0.042
企業規模（前回、基準=1-9人）								
10-49人							0.000	0.038
50-300人							-0.020	0.039
300-999人							-0.032	0.045
1000人以上							-0.006	0.044
分からない							-0.014	0.057
給与（前回、基準=7万円未満）								
7-13万円							-0.017	0.036
13-25万円							-0.076	0.043
25万円以上							-0.049	0.053
障害の種類（基準=視覚障害）								
聴覚障害	0.002	0.038		0.005	0.039		0.063	0.049
肢体不自由	0.021	0.038		0.016	0.039		0.060	0.051
内部障害	-0.014	0.041		-0.023	0.042		0.045	0.054
知的障害	0.003	0.036		0.016	0.037		0.000	0.055
精神障害	0.096	0.042	**	0.115	0.043	***	0.097	0.057
男性（基準=女性）	-0.021	0.020		-0.032	0.021		-0.007	0.023
後期調査対象 （基準=前期調査対象）	-0.004	0.020		0.000	0.020		0.016	0.025
切片	0.198	0.037	***	0.133	0.035	***	0.214	0.080
サンプルサイズ		1447			1512			1065

注：*，**，***は係数がそれぞれ 10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

図表 4－2－4 仕事満足度の決定要因に関する分析結果

	モデル 1： 仕事満足度総合点			モデル 2： 仕事満足度尺度		
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差	
障害ほとんどの者に説明 (基準=ほとんどの者に説明していない)	0.157	0.048	***	0.161	0.048	***
配慮を要する項目数 (基準=該当する項目なし)						
要配慮数=1	-0.052	0.077		-0.059	0.077	
要配慮数=2	-0.142	0.082	*	-0.145	0.082	*
要配慮数=3	-0.170	0.086	**	-0.177	0.087	**
要配慮数>=4	-0.186	0.087	**	-0.182	0.087	**
最近二年間の出来事 (基準=それぞれに該当しない場合)						
配置転換	-0.027	0.059		-0.034	0.059	
上司移動	0.000	0.048		0.009	0.048	
援助者去る	-0.374	0.085	***	-0.388	0.086	***
昇進	0.011	0.125		0.029	0.125	
昇給	0.111	0.047	**	0.109	0.047	**
減給	-0.225	0.068	***	-0.211	0.069	***
休職	-0.223	0.099	**	-0.229	0.099	**
出向	-0.250	0.250		-0.244	0.251	
離職	-0.074	0.086		-0.078	0.086	
現職期間	-0.032	0.012	***	-0.029	0.012	**
現職期間二乗	0.001	0.0003	***	0.001	0.0003	***
正社員(基準=正社員以外)	-0.034	0.078		-0.060	0.078	
職種(基準=製造)						
販売	0.068	0.121		0.069	0.121	
事務	0.188	0.090	**	0.182	0.090	**
教育	0.024	0.238		0.032	0.237	
医療福祉	0.058	0.139		0.073	0.139	
対人サービス	0.212	0.123	*	0.198	0.123	
清掃	0.156	0.105		0.145	0.105	
職種その他	-0.076	0.098		-0.096	0.098	
企業規模(基準=1-9人)						
10-49人	-0.222	0.095	**	-0.214	0.095	**
50-300人	-0.115	0.098		-0.121	0.099	
300-999人	-0.041	0.113		-0.037	0.113	
1000人以上	-0.137	0.113		-0.136	0.113	
分からない	-0.078	0.125		-0.081	0.125	
給与(基準=7万円未満)						
7-13万円	0.146	0.084	*	0.145	0.084	*
13-25万円	0.232	0.103	**	0.219	0.103	**
25万円以上	0.367	0.134	***	0.347	0.134	***
障害の種類(基準=視覚障害)						
聴覚障害	-0.467	0.181	**	-0.476	0.180	***
肢体不自由	-0.055	0.186		-0.060	0.185	
内部障害	-0.263	0.195		-0.255	0.194	
知的障害	0.351	0.193	*	0.324	0.192	*
精神障害	-0.204	0.204		-0.206	0.203	
男性(基準=女性)	-0.019	0.085		-0.007	0.084	
後期調査対象 (基準=前期調査対象)	-0.100	0.090		-0.119	0.089	
切片	0.135	0.248		0.167	0.247	
サンプルサイズ	1274			1274		

注：*，**，***は係数がそれぞれ 10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。



図表 4-2-5 仕事満足度総合点の予測値と現職期間の関係の図

4 考察

(1) 就労継続意図の決定要因について

本分析では「就労継続意図」と「仕事満足度」の間に正の関係が確認された。この結果は障害者の職務満足度の低さと離職意図の関係を実証した先行研究^{2),3)}と整合しており、本分析のデータの信頼性のある程度担保する結果であると考えられる。その他の決定要因として、「会社や職場の関係者に自身の障害のことを説明していること」や「援助者が去ること」が有意に関係していることから、周囲との関係性が就労継続意図に影響を及ぼしているといえる。とりわけ、会社や職場の関係者に自身の障害のことを説明しているか否かは入職時の障害の開示・非開示にも関係することを踏まえると、非開示と在職期間の短さの関係を示した先行研究⁴⁾を支持する結果が得られた。また、昇給や減給といった待遇面での出来事も有意に就労継続意図に影響を与えることが分かった。

これらの分析に先立ち、仕事満足度の変数と他の説明変数をすべて加えた分析を行ったところ、仕事満足度の係数の値が小さくなり、もともと有意であったいくつかの説明変数の係数が有意にならなくなった。これは、仕事満足度の決定要因の分析結果が示すように、図表4-2-2のモデル3にて追加した説明変数が仕事満足度の決定要因となっているからであると考えられる。言い換えると、これらの説明変数が就労継続意図に影響を与える過程に仕事満足度があると解釈できる。したがって、就労継続や下記に示す離職に対する解決手段として、仕事満足度および仕事満足度の決定要因に着目する必要があると考えられる。

(2) 離職の決定要因について

本節ではパネルデータの利点を活かし、就労継続意図や仕事満足度とその後実際に離職したかどうかの関係を分析した。その結果、2年という期間が空いているにも関わらず、前回の調査時の就労継続意図や仕事満足度が共に離職に対して有意な影響を与えていることが分かった。このように障害者の離職の要因を実証分析した先行研究は見つからず、一般の労働者を対象にした研究としてパネルデータを用いて仕事満足度が翌年の離職に影響することを示した研究がある^{5),6)}。その他の説明変数については、休職や出向が高い有意

水準で有意となっている以外に関係していると思われる説明変数は見られなかった。これは2年前の回答を説明変数に用いていることが一つの要因であると考えられるが、その一方で、これらの説明変数と離職の直接的な関係はそれほど強いものではなく、就労継続意図の結果について考察したように、主に仕事満足度を介して離職へ影響を与えていると考えられる。

(3) 仕事満足度の決定要因について

以上の分析から「仕事満足度」が「就労継続意図」や「離職」という行動と密接に関係していることが分かり、それを踏まえて、「仕事満足度」が何によって決定されるかについて分析を行った。

ア 会社や職場の関係者への自身の障害の説明

まず、前述した本分析から、会社や職場の関係者への自身の障害を説明することが仕事満足度と正の関係があることが分かった。巻末の図表 資-28 では、本分析で使用した仕事満足度変数を構成する4つの項目ごとに同様の分析を行った結果を示している。「障害の説明」は、仕事内容や給与待遇、人間関係、職場環境すべての項目で有意な結果となっており、さまざまな側面の満足度と幅広く関係していることが分かった。図表4-2-1の記述統計によると、会社や職場の関係者への自身の障害を説明している者の割合は約60パーセントであり、周囲に対して自身の障害について説明することへの支援の重要性が示唆される。

イ 配慮を必要としている項目の数

次に配慮を必要としている項目の数の影響について、項目の数が多い者ほど仕事満足度が低い結果が示された。配慮が必要と感ずるかどうかは主観的なものであり、回答者の間で基準が統一されているわけではないことに注意が必要である。巻末の図表 資-28 に示した満足度の項目ごとの分析結果によると、人間関係や職場環境に関する満足度が、配慮が必要な項目の数と有意に負の関係にあり、これは作業手順や作業スピード・仕事量、機器・設備、援助者といった項目が配慮項目に含まれていることから、それらについての配慮が必要であると考えている者ほど人間関係や職場環境の満足度が低いことを示している。また、本調査では第4期から必要としている配慮のそれぞれの項目が実際に対応されているかを尋ねる設問を加えている。巻末の図表 資-29 に示されているように、第4期および第5期のデータのみを使用して同様の分析を行うと、実際に配慮されている項目の数が多い者ほど満足度が有意に高いこと、必要と感ずている配慮の項目のいずれか1つでも成されていない者は必要な配慮がなされている者や必要と感ずている配慮がない者に比べて満足度が有意に低いという結果が得られた。これらの結果は配慮が行き届いていない職場では仕事満足度が下がり、ひいては離職につながることを示しているため、職場定着のためには障害者が求める配慮に応える必要があると考えられる。

ウ 援助者が去ってしまった経験

まわりで直接仕事などを援助してくれる者がいなくなったという出来事と仕事満足度との負の関係については、全体のわずか5パーセントしか経験していないこととはいえ、図表4-2-4に示されている回帰係数を比較すると他の説明変数よりも値の絶対値が大きいことから影響が大きいことが分かる。このことから障害者の職場定着を図るためには常に適切な援助者を配置することの重要性が示唆される。

エ 昇給や減給の出来事

他に有意になった説明変数として、昇給や減給の出来事や給与水準が有意に仕事満足度と関係していることが分かった。給与という金銭的な要因が仕事満足度に直結するという極めて自然な結果ではあるが、本分析において実証できたことは、金銭的な報酬の重要性を再確認する点や、データの信頼性を担保する点において意義があると考えられる。

オ 現職期間

最後に、現職の就労を継続している期間と仕事満足度との関係について、上述の通り、就労当初は時間が経つにつれて仕事満足度は下がるが、その後上昇に転じる、U字の関係があることが示された。図表4-2-5は現職期間と仕事満足度総合点の推定したモデルの予測値との関係を図示した。満足度の各項目の分析結果においても、巻末に示した通り、現職期間そのものの回帰係数は正で、二乗項は負である。すなわち、就労当初は満足度が下がるが、ある程度時間が経つと上昇に転じることがすべての項目で確認され、職場環境満足度を除き有意となっていた。

現職期間と仕事満足度のU字の関係については、一般の労働者においても確認されている⁷⁾。ただし、現職期間と仕事満足度の関係について分析を行った先行研究は少なく、先行研究では主に年齢と仕事満足度の関係については分析が行われているところである。これは、長年終身雇用制を取り入れていたわが国では年齢と現職期間の相関関係が高いために両方を同時に分析に組み込むことができず、主として年齢と仕事満足度の関係に焦点をあてて研究されてきた背景があると考えられる。

現職期間と仕事満足度のU字関係の説明として、先払い・後払いモデルがある⁸⁾。このモデルでは、職に就いた当初は会社への貢献分よりも報酬が高く感じられるため満足度が高く、その後貢献分が大きくなるにつれて報酬が見合わないと感じるようになるため満足度が低くなると論じている。しかし、その後現職期間が長くなる中で報酬が上がり、要職に就くなどして貢献が報われていると感じられると次第に満足度は高まっていく、という説明である。

他に考えられる説明として、リスガードのU字曲線仮説がある⁹⁾。この仮説はもともと異文化交流や異文化適応の研究の中で提唱されたもので、満足度の時間の変化がU字を描くことを新しい環境に適応する過程をいくつかの段階に分けて説明している。すなわち、第1段階のハネムーン期では取り巻く環境が新鮮であるため、刺激を受け満足度が高いが、次のカルチャーショック期では環境に慣れてくる中で負の側面を見出し、幻滅することで満足度が下がってくる。しかし、その後の適応期ではそのような悪いことを受け入れることによって満足度が高まってくる。障害者の就労についても新たな職場という点では異文化に適応するという側面があり、同様なことが当てはまると考えられる。

また別の観点から現職期間と仕事満足度のU字関係の説明を試みると、上述した通り、仕事満足度は就労継続意図や離職と密接に関係しており、満足度が低い者ほど離職する可能性が高い。換言すると、満足度の低い者から順に離職し、満足度が高い者ほど離職せずに就労を継続すると考えられる。したがって、上記のモデルや仮説にあるように、就労当初は満足度が高いところから下がり始めるが、満足度の低い者が離職することによって、就労を継続した者の満足度の平均は高くなり、最終的に満足度は現職期間と正比例するようになる。すなわち、ある程度の現職期間を経た労働者は高い仕事満足度を持っているように観察されるが、それはもともと仕事満足度が高かった者が就労を継続したからであり、いわゆる生存者バイアスのような事象が起きているのではないかと推察される。

加えて、上述したとおり調査対象者の制約により本節の分析結果を一般化して捉えるには留意が必要であるが、障害の有無に関わらず現職期間と仕事満足度の関係はU字型を描く非線形である可能性が示唆される結果が得られた。この結果に関しては、本調査を進める中で、継続して分析していく必要があると考えている。

参考文献

- 1) 三輪哲、林雄亮. SPSS による応用多変量解析. 2014. オーム社.
- 2) 高木美子. 国立職業リハビリテーションセンター修了生の職場満足度と企業側の評価. 職業リハビリテーション研究 (国立職業リハビリテーションセンター紀要) 1987;4:15-44.
- 3) 若林功. 働く障害者の職業上の希望実現度と職務満足度が離職意図に及ぼす効果. 職業リハビリテーション 21 2007;1:2-15.
- 4) 障害者職業総合センター. 障害者の就業状況等に関する調査研究. 2017. 調査研究報告書 No.137.
- 5) 田中規子. 賃金と仕事満足の変化と離転職：日本家計パネル調査の結果から. ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報. 2013;16:19-36.
- 6) 吉岡洋介. 男性従業員の仕事への不満が離職に及ぼす影響—不満の解消機会に注目して—. フォーラム現代社会学. 2016;15:32-45.
- 7) 齋藤隆志. 企業内賃金格差が労働者の満足度・企業業績に与える影響. 日本労働研究雑誌. 2016;58(5):60-74.
- 8) 若林満. キャリア発達に伴う職務満足度・組織コミットメントの変化について. 日本労務学会年報. 1987;105-115.
- 9) Lysgaard, S. Adjustment in a foreign society: Norwegian Fullbright grantees visiting the United States. International Social Science Bulletin. 1955;7(2):45-51.

卷末資料

図表 資－１ 確認や話合いの機会×仕事の内容の満足度の集計結果（視覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	6 37.5%	7 43.8%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%	16 100.0%
新たに機会があった	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
機会はまだない	6 22.2%	17 63.0%	2 7.4%	0 0.0%	2 7.4%	27 100.0%
よくわからない	5 45.5%	4 36.4%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
無回答	5 83.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
合計	23 36.5%	30 47.6%	7 11.1%	1 1.6%	2 3.2%	63 100.0%

図表 資－２ 確認や話合いの機会×給料・待遇（労働条件等）の満足度の集計結果（視覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	4 25.0%	5 31.3%	5 31.3%	2 12.5%	0 0.0%	16 100.0%
新たに機会があった	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
機会はまだない	6 22.2%	9 33.3%	6 22.2%	4 14.8%	2 7.4%	27 100.0%
よくわからない	3 27.3%	4 36.4%	2 18.2%	0 0.0%	2 18.2%	11 100.0%
無回答	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	1 16.7%	6 100.0%
合計	16 25.4%	18 28.6%	14 22.2%	9 14.3%	6 9.5%	63 100.0%

図表 資－３ 確認や話合いの機会×職場の人間関係の満足度の集計結果（視覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	9 56.3%	7 43.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 100.0%
新たに機会があった	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
機会はまだない	5 18.5%	7 25.9%	10 37.0%	3 11.1%	2 7.4%	27 100.0%
よくわからない	4 40.0%	3 30.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%
無回答	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%
合計	23 38.3%	18 30.0%	13 21.7%	3 5.0%	3 5.0%	60 100.0%

図表 資－４ 確認や話合いの機会×職場の環境（施設整備等）の満足度の集計結果（視覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	6 37.5%	6 37.5%	1 6.3%	3 18.8%	0 0.0%	16 100.0%
新たに機会があった	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
機会はまだない	2 7.7%	10 38.5%	7 26.9%	6 23.1%	1 3.8%	26 100.0%
よくわからない	2 18.2%	6 54.5%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	11 100.0%
無回答	5 83.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
合計	16 25.8%	23 37.1%	12 19.4%	9 14.5%	2 3.2%	62 100.0%

図表 資－５ 確認や話合いの機会×仕事の内容の満足度の集計結果（聴覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	3 6.8%	26 59.1%	12 27.3%	2 4.5%	1 2.3%	44 100.0%
新たに機会があった	2 12.5%	8 50.0%	6 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	16 100.0%
機会はまだない	5 12.8%	20 51.3%	10 25.6%	3 7.7%	1 2.6%	39 100.0%
よくわからない	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
無回答	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%
合計	12 11.1%	57 52.8%	31 28.7%	6 5.6%	2 1.9%	108 100.0%

図表 資－６ 確認や話合いの機会×給料・待遇（労働条件等）の満足度の集計結果（聴覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	5 11.4%	20 45.5%	10 22.7%	8 18.2%	1 2.3%	44 100.0%
新たに機会があった	3 18.8%	1 6.3%	7 43.8%	4 25.0%	1 6.3%	16 100.0%
機会はまだない	4 10.3%	11 28.2%	14 35.9%	7 17.9%	3 7.7%	39 100.0%
よくわからない	0 0.0%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	6 100.0%
無回答	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
合計	13 12.0%	36 33.3%	33 30.6%	19 17.6%	7 6.5%	108 100.0%

図表 資－７ 確認や話合いの機会×職場の人間関係の満足度の集計結果（聴覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	7 15.9%	13 29.5%	16 36.4%	6 13.6%	2 4.5%	44 100.0%
新たに機会があった	3 18.8%	3 18.8%	8 50.0%	2 12.5%	0 0.0%	16 100.0%
機会はまだない	3 7.7%	8 20.5%	17 43.6%	7 17.9%	4 10.3%	39 100.0%
よくわからない	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%
無回答	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%
合計	14 13.0%	27 25.0%	43 39.8%	18 16.7%	6 5.6%	108 100.0%

図表 資－８ 確認や話合いの機会×職場の環境（施設整備等）の満足度の集計結果（聴覚障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	3 6.8%	19 43.2%	15 34.1%	4 9.1%	3 6.8%	44 100.0%
新たに機会があった	3 18.8%	3 18.8%	6 37.5%	4 25.0%	0 0.0%	16 100.0%
機会はまだない	1 2.6%	9 23.1%	22 56.4%	6 15.4%	1 2.6%	39 100.0%
よくわからない	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%
無回答	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
合計	8 7.4%	33 30.6%	46 42.6%	16 14.8%	5 4.6%	108 100.0%

図表 資－９ 確認や話合いの機会×仕事の内容の満足度の集計結果（肢体不自由）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	15 50.0%	10 33.3%	4 13.3%	1 3.3%	0 0.0%	30 100.0%
新たに機会があった	2 28.6%	0 0.0%	4 57.1%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
機会はまだない	10 20.0%	21 42.0%	11 22.0%	6 12.0%	2 4.0%	50 100.0%
よくわからない	5 31.3%	5 31.3%	5 31.3%	0 0.0%	1 6.3%	16 100.0%
無回答	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
合計	35 32.1%	37 33.9%	26 23.9%	8 7.3%	3 2.8%	109 100.0%

図表 資－10 確認や話合いの機会×給料・待遇（労働条件等）の満足度の集計結果（肢体不自由）

	満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	12 40.0%	7 23.3%	1 3.3%	10 33.3%	0 0.0%	30 100.0%
新たに機会があった	1 14.3%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
機会はまだない	9 18.0%	14 28.0%	11 22.0%	8 16.0%	8 16.0%	50 100.0%
よくわからない	2 13.3%	6 40.0%	3 20.0%	1 6.7%	3 20.0%	15 100.0%
無回答	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	6 100.0%
合計	25 23.1%	32 29.6%	18 16.7%	21 19.4%	12 11.1%	108 100.0%

図表 資－11 確認や話合いの機会×職場の人間関係の満足度の集計結果（肢体不自由）

	満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	14 46.7%	8 26.7%	4 13.3%	4 13.3%	0 0.0%	30 100.0%
新たに機会があった	1 14.3%	0 0.0%	4 57.1%	2 28.6%	0 0.0%	7 100.0%
機会はまだない	6 12.0%	18 36.0%	14 28.0%	5 10.0%	7 14.0%	50 100.0%
よくわからない	1 6.3%	9 56.3%	5 31.3%	0 0.0%	1 6.3%	16 100.0%
無回答	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
合計	24 22.0%	39 35.8%	27 24.8%	11 10.1%	8 7.3%	109 100.0%

図表 資－12 確認や話合いの機会×職場の環境（施設整備等）の満足度の集計結果（肢体不自由）

	満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	13 44.8%	11 37.9%	1 3.4%	3 10.3%	1 3.4%	29 100.0%
新たに機会があった	2 28.6%	1 14.3%	2 28.6%	2 28.6%	0 0.0%	7 100.0%
機会はまだない	11 22.0%	19 38.0%	13 26.0%	5 10.0%	2 4.0%	50 100.0%
よくわからない	2 12.5%	9 56.3%	2 12.5%	2 12.5%	1 6.3%	16 100.0%
無回答	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
合計	30 27.8%	44 40.7%	18 16.7%	12 11.1%	4 3.7%	108 100.0%

図表 資－13 確認や話し合いの機会×仕事の内容の満足度の集計結果（内部障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	7 46.7%	5 33.3%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 100.0%
新たに機会があった	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
機会はまだない	11 30.6%	18 50.0%	5 13.9%	2 5.6%	0 0.0%	36 100.0%
よくわからない	4 57.1%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
無回答	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計	24 36.4%	30 45.5%	10 15.2%	2 3.0%	0 0.0%	66 100.0%

図表 資－14 確認や話し合いの機会×給料・待遇（労働条件等）の満足度の集計結果（内部障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	1 6.7%	4 26.7%	7 46.7%	1 6.7%	2 13.3%	15 100.0%
新たに機会があった	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	5 100.0%
機会はまだない	6 16.2%	10 27.0%	10 27.0%	10 27.0%	1 2.7%	37 100.0%
よくわからない	2 28.6%	3 42.9%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
無回答	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計	10 14.9%	22 32.8%	19 28.4%	13 19.4%	3 4.5%	67 100.0%

図表 資－15 確認や話し合いの機会×職場の人間関係の満足度の集計結果（内部障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	3 20.0%	7 46.7%	4 26.7%	1 6.7%	0 0.0%	15 100.0%
新たに機会があった	0 0.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
機会はまだない	6 16.2%	11 29.7%	11 29.7%	8 21.6%	1 2.7%	37 100.0%
よくわからない	3 42.9%	4 57.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
無回答	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計	13 19.4%	27 40.3%	17 25.4%	9 13.4%	1 1.5%	67 100.0%

図表 資－16 確認や話合いの機会×職場の環境（施設整備等）の満足度の集計結果（内部障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	4 26.7%	7 46.7%	4 26.7%	0 0.0%	0 0.0%	15 100.0%
新たに機会があった	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	5 100.0%
機会はまだない	6 16.2%	18 48.6%	9 24.3%	3 8.1%	1 2.7%	37 100.0%
よくわからない	4 57.1%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
無回答	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計	16 23.9%	32 47.8%	14 20.9%	3 4.5%	2 3.0%	67 100.0%

図表 資－17 確認や話合いの機会×仕事の内容の満足度の集計結果（知的障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	31 59.6%	18 34.6%	3 5.8%	0 0.0%	0 0.0%	52 100.0%
新たに機会があった	6 54.5%	4 36.4%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
機会はまだない	11 31.4%	15 42.9%	4 11.4%	2 5.7%	3 8.6%	35 100.0%
よくわからない	21 42.0%	16 32.0%	12 24.0%	0 0.0%	1 2.0%	50 100.0%
無回答	3 75.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%
合計	72 47.4%	53 34.9%	21 13.8%	2 1.3%	4 2.6%	152 100.0%

図表 資－18 確認や話合いの機会×給料・待遇（労働条件等）の満足度の集計結果（知的障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	28 54.9%	14 27.5%	5 9.8%	3 5.9%	1 2.0%	51 100.0%
新たに機会があった	5 45.5%	2 18.2%	1 9.1%	3 27.3%	0 0.0%	11 100.0%
機会はまだない	8 23.5%	11 32.4%	8 23.5%	3 8.8%	4 11.8%	34 100.0%
よくわからない	17 34.7%	16 32.7%	8 16.3%	5 10.2%	3 6.1%	49 100.0%
無回答	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計	60 40.5%	43 29.1%	23 15.5%	14 9.5%	8 5.4%	148 100.0%

図表 資－19 確認や話合いの機会×職場の人間関係の満足度の集計結果（知的障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	30 58.8%	12 23.5%	5 9.8%	3 5.9%	1 2.0%	51 100.0%
新たに機会があった	3 27.3%	6 54.5%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	11 100.0%
機会はまだない	6 17.6%	11 32.4%	13 38.2%	2 5.9%	2 5.9%	34 100.0%
よくわからない	17 34.7%	16 32.7%	11 22.4%	5 10.2%	0 0.0%	49 100.0%
無回答	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	4 100.0%
合計	58 38.9%	46 30.9%	30 20.1%	12 8.1%	3 2.0%	149 100.0%

図表 資－20 確認や話合いの機会×職場の環境（施設整備等）の満足度の集計結果（知的障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	30 58.8%	14 27.5%	7 13.7%	0 0.0%	0 0.0%	51 100.0%
新たに機会があった	3 27.3%	7 63.6%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
機会はまだない	5 14.7%	11 32.4%	13 38.2%	4 11.8%	1 2.9%	34 100.0%
よくわからない	19 39.6%	14 29.2%	12 25.0%	3 6.3%	0 0.0%	48 100.0%
無回答	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計	59 40.1%	46 31.3%	34 23.1%	7 4.8%	1 0.7%	147 100.0%

図表 資－21 確認や話合いの機会×仕事の内容の満足度の集計結果（精神障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	5 41.7%	5 41.7%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%
新たに機会があった	4 36.4%	6 54.5%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	11 100.0%
機会はまだない	5 25.0%	7 35.0%	7 35.0%	0 0.0%	1 5.0%	20 100.0%
よくわからない	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 －
合計	16 31.4%	24 47.1%	8 15.7%	1 2.0%	2 3.9%	51 100.0%

図表 資－22 確認や話合いの機会×給料・待遇（労働条件等）の満足度の集計結果（精神障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	4 33.3%	3 25.0%	4 33.3%	0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%
新たに機会があった	2 18.2%	5 45.5%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	11 100.0%
機会はまだない	0 0.0%	9 45.0%	3 15.0%	5 25.0%	3 15.0%	20 100.0%
よくわからない	0 0.0%	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	8 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 －
合計	6 11.8%	21 41.2%	12 23.5%	7 13.7%	5 9.8%	51 100.0%

図表 資－23 確認や話合いの機会×職場の人間関係の満足度の集計結果（精神障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	0 0.0%	8 66.7%	3 25.0%	0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%
新たに機会があった	2 18.2%	1 9.1%	5 45.5%	2 18.2%	1 9.1%	11 100.0%
機会はまだない	4 20.0%	5 25.0%	4 20.0%	1 5.0%	6 30.0%	20 100.0%
よくわからない	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 －
合計	8 15.7%	17 33.3%	15 29.4%	3 5.9%	8 15.7%	51 100.0%

図表 資－24 確認や話合いの機会×職場の環境（施設整備等）の満足度の集計結果（精神障害）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	合計
今まで同様に機会があった	2 16.7%	4 33.3%	4 33.3%	2 16.7%	0 0.0%	12 100.0%
新たに機会があった	4 36.4%	5 45.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	11 100.0%
機会はまだない	4 20.0%	5 25.0%	7 35.0%	2 10.0%	2 10.0%	20 100.0%
よくわからない	0 0.0%	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	8 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 －
合計	10 19.6%	18 35.3%	14 27.5%	5 9.8%	4 7.8%	51 100.0%

図表 資-25 就労継続意図の決定要因に関する分析結果（不完備パネルデータ）

	モデル 1			モデル 2			モデル 3		
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差	
仕事満足度総合点	0.180	0.009	***						
仕事満足度尺度				0.184	0.009	***			
障害ほとんどの者に説明 (基準=ほとんどの者に 説明していない)							0.087	0.022	***
配慮を要する項目数 (基準=該当する項目なし)									
要配慮数=1							0.006	0.036	
要配慮数=2							-0.026	0.038	
要配慮数=3							-0.015	0.040	
要配慮数>=4							-0.013	0.040	
最近二年間の出来事 (基準=それぞれに該当しな い場合)									
配置転換							-0.039	0.029	
上司移動							-0.019	0.024	
援助者去る							-0.092	0.044	**
昇進							0.003	0.052	
昇給							0.079	0.023	***
減給							-0.027	0.034	
休職							-0.074	0.049	
出向							0.058	0.156	
離職							0.016	0.038	
現職期間							0.003	0.002	*
正社員(基準=正社員以外)							-0.064	0.029	**
職種(基準=製造)									
販売							-0.056	0.052	
事務							-0.037	0.035	
教育							0.076	0.081	
医療福祉							0.121	0.054	**
対人サービス							-0.102	0.058	*
清掃							0.006	0.043	
職種その他							-0.062	0.046	
企業規模(基準=1-9人)									
10-49人							-0.005	0.040	
50-300人							0.003	0.041	
300-999人							0.073	0.048	
1000人以上							0.063	0.046	
分からない							0.099	0.054	*
給与(基準=7万円未満)									
7-13万円							0.049	0.038	
13-25万円							0.026	0.044	
25万円以上							0.125	0.057	**
障害の種類(基準=視覚障害)									
聴覚障害	-0.020	0.038		-0.017	0.038		-0.038	0.057	
肢体不自由	-0.040	0.037		-0.039	0.037		0.048	0.058	
内部障害	-0.020	0.042		-0.022	0.042		0.051	0.061	
知的障害	0.035	0.036		0.035	0.036		0.185	0.063	***
精神障害	-0.056	0.043		-0.056	0.043		0.025	0.068	
男性(基準=女性)	0.029	0.022		0.028	0.022		0.019	0.028	
後期調査対象 (基準=前期調査対象)	0.074	0.020	***	0.074	0.020	***	0.041	0.029	
切片	0.644	0.034	***	0.645	0.034	***	0.479	0.087	***
サンプルサイズ		3089			3089			1924	

注：*，**，***は係数がそれぞれ 10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

図表 資-26 離職の決定要因に関する分析結果（不完備パネルデータ）

	モデル 1			モデル 2			モデル 3	
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差
就労継続意図（前回）	-0.106	0.016	***					
仕事満足度総合点（前回）				-0.041	0.008	***		
障害ほとんどの者に説明（前回、 基準=ほとんどの者に説明し ていない）							-0.021	0.019
配慮を要する項目数 （前回、基準=該当する項目なし）								
要配慮数=1							0.006	0.033
要配慮数=2							-0.036	0.035
要配慮数=3							-0.024	0.037
要配慮数>=4							0.013	0.037
最近二年間の出来事 （前回、基準=それぞれに該当し ない場合）								
配置転換							-0.011	0.025
上司移動							-0.008	0.022
援助者去る							0.082	0.039
昇進							0.027	0.048
昇給							-0.030	0.020
減給							0.050	0.029
休職							0.157	0.043
出向							0.323	0.144
現職期間（前回）							-0.004	0.001
正社員（前回、基準=正社員以外）							-0.018	0.023
職種（前回、基準=製造）								
販売							-0.014	0.043
事務							-0.019	0.027
教育							-0.047	0.060
医療福祉							0.014	0.041
対人サービス							0.014	0.047
清掃							-0.003	0.034
職種その他							0.025	0.038
企業規模（前回、基準=1-9人）								
10-49人							-0.018	0.033
50-300人							-0.053	0.034
300-999人							-0.058	0.039
1000人以上							-0.037	0.038
分からない							-0.070	0.050
給与（前回、基準=7万円未満）								
7-13万円							-0.013	0.033
13-25万円							-0.079	0.038
25万円以上							-0.023	0.047
障害の種類（基準=視覚障害）								
聴覚障害	0.011	0.029		0.000	0.030		0.061	0.041
肢体不自由	0.013	0.029		0.002	0.029		0.044	0.042
内部障害	-0.017	0.033		-0.030	0.033		0.034	0.045
知的障害	0.010	0.028		0.011	0.029		-0.026	0.047
精神障害	0.150	0.034	***	0.151	0.034	***	0.096	0.049
男性（基準=女性）	-0.023	0.017		-0.032	0.017	*	-0.015	0.020
後期調査対象 （基準=前期調査対象）	0.013	0.016		0.004	0.016		0.023	0.022
切片	0.196	0.029	***	0.143	0.027	***	0.251	0.068
サンプルサイズ	2271			2271			1449	

注：*，**，***は係数がそれぞれ 10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

図表 資－27 仕事満足度の決定要因に関する分析結果（不完備パネルデータ）

	モデル 1： 仕事満足度総合点			モデル 2： 仕事満足度尺度		
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差	
障害ほとんどの者に説明 (基準=ほとんどの者に説明していない)	0.185	0.039	***	0.191	0.039	***
配慮を要する項目数 (基準=該当する項目なし)						
要配慮数=1	-0.057	0.061		-0.064	0.061	
要配慮数=2	-0.151	0.064	**	-0.155	0.065	**
要配慮数=3	-0.149	0.069	**	-0.155	0.069	**
要配慮数>=4	-0.189	0.070	***	-0.186	0.070	***
最近二年間の出来事 (基準=それぞれに該当しない場合)						
配置転換	-0.055	0.046		-0.065	0.046	
上司移動	-0.030	0.039		-0.018	0.039	
援助者去る	-0.330	0.072	***	-0.337	0.072	***
昇進	0.044	0.085		0.056	0.085	
昇給	0.144	0.038	***	0.142	0.038	***
減給	-0.244	0.056	***	-0.230	0.056	***
休職	-0.158	0.081	*	-0.165	0.081	**
出向	-0.181	0.235		-0.172	0.236	
離職	0.009	0.070		0.015	0.071	
現職期間	-0.029	0.009	***	-0.026	0.009	***
現職期間二乗	0.001	0.000	***	0.001	0.000	***
正社員(基準=正社員以外)	-0.051	0.057		-0.075	0.057	
職種(基準=製造)						
販売	0.104	0.095		0.106	0.095	
事務	0.131	0.067	*	0.136	0.067	**
教育	0.082	0.161		0.101	0.161	
医療福祉	0.182	0.107	*	0.200	0.107	*
対人サービス	0.218	0.101	**	0.214	0.102	**
清掃	0.071	0.083		0.068	0.083	
職種その他	0.014	0.079		0.003	0.079	
企業規模(基準=1-9人)						
10-49人	-0.197	0.074	***	-0.195	0.074	***
50-300人	-0.143	0.076	*	-0.151	0.076	**
300-999人	-0.054	0.088		-0.052	0.088	
1000人以上	-0.091	0.087		-0.095	0.087	
分からない	-0.048	0.096		-0.059	0.096	
給与(基準=7万円未満)						
7-13万円	0.107	0.068		0.099	0.068	
13-25万円	0.156	0.080	*	0.138	0.080	*
25万円以上	0.386	0.104	***	0.357	0.104	***
障害の種類(基準=視覚障害)						
聴覚障害	-0.535	0.122	***	-0.531	0.122	***
肢体不自由	-0.090	0.124		-0.083	0.124	
内部障害	-0.241	0.133	*	-0.226	0.132	*
知的障害	0.332	0.132	**	0.318	0.132	**
精神障害	-0.205	0.144		-0.200	0.144	
男性(基準=女性)	-0.051	0.062		-0.037	0.062	
後期調査対象 (基準=前期調査対象)	-0.122	0.064	*	-0.130	0.064	**
切片	0.174	0.177		0.192	0.177	
サンプルサイズ	1974			1974		

注：*，**，***は係数がそれぞれ10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

図表 資－28 仕事満足度各項目の決定要因に関する分析結果（完備パネルデータ）

	モデル1： 仕事内容満足度			モデル2： 給与待遇満足度			モデル3： 人間関係満足度			モデル4： 職場環境満足度		
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差	
障害ほとんどの者に説明 (基準=ほとんどの者に説明 していない)	0.189	0.053	***	0.198	0.062	***	0.156	0.059	***	0.127	0.056	**
配慮を要する項目数 (基準=該当する項目なし)												
要配慮数=1	0.029	0.085		-0.038	0.099		-0.170	0.095	*	-0.017	0.091	
要配慮数=2	-0.043	0.089		-0.179	0.104	*	-0.180	0.100	*	-0.175	0.096	*
要配慮数=3	-0.129	0.094		-0.128	0.111		-0.197	0.106	*	-0.205	0.102	**
要配慮数>=4	-0.034	0.094		-0.169	0.110		-0.256	0.106	**	-0.279	0.101	***
最近二年間の出来事 (基準=それぞれに該当しな い場合)												
配置転換	-0.006	0.067		-0.035	0.077		-0.063	0.073		-0.031	0.070	
上司移動	-0.009	0.054		-0.012	0.063		0.010	0.061		-0.005	0.057	
援助者去る	-0.349	0.096	***	-0.146	0.111		-0.545	0.107	***	-0.357	0.102	***
昇進	0.133	0.141		-0.133	0.164		-0.033	0.156		0.014	0.149	
昇給	0.091	0.052	*	0.166	0.061	***	0.114	0.058	*	0.061	0.056	
減給	-0.088	0.077		-0.485	0.088	***	-0.089	0.085		-0.086	0.081	
休職	-0.247	0.110	**	-0.082	0.128		-0.280	0.122	**	-0.172	0.117	
出向	-0.376	0.284		-0.088	0.324		-0.172	0.323		-0.251	0.304	
離職	-0.163	0.096	*	0.093	0.111		-0.115	0.108		-0.062	0.103	
現職期間	-0.022	0.012	*	-0.021	0.015		-0.042	0.013	***	-0.012	0.013	
現職期間二乗	0.001	0.000	**	0.001	0.000	**	0.001	0.000	***	0.000	0.000	
正社員(基準=正社員以外)	-0.147	0.079	*	0.154	0.097		-0.062	0.087		-0.035	0.084	
職種(基準=製造)												
販売	-0.023	0.128		0.035	0.154		0.175	0.143		0.110	0.137	
事務	0.010	0.093		0.214	0.114	*	0.265	0.103	***	0.154	0.099	
教育	0.247	0.235		0.064	0.292		0.339	0.259		-0.316	0.251	
医療福祉	0.187	0.142		0.014	0.174		0.182	0.157		0.080	0.151	
対人サービス	-0.026	0.133		0.326	0.158	**	0.219	0.147		0.073	0.141	
清掃	0.022	0.108		0.290	0.133	**	0.157	0.120		0.140	0.115	
職種その他	-0.122	0.106		0.175	0.126		-0.013	0.118		-0.192	0.113	*
企業規模(基準=1-9人)												
10-49人	-0.146	0.101		-0.345	0.120	***	-0.138	0.112		-0.132	0.108	
50-300人	-0.193	0.103	*	-0.057	0.124		-0.139	0.115		-0.048	0.111	
300-999人	0.024	0.119		0.022	0.143		-0.156	0.133		-0.056	0.128	
1000人以上	-0.123	0.118		-0.048	0.142		-0.313	0.132	**	-0.062	0.127	
分からない	-0.123	0.134		0.045	0.160		-0.217	0.151		-0.027	0.144	
給与(基準=7万円未満)												
7-13万円	0.095	0.091		0.161	0.108		0.007	0.101		0.253	0.097	***
13-25万円	0.062	0.110		0.295	0.132	**	0.034	0.123		0.306	0.117	***
25万円以上	0.245	0.142	*	0.614	0.170	***	0.173	0.158		0.263	0.151	*
障害の種類(基準=視覚障害)												
聴覚障害	-0.257	0.170		-0.126	0.219		-0.382	0.189	**	-0.535	0.182	***
肢体不自由	0.098	0.175		0.185	0.225		-0.043	0.195		0.006	0.187	
内部障害	0.132	0.183		-0.051	0.235		-0.284	0.204		-0.375	0.196	*
知的障害	0.277	0.182		0.819	0.233	***	0.179	0.203		0.147	0.196	
精神障害	0.045	0.192		0.142	0.246		-0.284	0.214		-0.228	0.206	
男性(基準=女性)	0.018	0.078		-0.224	0.102	**	0.100	0.087		0.008	0.084	
後期調査対象 (基準=前期調査対象)	-0.171	0.083	**	-0.075	0.108		-0.118	0.092		-0.057	0.090	
切片	4.038	0.245	***	3.075	0.303	***	4.126	0.274	***	3.858	0.262	***
サンプルサイズ	1289			1289			1281			1281		

注：*，**，***は係数がそれぞれ 10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

図表 資-29 仕事満足度の決定要因に関する分析結果（第4,5期データのみ使用）

	モデル1： 仕事満足度総合点			モデル2： 仕事満足度総合点		
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差	
障害ほとんどの者に説明 (基準=ほとんどの者に説明していない)	0.183	0.077	**	0.220	0.077	***
実際に配慮があった項目の数 (基準=配慮項目数=0)						
配慮項目数=1	0.140	0.095				
配慮項目数=2	0.089	0.108				
配慮項目数=3	0.446	0.116	***			
配慮項目数>=4	0.309	0.111	***			
配慮されていない項目あり (基準=配慮を要する項目がない or 必要な配慮がすべてなされている)				-0.341	0.068	***
最近二年間の出来事 (基準=それぞれに該当しない場合)						
配置転換	-0.179	0.103	*	-0.167	0.103	
上司移動	-0.024	0.076		-0.027	0.076	
援助者去る	-0.558	0.130	***	-0.512	0.130	***
昇進	0.053	0.183		0.095	0.183	
昇給	0.086	0.074		0.122	0.073	*
減給	-0.264	0.130	**	-0.274	0.130	**
休職	-0.348	0.161	**	-0.289	0.160	*
出向	-0.054	0.319		-0.140	0.318	
離職	-0.090	0.145		-0.034	0.146	
現職期間	-0.023	0.017		-0.019	0.017	
現職期間二乗	0.001	0.000		0.000	0.000	
正社員(基準=正社員以外)	-0.028	0.101		-0.035	0.100	
職種(基準=製造)						
販売	0.101	0.174		0.067	0.172	
事務	0.087	0.123		0.119	0.122	
教育	0.350	0.296		0.321	0.291	
医療福祉	0.218	0.180		0.167	0.178	
対人サービス	0.076	0.188		0.020	0.186	
清掃	0.204	0.130		0.194	0.129	
職種その他	0.092	0.148		0.055	0.147	
企業規模(基準=1-9人)						
10-49人	-0.457	0.146	***	-0.428	0.145	***
50-300人	-0.234	0.145		-0.200	0.143	
300-999人	-0.271	0.167		-0.256	0.166	
1000人以上	-0.372	0.161	**	-0.370	0.160	**
分からない	-0.367	0.181	**	-0.320	0.180	*
給与(基準=7万円未満)						
7-13万円	-0.013	0.120		0.031	0.118	
13-25万円	0.132	0.143		0.144	0.141	
25万円以上	0.457	0.189	**	0.449	0.186	**
障害の種類(基準=視覚障害)						
聴覚障害	-0.205	0.201		-0.231	0.197	
肢体不自由	0.296	0.213		0.320	0.209	
内部障害	0.148	0.221		0.080	0.217	
知的障害	0.599	0.220	***	0.583	0.217	***
精神障害	0.146	0.235		0.142	0.231	
男性(基準=女性)	-0.005	0.092		-0.019	0.091	
後期調査対象 (基準=前期調査対象)	-0.015	0.101		-0.046	0.099	
切片	-0.205	0.317		0.080	0.305	
サンプルサイズ	622			622		

注：*，**，***は係数がそれぞれ10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

第5回職業生活後期調査票

ID番号*****

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票

第5回 職業生活後期調査

平成29年7月 (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 研究部門

I あなた自身の基本的なことについてうかがいます（すべての方への質問）

現在お持ちの障害者手帳などについて、確認させていただきます。枠の中へ回答をお願いします。

お持ちの障害者手帳について、**あてはまるものすべて**に○をつけてください。
次に等級と交付年月をカッコ内に記入してください。

1. 身体障害者手帳 () 級 () 年 () 月交付
2. 療育手帳（「愛の手帳」、「みどりの手帳」など） () 級・度 () 年 () 月交付
3. 精神障害者保健福祉手帳 () 級 () 年 () 月交付

前回の調査（2年前、平成27年7月）以降、障害者手帳の有無や変更にかかわらず、医師の診断により、新たに障害として確認された障害種がありましたら、**あてはまるものすべて**に○をつけてください。

1. 視覚障害
2. 聴覚障害
3. 肢体不自由
4. 内部障害
5. 知的障害
6. 精神障害
7. その他 ()

問1 あなたのご家族について、うかがいます。

次の中で同居している、していないにかかわらず、**あてはまるものすべて**に○をつけてください。

1. 配偶者
2. 子ども
3. あなたの父親
4. あなたの母親
5. 兄弟姉妹
6. その他（配偶者の父親、配偶者の母親、祖父、祖母、子どもの配偶者、孫など）

問2 あなたの現在のお住まいについて、うかがいます。**あてはまるもの1つ**に○をつけてください。

1. 自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
2. 家族（両親、兄弟など）の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
3. 会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれる住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
4. 福祉施設や地域の団体などが運営する援護寮、福祉ホームやグループホームなどの施設
5. その他 ()

1～3に回答された方にうかがいます。

あなたは現在一人暮らしですか。

1. はい
2. いいえ

問3 前回の調査（2年前、平成27年7月）以降、あなたが取得した資格や免許に変更や追加があれば、その内容を具体的に枠の中に記入してください（原付免許、英検2級など具体的に記入してください）。

--

問4 前回の調査（2年前、平成27年7月）以降、あなたやあなたの家族に起きた出来事について、
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分が結婚をした
2. 自分が離婚をした
3. 自分の子どもが産まれた
4. 自分が引越しをした
5. 自分が親元から離れて暮らし始めた
6. 自分が病気や事故で1ヶ月以上の入院をした
7. 自分が学校や能力開発校に通ったまたは卒業した

学校や能力開発校の種別をご記入ください→

- | | |
|---|--|
| 8. 自分の障害に関する年金を受給しはじめた | |
| 9. 自分の障害に関する年金の受給がなくなった | |
| 10. 自分の親が離婚をした | |
| 11. 自分の親が仕事を辞めた | |
| 12. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、病気や事故で1ヶ月以上の入院をした | |
| 13. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）の介護が必要になった | |
| 14. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、亡くなった | |
| 15. 該当する項目なし | |

--

Ⅱ あなたのお仕事についてうかがいます（すべての方への質問）

問5 現在、あなたは収入のある仕事についていますか。**あてはまるもの1つ**に○をつけてください。複数の仕事をされている場合（アルバイトを2つしているなど）、主な仕事1つについて回答してください。

1. 会社やその他の機関で、正社員または正職員として働いている（休業・休職中を含む）
2. 会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働いている
3. 会社やその他の機関で、派遣社員として働いている
4. 自営業主または家族従業者として働いている
5. 自宅にて内職で働いている
6. 就労継続支援 A 型で雇用契約を結んで働いている
7. 就労継続支援 B 型あるいは就労移行支援や地域活動支援センター（福祉作業所）などで雇用契約を結ばない形で働いている
8. 仕事をしていない
9. その他（ ）

7～9に回答された方は、6ページ（ⅡB）問24に進んでご回答ください

1～6に回答された方は、3ページ（ⅡA）問6に進んでご回答ください

現在、会社やその他の機関もしくは自営で働いている方にうかがいます
(問5で1～6に回答された方への質問)

問6 現在、あなたはいくつの仕事をされていますか。**あてはまるもの1つ**に○をつけてください。
(アルバイトを2つしている場合は「2」になります。)

1. 1つ 2. 2つ 3. 3つ以上

問7 あなたが担当している仕事は、主にどんな内容ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
(複数の仕事をされている場合、これ以降の質問は、主な仕事1つについて回答してください。)

1. ものを作る仕事
2. ものを売る仕事
3. 事務の仕事
4. ものを教える仕事（教師、塾講師、スポーツクラブ指導員など）
5. 医療や福祉に関わる仕事（あん摩・はり・きゅうの仕事を含む）
6. 人を相手にするサービス業（「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関わる仕事」を除きます）
7. 清掃やクリーニングなどのサービス業
8. その他（ ）

問8 あなたが6月に働いた時間は1週間あたりにすると何時間ですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 20時間未満 2. 20時間以上30時間未満 3. 30時間以上（フルタイム）

問9 あなたの6月の休日は1週間あたりにすると何日ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

問10 あなたが6月に受け取った給与（手取り）は、賞与（ボーナス）を除いていくらくらいですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

(自営の場合には売り上げから経費などを引いた給与相当額として選んでください)

1. 7万円未満 2. 7万円以上13万円未満 3. 13万円以上25万円未満
4. 25万円以上40万円未満 5. 40万円以上

問11 あなたが去年1年間でもらった賞与（ボーナス）の額はいくらくらいですか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. なし 2. 10万円未満 3. 10万円以上30万円未満
4. 30万円以上50万円未満 5. 50万円以上100万円未満 6. 100万円以上

問 12 あなたの会社までの通勤に利用する手段は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 徒歩 2. 自転車 3. 原付やオートバイ
4. 自動車（自分で運転） 5. 自動車（家族や会社の同僚など、自分以外の人が運転）
6. 公共交通機関（電車やバスなど）
7. その他（在宅勤務・電動車椅子・その他（ ））

問13 通勤にかかる合計時間（片道）は、どれくらいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 30分未満 2. 30分以上1時間未満 3. 1時間以上1時間30分未満
4. 1時間30分以上2時間未満 5. 2時間以上

問 14 あなたの働いている会社（自営、内職を含む）の従業員数（規模）は、何人くらいですか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1. 1～9人 | 2. 10人～49人 | 3. 50人～99人 |
| 4. 100人～299人 | 5. 300人～999人 | 6. 1000人以上 |
| 7. わからない | | |

問 15 あなたは前回の調査（2年前、平成27年7月）の時も現在と同じ会社（自営も含む）に勤めていましたか。**どちらか**に○をつけてください。（派遣社員の方は、派遣元についてお答えください。）

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 同じ会社（自営を含む） | 2. 同じ会社でない |
|----------------|------------|

問 16 あなたが現在の会社（自営を含む）で仕事をし始めたのは何歳のときですか。

歳のとき（枠の中に数字を記入してください。）

問 17 あなたは、自分の障害の内容（症状や配慮してもらいたいことなど）について、会社や職場の人に説明していますか。次の中から、**あてはまるもの1つ**に○をつけてください。

1. 会社や職場の人ほとんどに説明している
（入社時に説明しているためあらためて説明する必要がない場合も含みます。）
2. 会社や職場の人のごく一部の人のみに説明している
3. 全く説明していない（もし差し支えなければその理由を下にお書きください。）
（
4. わからない

問 18 あなたは、現在の仕事について、どの程度満足していますか。a～dの項目について、それぞれ「満足→1」から「不満→5」のうちで**あてはまる番号を1つ**に○をつけてください。

	満足	い え ば 満 足	ど ち ら か と	い え な い	ど ち ら か と	い え ば 不 満	ど ち ら か と	不 満
a. 仕事の内容 →	1	2	3	4	5			
b. 給料や待遇（労働条件等） →	1	2	3	4	5			
c. 職場の人間関係 →	1	2	3	4	5			
d. 職場の環境（施設整備等） →	1	2	3	4	5			

問 19 あなたの会社では何歳まで働けるか決まっていますか。**どちらか**に○をつけてください。

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 1. 決まっている | 2. 決っていない
（わからない、自営の場合を含みます。） |
|-----------|----------------------------------|

「1.決まっている」と回答された方にうかがいます。

あなたの会社では何歳まで働けますか。（定年後の再雇用などで働ける場合は、働けるもっとも高い年齢を記入してください。）

歳まで働ける

問 20 あなたは何歳まで仕事を続けたいと思いますか。（現在の仕事に限らず、働いていたいと思う年齢を回答してください。）

歳まで働きたい

問 21 あなたが仕事をする理由はどのようなことですか。a～g の項目について、それぞれ「あてはまる→1」から「あてはまらない→5」のうちで**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

		あてはまる	あてはまる	どちらかといえば いえない	どちらとも いえない	あてはまらない	あてはまらない
a. 収入を得るため	→	1	2	3	4	5	
b. 社会とのつながりを持つため	→	1	2	3	4	5	
c. 社会の中で役割を果たすため	→	1	2	3	4	5	
d. 自分自身が成長するため	→	1	2	3	4	5	
e. 生きがいや楽しみのため	→	1	2	3	4	5	
f. 生活のリズムを維持するため	→	1	2	3	4	5	
g. 心身の健康のため	→	1	2	3	4	5	

問 22 あなたは今後も現在の仕事を続けたいと思いますか。**あてはまるもの 1 つ**に○をつけてください。

1. 現在の仕事を続けたい
2. 現在の仕事とは別の仕事をしたい
3. もう仕事はしたくない
4. わからない

「2.現在の仕事とは別の仕事をしたい」と回答された方にうかがいます。

「別の仕事」として**あてはまるものすべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 別の会社に転職 | 2. 別の部署で今と異なる仕事 |
| 3. 今の職場でより責任のある仕事 | 4. 今の職場で責任を減らした仕事 |

問 23 あなたは前回の調査（2 年前、平成 27 年 7 月）以降、あなたの仕事に関係して起きた出来事について、**あてはまるものすべて**に○をつけてください。

1. 配置転換（部署の異動）があった
2. 上司が異動した
3. まわりで直接仕事などを援助してくれる人がいなくなった
4. 昇進した
5. 降格した
6. 給料が上がった
7. 給料が下がった
8. 休職をした
9. 出向した
10. 転職をした（前の職場を辞めて、別の会社に就職した）
→（最近 2 年間の転職回数： 回）
11. 該当する項目なし

8 ページ問 29 へ進んでください

Ⅱ B

現在、福祉施設などで雇用契約を結ばない形で働いている方、あるいは、収入のある働き方はしていない方（2 ページの問 5 で 7～9 に回答された方）にうかがいます

問 24 あなたは前回の調査（2 年前、平成 27 年 7 月）以降、仕事についていたことがありますか。

どちらかに○をつけてください。

（ここでは「仕事」とは、雇用契約を結んで働くこと、または自営や内職を指します。）

1. ある 2. ない（2 年前より以前に会社などを辞めた人を含む）

「1. ある」と回答された方にうかがいます。

その仕事をお辞めになった理由は何ですか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- | | | |
|-----------|--------------------------------|----------------|
| 1. 事業主の都合 | 2. 定年退職（年齢 歳） | 3. 定年後の再雇用期間満了 |
| 4. 契約期間満了 | 5. 休職期間満了 | |
| 6. 自分の都合 | 7. その他（ ） | |
| 8. わからない | | |

「6. 自分の都合」と回答された方にうかがいます。

「自分の都合」の具体的な内容は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 1. 仕事内容が合わなかった | 2. 賃金、労働条件に不満があった |
| 3. 職場の雰囲気・人間関係 | 4. 体調不良 |
| 5. 体力的にきつくなった | 6. 結婚 |
| 7. 出産 | 8. 家庭等の事情（介護など） |
| 9. その他（ ） | 10. わからない |

問 25 あなたは今後の仕事についてどのように考えていますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

1. 現在、就職活動をしている 1 と答えた方は、次のページの **C** 問 26 に進んで下さい

2. 今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている

3. 今後、仕事をするかどうか、今は決められない

4. 職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない

4 と答えた方は、次のページの **D** 問 28 に進んで下さい

2 または 3 に答えた方は、差し支えない範囲で現状についてご記入下さい

（専業主婦・主夫、仕事につくための職業訓練や福祉施設を利用したい、治療中など）

8 ページ問 29 へ進んでください

C 問 26 今後の働き方の希望について教えてください。**あてはまるものすべて**に○をつけてください。

1. 会社やその他の機関で、正社員または正職員として働きたい
2. 会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働きたい
3. 会社やその他の機関で、派遣社員として働きたい
4. 自営業主または家族従業者として働きたい
5. 自宅にて内職をしたい
6. 就労継続支援 A 型で雇用契約を結んで働きたい
7. その他 ()

問 27 仕事を探すときに、相談する人や機関はありますか。**あてはまるものすべて**に○をつけてください。あわせてカッコ内にあげている、**あてはまる人すべて**に○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 以前の職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他 ()
12. 相談したり利用したことはない

8 ページ問 29 へ進んでください

D 問 28 職業生活からの引退理由はどのようなことですか。**あてはまるものすべて**に○をつけてください。

1. 気力の面で難しくなったから
2. 体力の面で難しくなったから
3. 体調の面で難しくなったから
4. 後継者が育ったから
5. これまで十分に働き、自分の役割を果たしたから
6. 趣味や旅行など、引退後の生活を楽しむため
7. 家事や家族の世話（子育て、孫の世話、介護）に時間を充てたいため
8. ボランティアや地域の活動、当事者団体の活動に時間を充てたいため
9. もっと働きたかったが、働く先が見つからなかったから
10. もっと働きたかったが、働くための環境や条件が整わなかったから
11. 老齢年金を受給し始めたから
12. 定年の年齢になったから
13. 定年後の再雇用（継続雇用）の期間が終了したから
14. その他 ()

「10」と答えた方

差し支えない範囲で具体的にお書きください

「12. 定年の年齢になったから」と答えた方にうかがいます。定年を迎えた職場では、定年後の再雇用（継続雇用）について、職場から説明はありましたか。**あてはまるもの 1 つ**に○をつけてください。

1. 説明はなかった・再雇用の制度自体がなかった
2. 説明はあったが、再雇用を希望しなかった
3. 再雇用を希望したが、雇用されなかった
4. その他 ()

8 ページ問 29 へ進んでください

Ⅲ あなたの仕事や生活の現状についてうかがいます（すべての方への質問）

問 29 仕事に関して何か困ったことが起きたときに、相談する人や機関はありますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

あわせてカッコ内にあげている、**あてはまる人すべて**に○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他（ ）
12. 相談したり利用したことはない

問 30 障害に関する年金を受給していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 受給している 2. 受給していない 3. わからない

問 31 生活するための収入をどのように得ていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ①収入の多い順に、次のうちから記入してください。
- | | | |
|----------------------------|------------|------------|
| 1. 年金 | 2. 家族などの支援 | 3. 働いて得る収入 |
| 4. その他（ ） | | |
| 5. わからない | | |

問 32 経済的に困ったことが起きたとき、相談する人や機関はありますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

あわせてカッコ内にあげている、**あてはまる人すべてに○をつけてください。**

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他（ ）
12. 相談したり利用したことはない

Ⅳ あなたの仕事に対する考えなどについてうかがいます（すべての方への質問）

問 33 あなたにとって次の項目は、仕事をするうえで、どのくらい重要だと思いますか。a～fの項目について、それぞれ「重要→1」から「重要でない→5」のうちで**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

	重要	重要 どちらかといえば	どちらとも いえない	どちらかといえば 重要でない	重要でない
a. 賃金や給料 →	1	2	3	4	5
b. 自分の能力・経験が発揮できること →	1	2	3	4	5
c. 仕事の内容 →	1	2	3	4	5
d. 職場の環境整備 →	1	2	3	4	5
e. 勤務時間や休日 →	1	2	3	4	5
f. 仕事仲間との人間関係 →	1	2	3	4	5

問 34 あなたが働く上で、会社や会社の人からのどんな配慮が必要であったか、またはあったら良いと考えていますか。**あてはまるものすべて**に○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること
8. その他（ ）
9. 特にない

問 35 **現在、仕事についている方にうかがいます。**現在のあなたの職場で、実際に「理解や配慮がある」項目はどれですか。**あてはまるものすべて**に○をつけてください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること
8. その他（ ）
9. 特にない

問 36 あなたが仕事をする上で、会社や会社の人に特に望むことはどんなことですか。**あてはまるものすべて**に○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

1. 自分の障害のことを理解してほしい
2. 職場に障害者の仲間を多くしてほしい、会社が更に積極的に障害者雇用を進めて欲しい
3. ずっと働き続けることができるようにしてほしい
4. 給与面を改善してほしい
5. 体力や障害に合わせた労働時間や休日の設定をしてほしい
6. 能力に応じた評価や昇進・昇格をしてほしい
7. 研修や教育訓練を充実してほしい
8. 社内の健康管理体制を充実してほしい
9. 職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい
10. その他 ()
11. 特にない

問 37 新たに、平成 28 年 4 月から事業主は障害のある方への差別禁止指針と合理的配慮の指針にそった対応が求められるようになりました。この指針について、あなたは聞いたり、読んだりしたことがありますか。**あてはまるもの 1 つ**に○をつけてください。

1. 指針の内容を把握している
2. 指針の名称は聞いたことがあるが内容は把握していない
3. 指針について知らない

問 38 **現在、仕事についている方にうかがいます。**平成 28 年 4 月以降に、あなたの職場において、あなたにとって支障となっていることの確認や話し合いの機会がありましたか。**あてはまるもの 1 つ**に○をつけてください。

1. 今までと同じように確認や話し合いの機会があった
2. 新たに確認や話し合いの機会があった
3. 確認や話し合いの機会はまだない
4. よくわからない

V あなたの生活に対する考えなどについてうかがいます（すべての方への質問）

問 39 普段の生活で、一番の楽しみにしていることは何ですか。枠の中に自由に記入してください。

--

問 40 近い将来（5 年くらい後まで）に実現したいことは何ですか。枠の中に自由に記入してください。

--

問 41 次にあげる仕事以外の生活のことについてどの程度満足していますか。a～d の項目について、それぞれ「満足→1」から「不満→5」のうちで**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

		満足	い え ば 満足	ど ち ら か と	い え ない	ど ち ら と も	い え ば 不満	ど ち ら か と	不満
a. 家族との人間関係について	→	1	2	3	4	5			
b. 友人・知人との人間関係について	→	1	2	3	4	5			
c. 自分の体力や健康について	→	1	2	3	4	5			
d. 収入や経済生活について	→	1	2	3	4	5			

問 42 この調査についてのご意見やご要望がありましたら、枠の中に自由に記入してください。

問 43 回答を記入するにあたって他の人に手伝ってもらいましたか。

あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

1. 自分で回答を記入した
2. 他の人に手伝ってもらった(手伝われた方について、枠の中にあなたとの関係を記入してください)

※父親、母親、友達、会社の上司など
具体的に記入してください

問 44 この調査票を記入したのはいつですか。枠の中に日付を記入してください。

平成 29 年

月

日

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

アンケートにご協力いただいた方に、謝品をお送りしています。ご希望の番号 1 つに○をつけてください。
※謝品の発送には 2～3 ヶ月かかる場合があります。ご了承ください。

1. クオカード (1,000 円分)
2. 図書カード (1,000 円分)
3. 謝品の受け取りは辞退します

〔「クオカード」は、全国の主要なコンビニ
エンスストアなどで使えるカードです。〕

サイクル便り No.13 (2016 年度)



いつも調査にご協力をいただき、ありがとうございます。
「サイクル便り」は調査にご協力いただいている皆さまに、年に一回お送りしております。調査結果の抜粋のほか、障害のある方が働くことに関係のあるトピックをお伝えします。

平成 20 年度～

第 1 期
前期・後期

第 2 期
前期・後期

第 3 期
前期・後期

第 4 期
前期・後期

第 5 期
前期・後期

第 6 期
前期・後期

第 7 期
前期・後期

第 8 期
前期・後期

～平成 35 年度
(予定)

「職業サイクル」調査は 16 年間の長期調査として平成 20 年度にスタートしました。このような長期の計画とした目的は、お一人おひとりの職業人生における様々な「変化」を捉え、職業生活の全体像を把握することにより、今後どのような支援が必要なのか検討するためです。

同じような調査は国内では他になく、多方面からの注目をいただいています。調査が続けられるのはご協力くださる皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

16 年間はあまりにも長いので、途中の段階でもわかってきたことは積極的に発信していきたいと思います。

これからもどうぞご協力をお願いします

平成 28 年 夏 調査を行っています →

平成 29 年 夏 調査を行う予定です →

職業生活前期調査
昭和 43 年度～平成 4 年度生まれの方

職業生活後期調査
昭和 27 年度～42 年度生まれの方

この 4 月に『障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 4 期）』調査研究報告書が完成しました。これまでの 8 年間の調査結果を元に、職場に配慮を希望することにはどのような傾向があるか？などを分析し、まとめました（この冊子の 3～4 ページで紹介します）。下記の手順でインターネットから全文をダウンロードできます（無料、PDF 形式）。

1 障害者職業総合センター研究部門ホームページ (<http://www.nivv.jeed.go.jp>) にアクセス

2 「調査研究報告書」をクリック

3 調査研究報告書 No132 「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 4 期）」をクリック

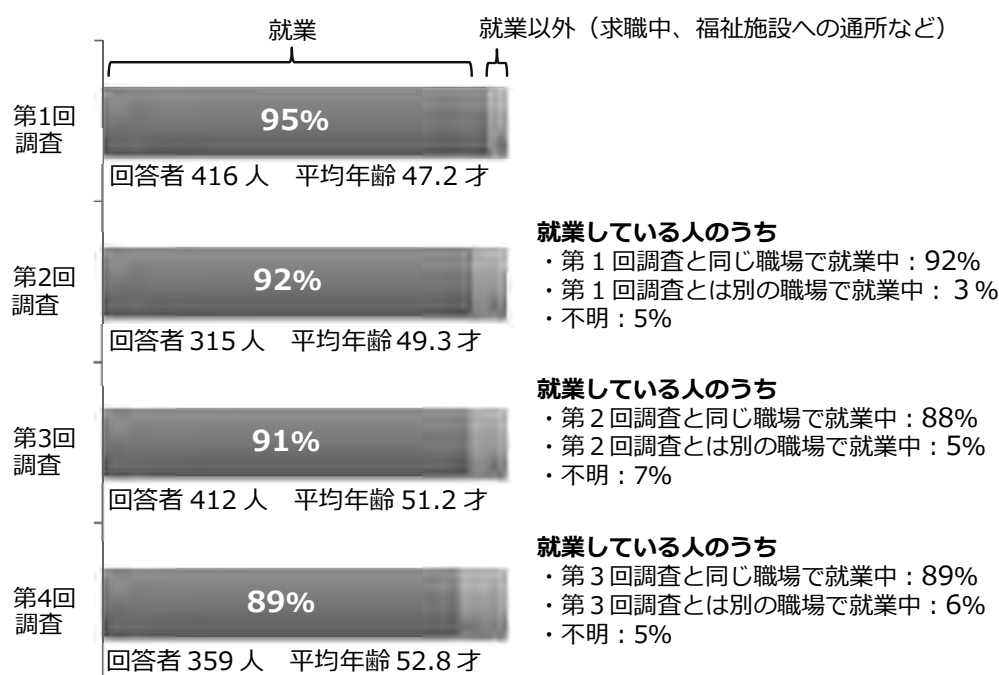
印刷した冊子の形でご希望の方は、事務局までご連絡ください。
視覚障害のある方で報告書のテキストファイル（文章のみ）を希望される場合は、事務局までご連絡ください。

便り 13-1

「職業生活後期調査」に協力いただいた方の就業状況

前回（平成27年夏）の「サイクル便り」では、「職業生活前期調査」対象の方の8年間の就業状況について報告しました。今回は「職業生活後期調査」対象の方の就業状況について報告します。

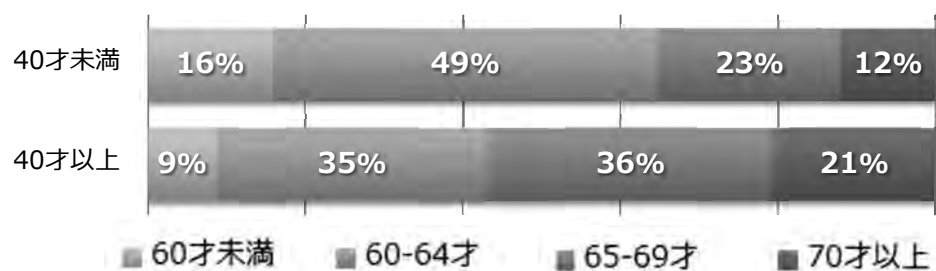
これまで4回の調査を通しておよそ9割の方は就業中です。就業中の方のうち、各期調査の間の2年間で職場を変わった方はそれぞれ3～6%でした。



何歳まで仕事を続けたいですか？ ～第4期の前期及び後期の調査結果から～

「働いていたい年齢」の集計結果を見ると、40才以上の方は40才未満の方よりも、高い年齢まで働きたい気持ちをお持ちの方が多いようです。3年前に法律が改正されて、企業には働く人の希望があれば65歳まで働き続けられるようにする義務があります。働きたい気持ちを持つ方がいきいきと働き続けることができるよう、環境整備やサポートの充実が求められます。

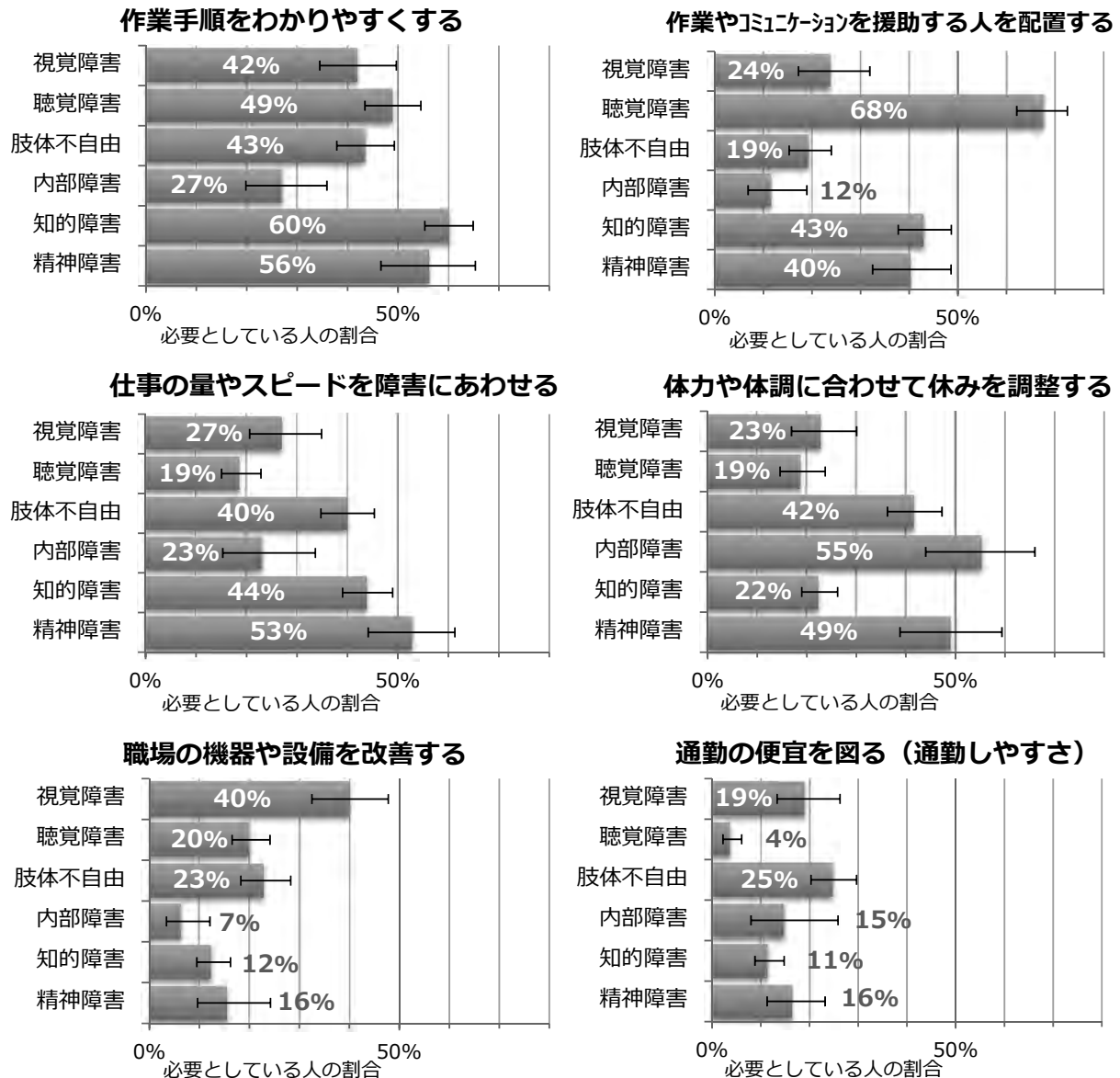
具体的にはどのような環境整備やサポートが望まれているのでしょうか？次ページで皆様の声を分析した結果を抜粋してご紹介します。



職場に配慮を望むことはどのようなことですか？ ～8年間の調査結果から～

障害のある方が、仕事をする上で職場に望む配慮について、「職業サイクル」第1期から第4期の8年間の調査結果をまとめて分析しました。

回答された方の障害の種類によって職場に配慮を望む人の割合（グラフの横棒の長さ）に大きな違いがありました。



今回の分析方法について

今回の分析では、「一般化推定方程式」という手法を用いました。それは以下の特徴があります。

- 障害の種類、年齢、性別や、その他の様々な環境条件の違いを調整してまとめることができます。例えば、回答された方の障害の種類によって年齢層に偏りがあったとしても、年齢層の違いの影響を調整して比較することができます。
- 本調査のように同じ内容に繰り返しご回答いただいたことの影響を考慮して分析できます。この特徴により、第1期から第4期まで全てにご回答いただいた方のデータだけでなく、途中で1～2回お休みされた方のデータも含めて分析できます。

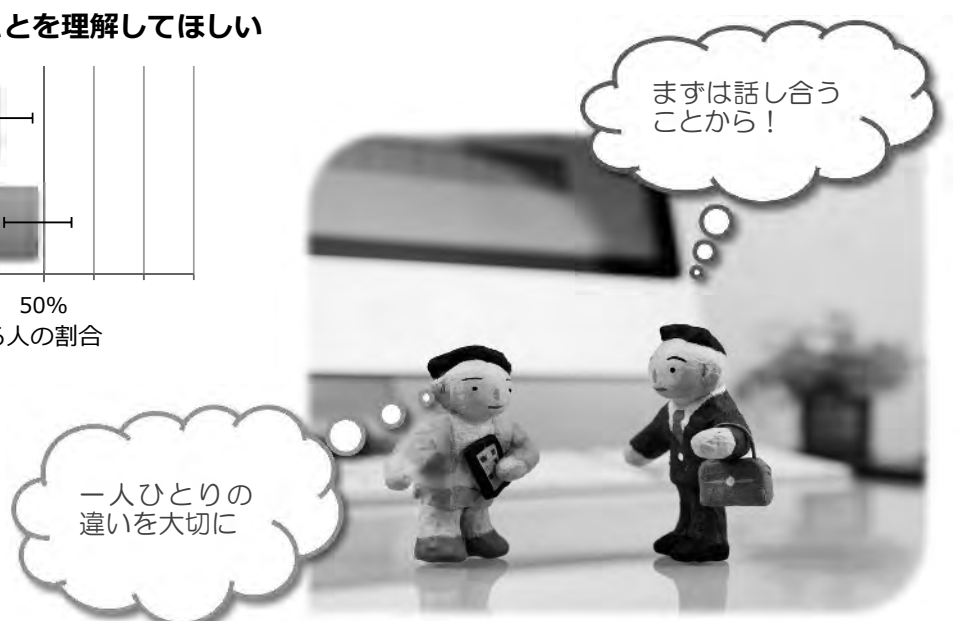
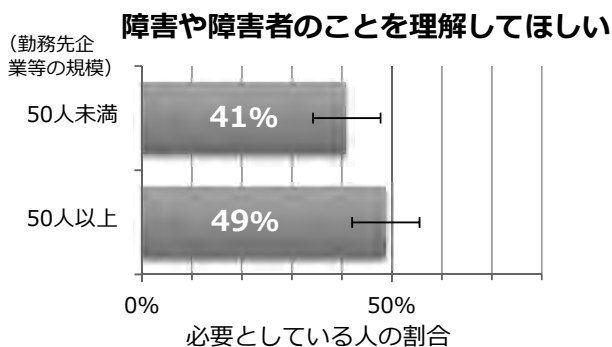
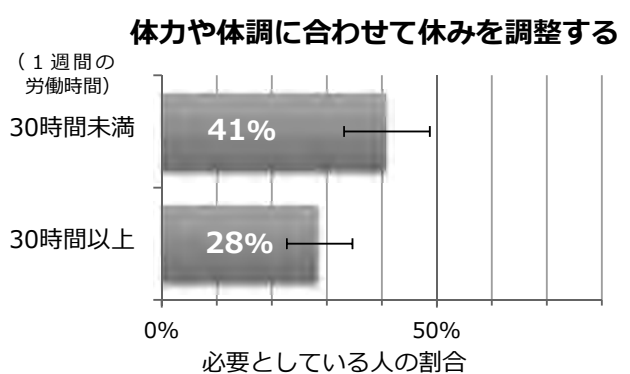
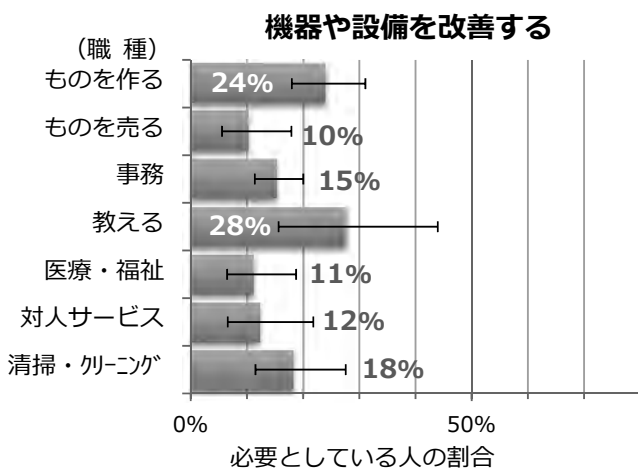
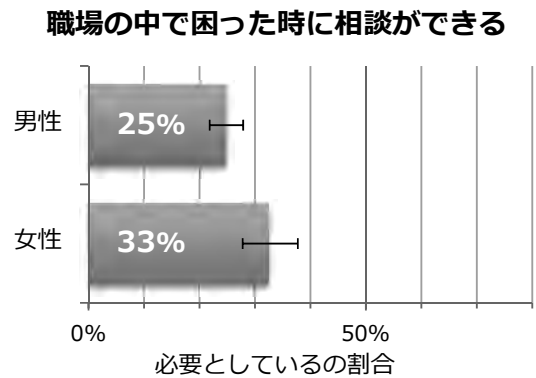
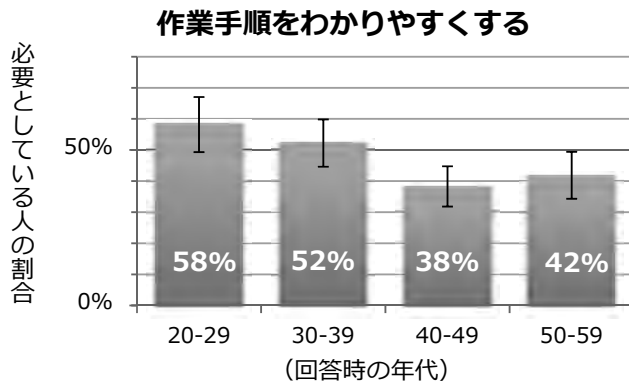
グラフの見方

データの特徴に合わせて様々に調整した上で、それぞれの項目で配慮を必要としている人の割合を計算しています。

計算した結果は、横棒のグラフについて、 の幅を持って推定しています。回答のばらつき方の違いなどにより、この幅が広くなったり狭くなったりします。

一方で、職場に配慮を望む内容は、障害の種類だけによって決まるのではなく、年齢、性別、職種、働き方、働いている会社の規模など、様々な要因が関係しあっていることも同時にわかりました。つまり必要な配慮の内容は、人それぞれの違いがあると言えます。

この4月から企業で取り組まなければならないこととして追加された「合理的配慮」の考え方では、働く人と職場が十分話し合うことの重要性が強調されています。今回の分析結果からも、働く人と職場の間で配慮することをていねいに、そしてしっかりと確認して対応することの大切さが浮かび上がりました。



いかがでしたか。「サイクル便り」では、ページ数に限りがあり、すべてをお伝えすることができません。詳しい内容をお知りになりたい場合は、1ページでご案内した調査研究報告書をご覧ください。ご不明な点がある場合は何なりと事務局までお問い合わせいただければ幸いです。



調査が始まって8年がたち、データが蓄積されることで様々な分析が可能になってきています。長く調査にご協力いただいている皆さまのおかげです。

皆さまからお預かりした貴重なデータを更に活かせるよう、分析結果について、学識経験者（大学の先生など）や当事者団体の方々と研究会を開催して意見交換や指導をいただいているところです。この内容についても今後は皆さまとも「サイクル便り」にて共有したいと考えております。また、サイクル便りの内容へのご要望などございましたら何なりと事務局までご連絡ください。

最後になりましたが、皆さまがこれからもお元気で、自分らしく働き、暮らしていけることを事務局一同、心より願っています。

アンケートをお送りする方法のご確認のお願い

皆さまにお送りするアンケートは、それぞれの方の障害の状況やご希望にもとづいた形でお送りしています。変更をご希望の場合は、お手数ですが事務局までお知らせ下さい。

1 A4 サイズ・振り仮名なし

2 A4 サイズ・振り仮名あり

知的障害のある方を中心にお送りしています。

※表現についても、わかりやすくすることにつとめてまいりますが、お気付きの点がございましたら何なりと事務局までご連絡ください。

3 拡大版（A3 サイズ・振り仮名なし）

視覚障害のある方で、大きな文字の方が読みやすい方にお送りしています。

4 拡大版（A3 サイズ・振り仮名あり）

知的障害と視覚障害のある方で、大きな文字の方が読みやすい方にお送りしています。

※表現についても、わかりやすくすることにつとめてまいりますが、お気付きの点がございましたら何なりと事務局までご連絡ください。

5 点字

視覚障害のある方で、点字を使われる方にお送りしています。

6 テキストファイル形式（CD-RW またはフロッピーディスク）

視覚障害のある方で、音声読み上げソフトを利用される方にお送りしています。

7 ワード形式（CD-RW またはフロッピーディスク）

主に上肢に障害のある方で、手書きよりもパソコンのキーボードで入力する方が回答しやすい方にお送りしています。また、視覚障害のある方で、パソコン画面上で拡大してご覧になる方にもお送りしています。

※6 と 7 について、USB フラッシュメモリでのアンケート送付やウェブ上で回答する形のご要望をいただきました。事務局内で検討いたしましたが、費用や技術的な問題から難しく、当面は CD-RW またはフロッピーディスクのいずれかの形でお送りさせていただきます。ご希望に添えず、たいへん申し訳ありません。

平成28年熊本地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます

一日も早い復興と皆様のご健勝をお祈りいたします。被災により、職業生活にご不便・ご不安を感じる方もいらっしゃると思います。各都道府県に設置されている地域障害者職業センターでは、職業生活に関するご相談に対応しています。なお、熊本障害者職業センターは「特別相談窓口」を設置して、被災により障害者の雇用管理に課題を抱えている事業主からの相談及び求職中または在職中の障害のある方からの就職、職場定着に係る相談等を行っています。連絡先は以下の通りです。

【熊本障害者職業センター】

〒862-0971 熊本市中央区大江 6-1-38 4階

電話: 096-371-8333 FAX: 096-371-8806 E-mail: kumamoto-ctr@jeed.or.jp

※受付時間 平日 8:45～17:00 (土、日、祝日は除く)

平成28年4月より改正障害者雇用促進法が施行されました

- ✓ **募集・採用、賃金、配置、昇進などの雇用に関するあらゆる局面で、障害者であることを理由とする差別が禁止されます。**

〈差別の例〉

- 単に「障害者だから」という理由で求人への応募を認めない。
- 採用後、労働能力などを適正に評価することなく、単に「障害者だから」という理由で、他の人と異なる取り扱いをする。たとえば、低い賃金を設定する、昇給させない、研修や現場実習を受けさせない、など

- ✓ **事業主に、障害者が職場で働くにあたっての合理的配慮の提供を義務付けています。ただし、事業主にとって過重な負担となる場合は除きます。**

〈合理的配慮の例〉

- 拡大文字、音声ソフト等の活用により業務が遂行できるようにする。
- 業務指示・連絡に際して、筆談やメール等を活用する。
- 机の高さを調節することなど、作業を可能にする工夫を行う。
- 図などを活用した業務マニュアルを作成する。指示を明確にして作業手順をわかりやすくする。
- 出退勤時刻・休憩・休暇に関し、通院・体調に配慮する。

一人ひとり障害の状態や職務内容、職場環境によって必要な配慮は異なります。

どのような配慮が必要なのか、可能なのか、障害のある方と事業主がよく話し合うことが大切です。

- ✓ **事業主は、相談窓口の設置など障害者からの相談に適切に対応するために必要な体制の整備が求められます。**

※改正内容のうち、差別の禁止と合理的配慮に関する内容を抜粋してご紹介しました。

※厚生労働省ホームページの「障害者雇用促進法の改正の概要」、「周知用リーフレット」「合理的配慮指針事例集」を参考に記載しました。

■ 職業生活前期調査へのご協力の同意をいただいた方へ

この夏、調査票のご回答はいただけましたか？

今年は、職業生活前期調査（昭和43～平成4年度生まれの方が対象）を実施しています。

調査票のご返送をくださいました皆さま、ありがとうございます。

返送の目安として「8月末まで」としてありますが今からでも構いません、**ご回答をためられて、お手元にある皆様、どうぞご協力をお願いします。**現在お仕事をされている方だけでなく、お休みされている方や求職中の方、お仕事以外の活動を主にされている方もご回答いただけるとたいへんありがたいです。

ご協力いただいた方には、心ばかりのお礼の品として、クオカード（1,000円分、全国のコンビニエンスストアなどで使えます）または図書カード（1,000円分）をお送りしています。間違いなくお届けするため、お礼の品は簡易書留でお送りしております。受け取りにお手数をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

■ ご連絡先が変わった場合は、お知らせください。

調査票や、お礼の品は郵送でお送りしています。間違いなくお届けするため、住所が変わった場合やご結婚などでお名前が変わった場合は、下記の連絡窓口あてにお知らせくださいますようお願いいたします。

郵便物が届かなかった場合の確認のため、電話番号やFAX番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡をいただけると幸いです。



＜お問い合わせ・ご連絡先＞

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）
「職業サイクル」調査研究事務局 担当：高瀬

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 3-1-3

電話：043-297-9025（月～金曜日 9：15～17：30）

FAX：043-297-9057 e-mail：cyclesav@jeed.or.jp

サイクル便り No.14 (2017 年度)



いつも調査にご協力をいただき、ありがとうございます。
「サイクル便り」は調査にご協力いただいている皆様に、
年に一回お送りしております。調査結果の抜粋のほか、障害の
ある方が働くことに関係のあるトピックをお伝えします。

平成 20 年度～

第 1 期
前期・後期

第 2 期
前期・後期

第 3 期
前期・後期

第 4 期
前期・後期

第 5 期
前期・後期

第 6 期
前期・後期

第 7 期
前期・後期

第 8 期
前期・後期

～平成 35 年度
(予定)

「職業サイクル」調査は 16 年間の長期調査として平成 20 年度にスタートしました。
このような長期の計画とした目的は、お一人おひとりの職業人生における様々な「変化」を捉え、職業生活の全体像を把握することにより、今後どのような支援が必要なのか検討するためです。

同じような調査は国内では他になく、多方面から注目をいただいています。

今年から第 6 期の調査が始まります。調査が続けられるのはご協力くださる皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

16 年間という長期間の調査ですので、途中の段階でもわかってきたことは積極的に発信していきたいと思います。

これからもどうぞ協力をお願いします。

平成 29 年 夏 調査を行いました →

職業生活後期調査

昭和 27 年度～42 年度生まれの方

平成 30 年 夏 調査を行う予定です →

職業生活前期調査

昭和 43 年度～平成 4 年度生まれの方

「職業サイクル」調査の結果は『障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究』調査研究報告書にまとめられます。

これまでの報告書は、下記の手順でインターネットから全文ダウンロードできます。

(無料、PDF 形式)

ここでは第 4 期調査の報告書をダウンロードする手順をご紹介します。

1 障害者職業総合センター研究部門ホームページ
(<http://www.nivr.jeed.go.jp>) にアクセス

2 「調査研究報告書」をクリック

3 調査研究報告書 No.132
「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究 (第 4 期)」をクリック

印刷した冊子の形でご希望の方は、事務局までご連絡ください。

視覚障害のある方で報告書のテキストファイル (文章のみ) を希望される場合は、事務局までご連絡ください。

平成 28 年 4 月より改正障害者雇用促進法が施行されました

平成 28 年 4 月より改正障害者雇用促進法が施行されました。

これにより、事業主は障害のある方への差別禁止指針と合理的配慮指針にそった対応が求められるようになりました。

■ 募集・採用、賃金、配置、昇進などの雇用に関するあらゆる局面で、障害者であることを理由とする差別が禁止されます。

〈差別の例〉

- 「障害者だから」という理由で求人への応募を認めない。
- 採用後、労働能力などを適正に評価することなく、「障害者だから」という理由で、他の人と異なる取り扱いをする。

■ 事業主に、障害者が職場で働くにあたっての合理的配慮の提供を義務付けています。ただし、事業主にとって過重な負担となる場合は除きます。

〈合理的配慮の例〉

- 視覚障害がある場合、拡大文字、音声ソフト等の活用により業務ができるようにする。
- 聴覚・言語障害がある場合、業務指示・連絡に際して、筆談やメール等を活用する。
- 肢体不自由がある場合、机の高さを調節することなど、作業を可能にする工夫を行う。
- 知的障害がある場合、図などを活用した業務マニュアルを作成する。
指示を明確にして作業手順をわかりやすくする。
- 精神障害や内部障害などがある場合、出退勤時刻・休憩・休暇に関し、通院・体調に配慮する。

■ 事業主は、相談窓口の設置など障害者からの相談に適切に対応するために必要な体制の整備が求められます。

※改正内容のうち、差別の禁止と合理的配慮に関する内容を抜粋してご紹介しました。

※厚生労働省ホームページの「障害者雇用促進法の改正の概要」「周知用リーフレット」「合理的配慮指針事例集」を参考に記載しました。

一人ひとり障害の状態や職務内容、職場環境によって必要な配慮は異なります。

どのような配慮が必要なのか、可能なのか、障害のある方と事業主がよく話合うことが大切です。

わたしたちも、障害のある方がキャリアを形成していく上で、この取組はとても大切であると考えています。よって、「差別禁止指針」と「合理的配慮指針」についてご存じか、そして話合いの機会があったかという新たな調査項目を追加して、この「職業サイクル」第 5 期調査を行いました。

今回の「サイクル便り」では、一部ではありますが、「第 5 期職業生活前期調査」の集計結果から、この取組についてご協力いただいている皆様の現状はどうだったか、次のページから説明いたします。



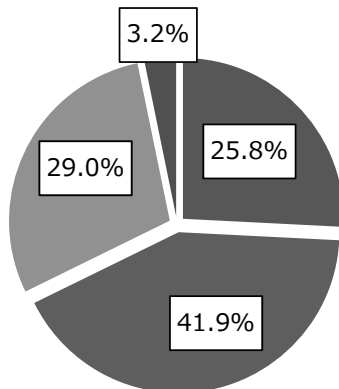
「第5期職業生活前期調査」に協力いただいた方の指針の把握状況

前のページでご紹介した障害のある方への差別禁止指針と合理的配慮指針について、聞いたことがある方、内容を把握している方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。

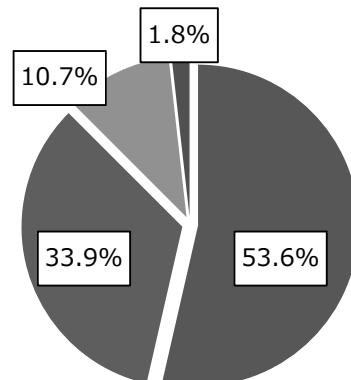
「第5期職業生活前期調査」でお聞きした結果を集計しました。まずは障害別のグラフです。

■ 内容を把握している ■ 名称は聞いたことがあり、内容は把握していない
 ■ 知らない ■ 無回答

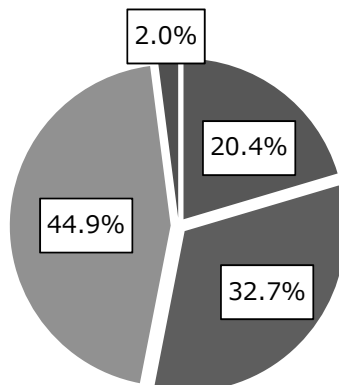
視覚障害（回答者 31人）



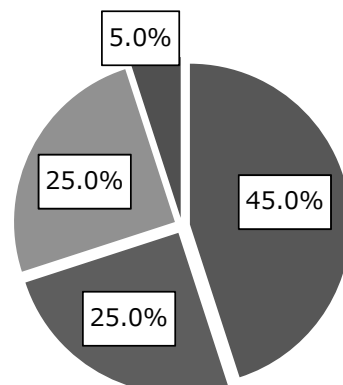
聴覚障害（回答者 56人）



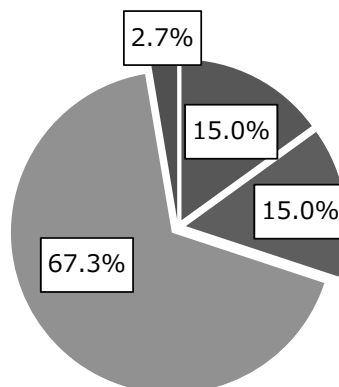
肢体不自由（回答者 49人）



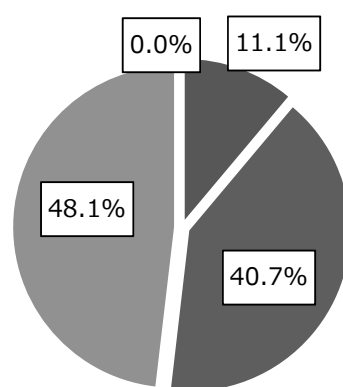
内部障害（回答者 20人）



知的障害（回答者 113人）



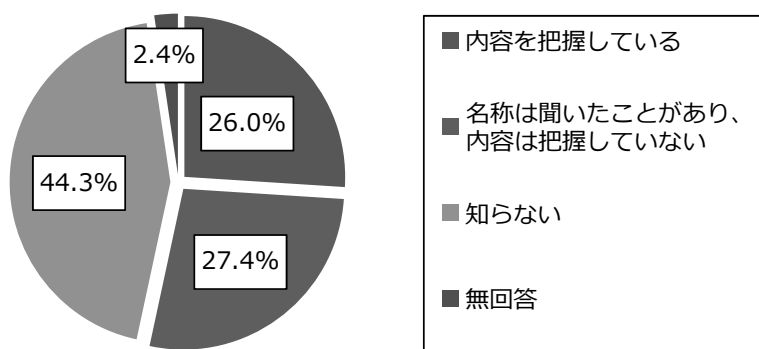
精神障害（回答者 27人）



※いずれもアンケート回答時に就労している方を対象としています

次に、全体のグラフです。

総計（回答者 296人）



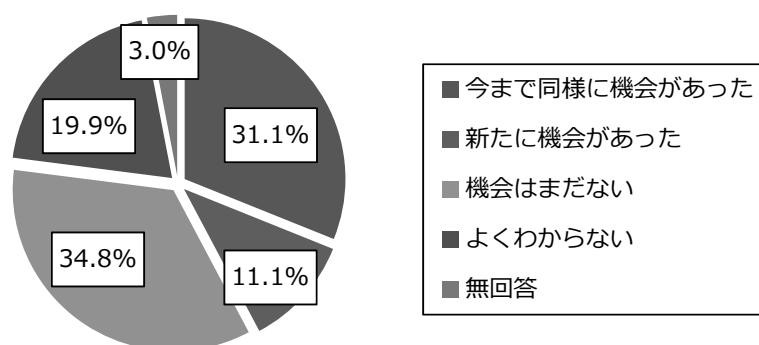
※アンケート回答時に就労している方を対象としています

回答の「内容を把握している」「名称は聞いたことがあり、内容は把握していない」を合わせると、約半数の方が差別禁止指針と合理的配慮指針に触れる機会があったということがわかります。その一方で、40%以上の方が「知らない」と答えています。

職場での合理的配慮に関する話合いの機会の有無

「第5期職業生活前期調査」では、改正法が施行された平成28年4月以降職場において、「あなたにとって支障となっていることの確認や話合いの機会」があったかどうかを新たに質問しました。

総計（回答者296人）



※アンケート回答時に就労している方を対象としています

「今まで同様に機会があった」方と「新たに機会があった」方を合わせると、40%以上の方に話合いの機会がありました。その一方で、約35%の方は調査の時点でまだ話合いの機会がないとの回答でした。話合いの機会を持つことは、一人ひとりにとっての合理的配慮がどのようなものかをご本人と事業主の間で確認するうえで重要です。話合いの機会の有無が仕事に関する満足度にも影響を与えるのか、今後の調査の中で注目していきたいと思います。

いかがでしたか。「サイクル便り」では、ページ数に限りがあり、調査結果のすべてをお伝えすることができません。詳しい内容をお知りになりたい場合は、1ページでご案内した調査研究報告書をご覧ください。（第5期調査の報告書は平成31年以降に刊行予定です。）
ご不明な点がある場合は何なりと事務局までお問い合わせいただければ幸いです。

調査が始まってから10年がたちます。データが蓄積され、様々な分析が可能になってきています。長く調査にご協力いただいている皆様のおかげです。
この調査では、お一人おひとりの職業生活について長期にわたりご回答をいただくことが重要です。退職してお仕事をされていない時や、職業生活から引退された後も、引き続きアンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。
最後になりましたが、皆様がこれからもお元気で、自分らしく働き、暮らしていけることを事務局一同、心より願っています。



アンケートをお送りする方法のご確認のお願い

皆様にお送りするアンケートは、それぞれの方の障害の状況やご希望にもとづいた形でお送りしています。変更をご希望の場合は、お手数ですが事務局までお知らせ下さい。

1 A4サイズ・振り仮名なし

2 A4サイズ・振り仮名あり

知的障害のある方を中心にお送りしています。

※表現についても、わかりやすくすることにつとめてまいりますが、お気付きの点がございましたら何なりと事務局までご連絡ください。

3 拡大版（A3サイズ・振り仮名なし）

視覚障害のある方で、大きな文字の方が読みやすい方にお送りしています。

4 拡大版（A3サイズ・振り仮名あり）

知的障害と視覚障害のある方で、大きな文字の方が読みやすい方にお送りしています。

※表現についても、わかりやすくすることにつとめてまいりますが、お気付きの点がございましたら何なりと事務局までご連絡ください。

5 点字

視覚障害のある方で、点字を使われる方にお送りしています。

6 テキストファイル形式（CD-RW またはフロッピーディスク）

視覚障害のある方で、音声読み上げソフトを利用される方にお送りしています。

7 ワード形式（CD-RW またはフロッピーディスク）

主に上肢に障害のある方で、手書きよりもパソコンのキーボードで入力する方が回答しやすい方にお送りしています。

また、視覚障害のある方で、パソコン画面上で拡大してご覧になる方にもお送りしています。

平成 28 年熊本地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます

一日も早い復興と皆様のご健勝をお祈りいたします。被災により、職業生活にご不便・ご不安を感じる方もいらっしゃると思います。

熊本障害者職業センターは「特別相談窓口」を設置して、被災により障害者の雇用管理に課題を抱えている事業主からの相談、及び求職中または在職中の障害のある方からの就職、職場定着に係る相談等を行っています。

【熊本障害者職業センター】

〒862-0971 熊本市中央区大江 6-1-38 4階

電話：096-371-8333 FAX：096-371-8806 E-mail: kumamoto-ctr@jeed.or.jp

※受付時間 平日 8：45～17：00（土、日、祝日は除く）

東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます

一日も早い復興と皆様のご健勝をお祈りいたします。

以下の7県にある地域障害者職業センターでは、「特別相談窓口」を設置し、被災により障害者の雇用管理に課題を抱えている事業主からの相談、及び求職中または在職中の障害のある方からの就職、職場定着に係る相談等を行っています。

●お問い合わせ先一覧（※受付時間はいずれも土、日、祝日、年末年始を除きます）

【青森障害者職業センター】 受付時間 平日 8：45～17：00

〒030-0845 青森市緑 2-17-2

電話：017-774-7123 FAX：017-776-2610 E-mail：aomori-ctr@jeed.or.jp

【岩手障害者職業センター】 受付時間 平日 8：45～17：00

〒020-0133 盛岡市青山 4-12-30

電話：019-646-4117 FAX：019-646-6860 E-mail：iwate-ctr@jeed.or.jp

【宮城障害者職業センター】 受付時間 平日 8：45～17：00

〒983-0836 仙台市宮城野区幸町 4-6-1

電話：022-257-5601 FAX：022-257-5675 E-mail：miyagi-ctr@jeed.or.jp

【福島障害者職業センター】 受付時間 平日 9：00～17：15

〒960-8054 福島市三河北町 7-14 福島職業能力開発促進センター内

電話：024-526-1005 FAX：024-535-1000 E-mail：fukushima-ctr@jeed.or.jp

【茨城障害者職業センター】 受付時間 平日 8：45～17：00

〒309-1703 笠間市鯉淵 6528-66

電話：0296-77-7373 FAX：0296-77-4752 E-mail：ibaraki-ctr@jeed.or.jp

【栃木障害者職業センター】 受付時間 平日 8：45～17：00

〒320-0865 宇都宮市睦町 3-8

電話：028-637-3216 FAX：028-637-3190 E-mail：tochigi-ctr@jeed.or.jp

【千葉障害者職業センター】 受付時間 平日 8：45～17：00

〒261-0001 千葉市美浜区幸町 1-1-3

電話：043-204-2080 FAX：043-204-2083 E-mail：chiba-ctr@jeed.or.jp

サイクル便りインタビュー

私たちは、今回の「サイクル便り」の原稿を持って、東京都新宿区西早稲田にある「社会福祉法人 日本盲人会連合」を訪れました。そこで調査研究にご協力いただいた総合相談室長の工藤氏にお話をうかがいました。



日本盲人会連合の出版物

研究員：約千人の障害のある方に協力を得て、この16年間の調査も8年が過ぎて折り返しとなりました。調査の回収率は少しずつ減ってはいますが、毎回、多くの方から貴重な回答を得ています。

工藤室長：私は、主に視覚障害のある方の支援をしています。見え方の違いや見えないことの影響は一人ひとり違いがあります。サイクル調査では、仕事を続けている方のキャリアや職業生活の変化を丁寧に確認されていると思います。しかし、年をかさねるということは、様々な生活の環境が変わっていくことです。その点では、回答されなくなった方の人生についても気がかりではあります。

研究員：私たちも同感です。毎回、回答いただいている方、回答いただけなくなった方を含めて、残りの期間ではより多くの方に回答をいただける工夫をしなければならぬと思います。あわせて、私たちをとりまく世の中の変化の影響についてもきちんと確認したいと思っています。今回は、新たに差別禁止法や合理的配慮について確認しました。この法律が施行されて間もない時期の調査ではありましたが、全体で約45%の方がこれらの法律の改正について知らないと回答いただきました。

工藤室長：これらの法律が浸透していくのには時間がかかると思っています。私のところにも多くの相談がありますが、会社配慮をもとめるには、まず会社に対して声をあげる必要がありますが、勇気をだして話せない人も多くいらっしゃいます。くわえて自分の悩みについて、どこで相談にのってくれるかわからない人も多いと思っています。また、自分の主張を会社

が受け入れないのはおかしいと感情的になる人もいるかもしれません。会社とじっくり話しあうことがとても大切です。これらの法律とは違いますが、無期雇用への移行に関しても十分に浸透しているとは思えません。まずは、働く障害のある方と企業に対して丁寧に周知をしていくことが大事であると思います。

研究員：サイクル調査に期待されていることは何でしょうか。

工藤室長：2年に1回の調査ですので、その間に気持ちの変化がある人もいらっしゃると思います。誰かに伝えたいという声も自由記述などで確認することも大事ではないかと思います。後輩へのメッセージ、自分の今までの苦労や経験からのノウハウなどを集約できれば、キャリアの研究としてもさらに拡がりができるでしょう。調査もアンケートだけではなく、協力してくれる方がいれば、直接会ってヒアリングすることを検討してもよいのではないのでしょうか。

研究員：貴重なご意見ありがとうございました。これからもサイクル調査は続きますので、しっかり検討していきたいと思っています。

工藤室長がいらっしゃる日本盲人会連合では、視覚障害のある方への様々な相談を行っています。

日本盲人会連合総合相談室
電話(代表):03-3200-0011
Eメール: soudan@jfb.jp

続いて私たちは、東京都豊島区東池袋にある「公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会（愛称：みんなねっと）」を訪れました。

そこで調査研究にご協力いただいた事務局長の小幡氏にお話をうかがいました。

小幡事務局長：私たちの法人は精神障害のある方との関わりが中心ですので、この調査は精神障害のある方の動向としてみています。最近は職場定着の課題がクローズアップされていますから、仕事を続けている方の経過を把握した貴重な調査だと思います。一方で、障害の内容や仕事への影響には一人ひとり違いがあります。そしてみなさん様々な働き方をしています。フルタイムの人もいれば短時間の勤務をしている人もいますし、一週間のうち 2~3 日だけ働く人もいます。職場をどんどん変わっていく人もいれば、一か所に働き続ける人もいます。職業生活についてより深く知るためには、多くの方から継続して回答をいただき、時間の流れの中で何が起きているのかを把握することが重要だと思います。

研究員：今回は、新たに差別禁止法や合理的配慮について確認しました。

小幡事務局長：精神障害のある方の状況について言えば、差別禁止や合理的配慮といった法改正は大きな前進ですが、これからも続いていく問題を考える必要があると思います。そもそものようなことについて不安や悩みがあるか、どのような配慮が不足しているか、そしてこの背景にどんな問題があるかに目を向けることが重要だと思います。障害のことを会社に伝えずに働いている人もいますし、他者とコミュニケーションを取ることがそもそも苦手な人もいます。自分にとってどのような配慮が必要かを自分ではうまく表現できない人もいます。そうした声をあげにくい人たちの話合いの機会を誰が作っているのか、これからどう作るのかを考える必要があります。そのためには本人と会社をつなぐ役割が必要だと思います。ひとつとしてはジョブコーチなど外部からの支援も有効ではないでしょうか。

研究員：サイクル調査に期待されていることは何でしょうか。

小幡事務局長：同じ方から長期間継続して回答をいただく調査ですから、同じ職場で働き続けている方の、生き生きと働いている要因と声がわかるとよいでしょう。そのことを研究として広く伝えてもらえれば、これから仕事をしようと考えている人の後押しになると思います。また、回答者の皆さんが働く上でどんなことで困っているのかを具体的に聞くことも大切ではないでしょうか。アンケートで詳しく聞くのが難しければ、ヒアリングをしてもよいと思います。精神障害のある方に限らず、いろいろな障害をお持ちの方に共通の困りごとがあるかもしれません。その解決策は、障害種別という枠組みにはとらわれないことかもしれません。

研究員：貴重なご意見ありがとうございました。

小幡事務局長がいらっしゃる全国精神保健福祉会連合会は、精神障害のある方の家族会の交流や情報誌「月刊みんなねっと」の発行、イベントや研修会の開催など、様々な活動を行っています。

全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）

電話：03-6907-9211

FAX：03-3987-5466



引き続き、この研究に協力いただいている障害者団体や有識者へのインタビューを「サイクル便りインタビュー」としてとりあげます。
よろしくお願いいたします。

■ 職業生活後期調査へのご協力の同意をいただいた方へ 去年の夏、アンケートのご回答はいただけましたか？

平成 29 年度は、**職業生活後期調査**（昭和 27 年度～42 年度生まれの方が対象）を実施しています。
アンケートのご返送をくださいました皆様、ありがとうございます。

返送の目安として「平成 29 年 8 月末まで」としておりますが、今からでも構いません。

ご回答をためられて、まだアンケートがお手元にある皆様、どうぞご協力をお願いします。

現在お仕事をされている方だけでなく、お休みされている方や求職中の方、お仕事以外の活動を主にされている方もご回答いただけるとたいへんありがたいです。

ご協力いただいた方には、心ばかりのお礼の品として、クオカード（1,000 円分、全国のコンビニエンスストアなどで使えます）または図書カード（1,000 円分）をお送りしています。間違いなくお届けするため、お礼の品は簡易書留でお送りしております。受け取りにお手数をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

■ ご連絡先が変わった場合は、お知らせください

アンケートや、お礼の品は郵送でお送りしています。間違いなくお届けするため、住所が変わった場合やご結婚などでお名前が変わった場合は、下記の連絡窓口あてにお知らせくださいますようお願いいたします。
郵便物が届かなかった場合の確認のため、電話番号や F A X 番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡をいただけると幸いです。



＜お問い合わせ・ご連絡先＞

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）
「職業サイクル」調査研究事務局 担当：高瀬

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 3-1-3

電話：043-297-9025（月～金曜日 9：15～17：30）

F A X：043-297-9057 e-mail：cyclesav@jeed.or.jp

ホームページについて

本冊子のほか、障害者職業総合センターの研究成果物については、一部を除いて、下記のホームページから PDF ファイルによりダウンロードできます。

【障害者職業総合センター研究部門ホームページ】

<http://www.nivr.jeed.go.jp/>

著作権等について

当研究成果物については、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内であれば、自由に引用することができます。（著作権法第32条1項）

また、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行物に転載することが可能です。（著作権法第32条2項）

その際には出所を明示するなどして、必ず引用及び転載元を明示するとともに、下記までご連絡ください。

また、視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用できない方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等を作成することも認めております。

なお、視覚障害者の方等で本冊子のテキストファイル（文章のみ）を希望されるときもご連絡ください。

【連絡先】

障害者職業総合センター研究企画部企画調整室

電話 043-297-9067

FAX 043-297-9057

調査研究報告書 No.148

障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第5期）

－第5回職業生活前期調査（平成28年度）・

第5回職業生活後期調査（平成29年度）－

編集・発行 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター
〒261-0014
千葉県美浜区若葉3-1-3
電話 043-297-9067
FAX 043-297-9057

発行日 2019年3月
印刷・製本 株式会社 丸井工文社



NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

ISSN 1340-5527

リサイクル適性[Ⓐ]
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。